

若い有権者の意識調査(第 3 回)

調査結果の概要

平成22年 1 月

財団法人 明るい選挙推進協会

はしがき

財団法人明るい選挙推進協会では、若者の投票行動と意識を探り、今後の選挙啓発活動等の参考とするため、昭和63年(1988年)に第1回の「若い有権者の意識調査」を、10年後の平成9年(1998年)に第2回の「若い有権者の意識調査」を実施いたしました。その後更に10年が経過しましたので、今回改めて、若者についての意識調査を実施いたしました。

今回の調査は、調査対象者を満16歳以上30歳未満の全国男女3,000人とする「若者調査」に加えて、若者層と一般有権者の意識の違いを比較するために、満20歳以上の全国男女3,000人を対象とする「有権者調査」を併せて実施いたしました。

調査方法は、過去2回の調査では調査員が直接対象者宅を訪問する面接調査法を採用しておりましたが、昨今調査拒否等が増えるなど回収率が低下しており、しかも今回の調査は特に回収率の低い若者を対象とすることから、郵送調査法を採用いたしました。

本調査の企画及び実施、調査結果の分析及び本報告書の執筆にあたりましては、埼玉大学経済学部の松本正生教授、高知大学人文学部の上神貴佳准教授にご指導、ご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

本調査が、今後の新しい啓発事業の企画検討等のよき参考資料となることを願ってやみません。

財団法人 明るい選挙推進協会

平成22年1月

目次

調査の方法	4
1 調査の設計	4
2 標本抽出方法	5
調査結果の概要	11
1 若い有権者の社会的属性	11
2 価値観	14
3 政治に対する認知	22
3.1 政治的関心	22
3.2 政治的知識	29
4 政治に対する評価	32
4.1 政治的信頼	32
4.2 政治的有效性感覚	34
4.3 政治満足度	38
5 投票に対する態度	41
5.1 投票義務感	41
5.2 投票についての考え方	46
6 政治的社会化	53
6.1 家庭環境	53
6.2 情報環境	55
7 政党支持	65
8 学校教育	69
9 一番印象に残っている政治的出来事	72
10 若干の考察	75
調査票と回答の単純分布	
若者調査	76
有権者調査	83
若者調査と有権者調査結果の回答単純比較	90

調査の方法

今回の若い有権者の意識調査は、経年結果の比較と断面構造の検討という二つの側面から若者の意識を捉えることを目的としている。明るい選挙推進協会ではこれまでに、1988(昭和63)年と、10年後の1998(平成9)年の2回にわたって、若者を対象とした政治意識に関する全国調査を実施してきた。今回はその3回目として、前回(98年)の調査からちょうど10年を経過している(なお、今回の調査は当初、08年秋に実施が予定されていたが、同時期に衆議院議員総選挙が予想されたため、実査を09年1 - 2月に延期した)。10年前の意識および前々回(第1回)を基点とする20年間の意識の位相は、どのようになっているだろうか。

定点観測に関しては、若者調査の対象である若年層は、第1回調査(1988年)は20～29歳、第2回調査(2008年)は18～29歳であったが、今回は16歳にまで引き下げて、16～29歳へと拡大した。これにより、同じ若者の中での未成年者と成人間の比較を詳細に行なうことが可能になった。そして、今回の大きな特色として挙げられるのは、若者意識調査と並行させて、有権者全体を対象とする意識調査をも実施したことだ。二つの調査結果を通じて、若者の意識の特性と付置をより明確に解釈することができよう。なお、同時並行で実施した二つの調査は、質問票と調査(実査)方法を共通に設計している。

両調査の基本的設計は以下の通りである。なお、地点数、抽出結果は、表 - 1および表 - 2の地域・都市規模別地点数・対象者数一覧を参照されたい。

1 調査の設計

調査地域	全国	
調査対象	若者調査	満16歳～満29歳の男女
	有権者調査	満20歳以上の男女
標本数	若者調査	3,000人
	有権者調査	3,000人
標本抽出	若者調査	住民基本台帳を使用
	有権者調査	選挙人名簿を使用
抽出方法	層化2段無作為抽出法	
調査方法	郵送配布郵送回収法	

調査時期 平成21年1月23日～2月15日
事前葉書投函 1月16日
調査票投函 1月22日
1回目督促（葉書）投函 2月3日
2回目督促（封書）投函 2月10日
調査実施委託機関 社団法人 新情報センター

2 標本抽出方法

母集団 若者調査 全国の市区町村に居住する満16歳～満29歳の男女
有権者調査 全国の市区町村に居住する満20歳以上の男女
標本数 若者調査 3,000人
有権者調査 3,000人
地点数 若者調査 173市区町村・210地点
有権者調査 173市区町村・210地点
抽出方法 層化2段無作為抽出法

[層化]

全国の市区町村を、都道府県を単位として次の11地区に分類した。

（地区）

- ・北海道地区 = 北海道
- ・東北地区 = 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- ・関東地区 = 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・北陸地区 = 新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・東山地区 = 山梨県、長野県、岐阜県
- ・東海地区 = 静岡県、愛知県、三重県
- ・近畿地区 = 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・中国地区 = 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・四国地区 = 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・北九州地区 = 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
- ・南九州地区 = 熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

各地区においては、さらに都市規模によって次のように22分類し、それぞれを第1次層として、計62層とした。

- ・大都市（都市ごとに分類）

東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

- ・人口20万人以上の都市

- ・人口10万人以上の都市

- ・人口10万人未満の都市

- ・町村

（注）ここでいう都市とは、平成20年4月1日現在市制施行の地域である。また、人口による都市規模の分類は、住民基本台帳に基づく平成20年3月31日現在の人口による。

地区・都市規模別各層における母集団数（若者調査は平成20年3月31日現在の満16歳～満29歳の人口、有権者調査は平成20年3月31日現在の満20歳以上人口）の大きさによりそれぞれ3,000の標本数を比例配分し、各調査地点の標本数については、若者調査が9～20前後、有権者調査が10～17になるように調査地点数を決めた。

[抽出]

第1次抽出単位となる調査地点として、平成17年国勢調査時に設定された調査区を使用した。

調査地点（調査区）の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における国勢調査時の当該母集団人口(計)}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。また、層内での調査地点数が1地点の場合には、乱数表により無作為に抽出した。

抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成17年国勢調査時の、市区町村コ - ド順に従った。

調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点（町・丁目・番地・地区などを指定）から、住民基本台帳（若者調査）もしくは選挙人名簿（有権者調査）より等間隔抽出法によって抽出した。

結果

以上の抽出作業の結果得られた地区・都市規模別標本数・調査地点数は、次の通りである。()内は調査地点数

表 - 1 若者調査

都市規模 地域	大都市	人口20万人 以上の市	人口10万人 以上の市	人口10万人 未満の市	町村	計
北海道	49 (3)	14 (1)	21 (2)	22 (2)	21 (2)	127 (10)
東北	28 (2)	56 (4)	28 (2)	60 (5)	41 (3)	213 (16)
関東	394 (25)	248 (16)	185 (11)	141 (9)	56 (4)	1,024 (65)
北陸	19 (2)	36 (3)	14 (1)	41 (3)	11 (1)	121 (10)
東山		22 (2)	20 (2)	51 (4)	20 (2)	113 (10)
東海	88 (7)	70 (4)	65 (4)	55 (4)	28 (2)	306 (21)
近畿	153 (11)	147 (10)	63 (4)	97 (6)	29 (2)	489 (33)
中国	28 (2)	50 (4)	48 (3)	30 (3)	14 (1)	170 (13)
四国		36 (3)	11 (1)	27 (2)	13 (1)	87 (7)
北九州	63 (4)	41 (3)	18 (2)	59 (4)	26 (2)	207 (15)
南九州		50 (3)	27 (2)	38 (3)	28 (2)	143 (10)
計	822 (56)	770 (53)	500 (34)	621 (45)	287 (22)	3,000 (210)

表 - 2 有権者調査

都市規模 地域	大都市	人口20万人 以上の市	人口10万人 以上の市	人口10万人 未満の市	町村	計
北海道	45 (3)	16 (1)	22 (2)	25 (2)	26 (2)	134 (10)
東北	24 (2)	56 (4)	32 (2)	68 (5)	46 (3)	226 (16)
関東	373 (25)	236 (16)	177 (11)	141 (9)	57 (4)	984 (65)
北陸	20 (2)	37 (3)	14 (1)	47 (3)	12 (1)	130 (10)
東山		24 (2)	21 (2)	54 (4)	22 (2)	121 (10)
東海	88 (7)	65 (4)	63 (4)	55 (4)	29 (2)	300 (21)
近畿	150 (11)	147 (10)	61 (4)	98 (6)	30 (2)	486 (33)
中国	27 (2)	51 (4)	50 (3)	36 (3)	16 (1)	180 (13)
四国		36 (3)	12 (1)	32 (2)	16 (1)	96 (7)
北九州	55 (4)	39 (3)	20 (2)	61 (4)	26 (2)	201 (15)
南九州		45 (3)	26 (2)	41 (3)	30 (2)	142 (10)
計	782 (56)	752 (53)	498 (34)	658 (45)	310 (22)	3,000 (210)

大都市の標本数及び調査地点数 ()内は調査地点数

〔若者調査〕

東京都区部22(13) 札幌市4(3) 仙台市2(2) さいたま市2(2) 千葉市2(2)
横浜市8(6) 川崎市3(2) 新潟市1(2) 静岡市1(1) 浜松市1(2) 名古屋市5(4)
京都市3(2) 大阪市6(4) 堺市1(2) 神戸市3(3) 広島市2(2) 北九州市2(2)
福岡市4(2)

〔有権者調査〕

東京都区部20(13) 札幌市4(3) 仙台市2(2) さいたま市2(2) 千葉市2(2)
横浜市8(6) 川崎市3(2) 新潟市2(2) 静岡市1(1) 浜松市2(2) 名古屋市5(4)
京都市3(2) 大阪市6(4) 堺市2(2) 神戸市3(3) 広島市2(2) 北九州市2(2)
福岡市3(2)

今回の調査研究には、さらに、副次的ではあるものの、調査方法に関する実験的検証という重要なもう一つの目的が付随する。意識を探索する調査(research)においては、時宜の民意を収集する調査(poll)と異なり、通常、質問票を使用し、調査員が対象者の意見を聞き取る方式、すなわち面接調査法(個別訪問面接聴取法)が採用されることが多い。実際、明るい選挙推進協会の実施した意識調査においても、これまでは面接調査法が用いられてきた。ここで比較の対象とする過去2回 88年・98年 の若者調査も同様の手法で実施されている。ただ、昨今の社会状況、とりわけ、オートロックとインターフォンを標準装備とする住居環境や、プライバシーを重視する態度の広がりなどにより、面接調査における回収率の低落傾向が顕著となってきた。こうした事情を反映して、ここのところ効果的な世論調査の実査方法の一つとして注目されるのが、郵送調査法である。調査票を郵送することで、オートロックとインターフォンの壁を越えて直接対象者本人にリーチすること、調査員が介在しないため対象者のプライバシーが確保されること、面接や電話と違ってこちらから押し掛けていかないので、相手の都合で回答することができ、不在がちな人からも回収することができるなどのメリットがあるとされている。

今回の若者調査および有権者調査では、慎重な検討と議論を経て、意識調査の今後の可能性と方向性の展望を重視し、郵送調査法を採用することとなった。調査の回収結果は、表 - 3、表 - 4の通りである。

表 -3 若者調査・対象者と回答者の構成

性別	年齢	対象者数	回答者数	回収率（％）
男性	16～19	290	204	70.3
	20～24	568	365	64.3
	25～29	657	402	61.2
	小計	1,515	974	64.3
女性	16～19	358	283	79.1
	20～24	524	349	66.6
	25～29	603	441	73.1
	小計	1,485	1,078	72.6
全体		3,000	2,053	68.4

表 -4 有権者調査・対象者と回答者の構成

年齢	対象者数	（構成比率）	回答者数	（構成比率）	回収率（％）
20～29	436	（14.5）	293	（13.2）	67.2
30～39	505	（16.8）	339	（15.2）	67.1
40～49	491	（16.4）	364	（16.4）	74.1
50～59	531	（17.7）	416	（18.7）	78.3
60～69	537	（17.9）	444	（19.9）	82.7
70～	500	（16.7）	356	（16.0）	71.2
全体	3,000	（100.0）	2,226	（100.0）	74.2

有効回収数は若者調査が2,053（68.4％）、有権者調査が2,226（74.2％）となっており、従来の郵送調査に比べ極めて良好な成績である。面接調査と比較した場合も、例えば明るい選挙推進協会の実施した過去2回の若者意識調査の回収率（第1回67.5％、第2回66.1％）を上回っている。とりわけ、若者調査結果（表 -3）における10代後半の未成年者の回収率の高さは注目に値しよう。加えて、有権者調査結果（表 -4）の年代別回収率を見ると、特定の年代における偏りは存在せず、全年代にわたってバランス良く回収され、対象サンプルのランダム性のみならず、回答結果についても相応のランダム性を担保しうることが示唆される。現在、マスコミの世論調査方法として一般化している電話（RDD）調査の場合、全回答者中の20代の割合は5～6％程度に留まることを考慮すると、20代の回答者比率が13％強を占めるという結果は特筆すべきだろう。

なお、郵送調査には、調査員が介在しないために回答者が調査の対象者本人であるかどうか

かを確認する方法がないという問題が存在する。この点は、回収された調査票に関する「無効票」をどのように定義するかということに直結する。今回の調査では、やや厳格ではあるが、対象者をサンプリングした際の原本に相当する「対象者名簿」の記載と、回答者が記入した本人の記載とを比較して、社会的属性のうち 男・女の表記が異なる、 年齢の表記が5歳以上異なる、という2つの条件のいずれかに該当するものを無効票(若者意識調査 = 25、有権者意識調査 = 85)として処理した。表 - 3、表1 - 4の回収率は無効票を除いた数値を掲載している。

以下で展開する本報告書の分析においては、若者の政治意識調査をもとに若者の意識構造を検討するとともに、有権者の政治意識調査結果との比較により、全年代の中で若者調査結果を解釈することも行いたい。今回の調査は、実施時期が08年秋からの経済および雇用状況の急激な悪化という社会環境と重なった。経年比較の検討に際してこの点を考慮に入れる必要がある。また、面接と郵送という調査方法の相違にも留意したい。

以下、「若い有権者の意識調査1988年」を「88年調査」という。

「若い有権者の意識調査(第2回)1998年」を「98年調査」という。

今回の若者調査を、経年比較の場合は「09年若者調査」という。

今回の有権者調査を、経年比較の場合は「09年有権者調査」という。

調査結果の概要

1 若い有権者の社会的属性

以下では、若者調査の対象者である16～29歳の年齢層について、社会的属性構成の特性を見ていこう。まず、学歴に関しては、表1 - 1に明らかなように、全体では高校卒と大学・大学院卒がそれぞれ4割近く、ついで高専・短大卒の2割強となっている。特に20代前半は大学・大学院卒の割合が5割近くを占めており、高学歴化の傾向が伺える。表1 - 2の有権者調査結果からは、全年代の中で20代の大学・大学院卒比率が顕著に高いことが確認される。

表1 - 1 若者調査・最終学歴(未卒含む)(%)

年齢	中学	高校	高専・短大等	大学・大学院	実数
16～19	0.6	76.8	8.8	13.5	488
20～24	3.5	22.1	27.6	46.8	714
25～29	1.9	27.3	30.6	39.7	843
全体	2.1	37.3	24.4	35.9	2,053

表1 - 2 有権者調査・最終学歴(未卒含む)(%)

年齢	中学 (小学校・高等小学校)	高校(旧制中学)	高専・短大等	大学・大学院 (旧制高校・旧制専門学校)	実数
20～29	2.7	11.6	24.6	56.3	293
30～39	3.8	20.4	37.5	33.6	339
40～49	3.8	30.8	35.4	27.2	364
50～59	10.3	33.4	23.3	27.2	416
60～69	22.1	42.3	14.9	15.5	444
70～	44.1	30.9	6.2	14.6	356
全体	15.0	29.3	23.2	27.5	2,226

表1 - 3は、学歴に関して、過去2回の調査結果との比較をまとめたものである。同じ若者調査といっても、88年調査は20～29歳、98年調査が18～29歳、09年若者調査が16～29歳と対象者の年齢構成が異なるため、ここでは各回に共通な20代(20～29歳)における比率に置き換えた。88 98 09へと高校卒比率の減少傾向、対照的に大学・大学院卒比率の増大傾向

向が明確に読みとれる。わけても、98年調査と09年若者調査との間の差が顕著である。

表1 - 3 最終学歴の比較(20代)(%)

	中学	高校	高専・短大等	大学・大学院
88年調査	2.9	50.6	22.0	24.2
98年調査	2.1	42.4	29.3	25.7
09年若者調査	2.6	24.9	29.2	43.0

次に、就業状況(仕事の有無)を表1 - 4で確認してみよう。この表は学歴と同様に20代のみについて、3回の結果を比較したものである。「仕事をしている」と回答した人の割合自体は、この20年間でほとんど変化はない。一方、「仕事をしている」以外について比較すると、学生や無職の継続的な増加傾向と、専業主婦割合の減少傾向とが見られ、職業を持たない人たちの中での構成変化が生じている。全体に対する割合が少ないとはいっても、「仕事をしていない」人たちを一括することには留保が必要である。

09年若者調査における「仕事をしている」人たちの就業形態(正規、派遣など)および職種構成は、表1 - 5と表1 - 6の通りである。就業形態では、派遣、パート等の非正規職員がおよそ3分の1を占めている。これらについては残念ながら質問項目に違いがあるため、過去の調査結果との比較は困難である。

表1 - 4 就業状況の比較(20代)(%)

	仕事をしている	学生	専業主婦	無職
88年調査	68.7	11.5	17.1	2.4
98年調査	70.3	12.9	12.7	4.2
09年若者調査	68.1	18.9	6.6	6.1

表1 - 5 若者調査(20代)・就業形態(%)実数1,061

経営者・役員・管理職	正社員・正職員	派遣社員	パート・アルバイト、契約、臨時、嘱託	自営業(家族従業を含む)	その他	無回答
1.2	63.1	5.7	23.8	4.3	1.0	0.8

表1 - 6 若者調査(20代)・職種構成(%)実数1,061

農・林・水産業に関わる仕事	保安の仕事	運輸・通信の仕事	製造業の仕事	販売・サービスの仕事	専門・技術の仕事	事務の仕事	その他	無回答
2.0	1.9	4.1	17.8	30.0	23.2	14.8	4.6	1.2

さらに、未・既婚状況(結婚の有無)について、同様の集計を行った表1 - 7を見ると、20年間にける既婚者の継続的減少、裏返せば未婚者の継続的増加傾向を確認することができる。未婚者のうち71.8%は親や家族と同居しており、仕事の有無や結婚の有無に見られるこの傾向は、いわゆるパラサイト・シングルと呼称される「単身の若者」が多数を占める社会の現状と符合する(表1 - 8)。

以上のように、98年調査と09年若者調査の割合には大きな差があり、人々の意識の前提条件、言い換えるならば与件ともいえるべき社会構造に変容が生じていることが示唆されよう。

表1 - 7 未婚・既婚状況の比較(20代)(%)

	未婚	既婚
88年調査	66.5	33.3
98年調査	71.7	28.1
09年若者調査	79.5	20.3

88 年調査と 98 年調査については、既婚 = 既婚 + 有配偶 + 死別。

表1 - 8 未婚者の親との同居状況(20代)(%)

一人住まい	23.7
親や家族と同居	71.8
その他	3.8
無回答	0.6

2 価値観

若者のライフスタイルや社会生活に関する意識について、ここでは価値観というまとめ方で概観したい。価値観については、いくつかの質問回答で若者独自の特性を確認することができる。

例えば、「将来のことよりも今の生活を楽しみたい」という考え方についてどう思うかという質問に対し「そう思う」と回答した割合は、有権者全体では14.3%と少ないが、年齢層別に見ると、20代(若年層)と70歳以上(高年層)の割合が高い。「どちらかといえばそう思う」までを含めると20代、60代、70代、特に70代が高い(図2-1)。この傾向は、われわれのライフステージに置き換えてみれば、実社会との関わり方の強弱ないし濃淡の度合いと符合しており納得がいくだろう。男女別では、男性は20代と70歳以上が、女性は60代以上が「将来のことよりも今の生活を楽しみたい」とする割合が高い(図2-2)。

図2-1 有権者調査・Q1(3)将来のことよりも今の生活を楽しみたい

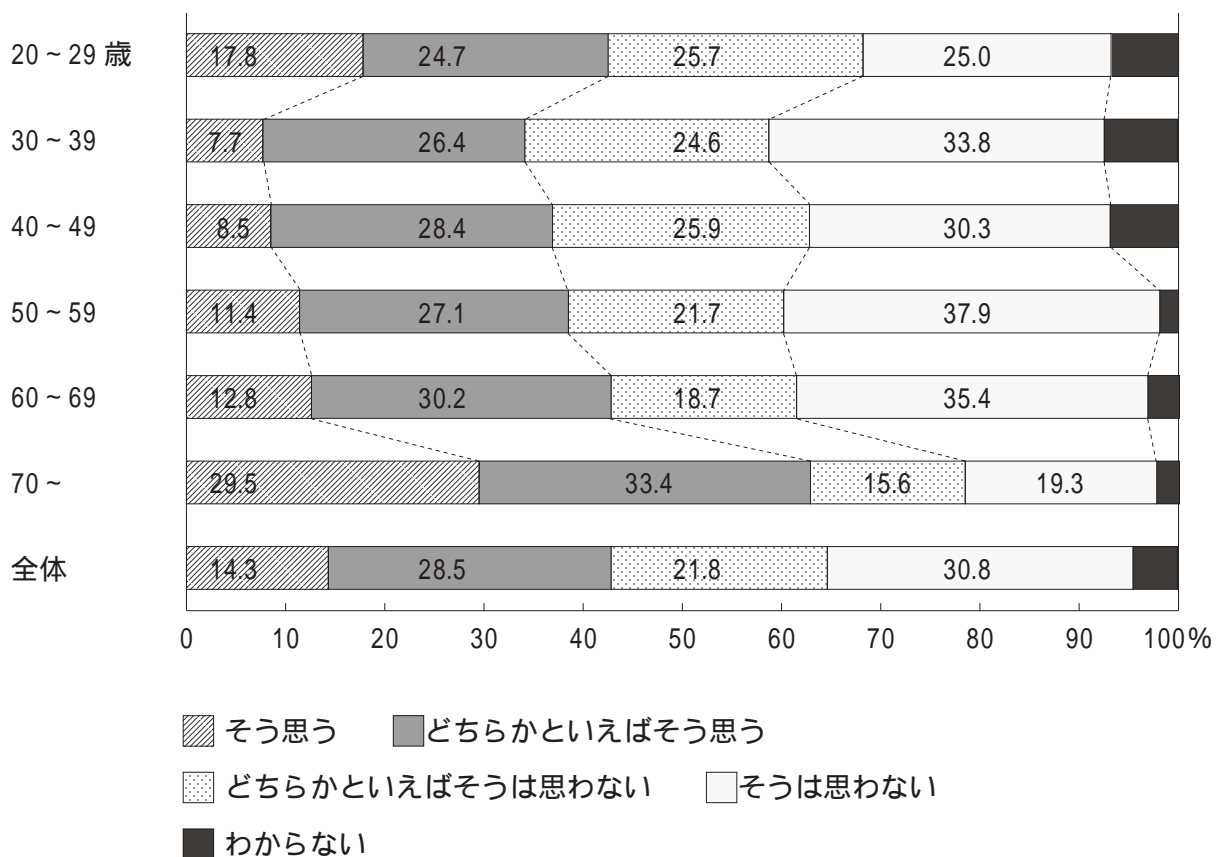


図2 - 2 有権者調査・Q1(3)将来のことよりも今の生活を楽しみたい。
(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)

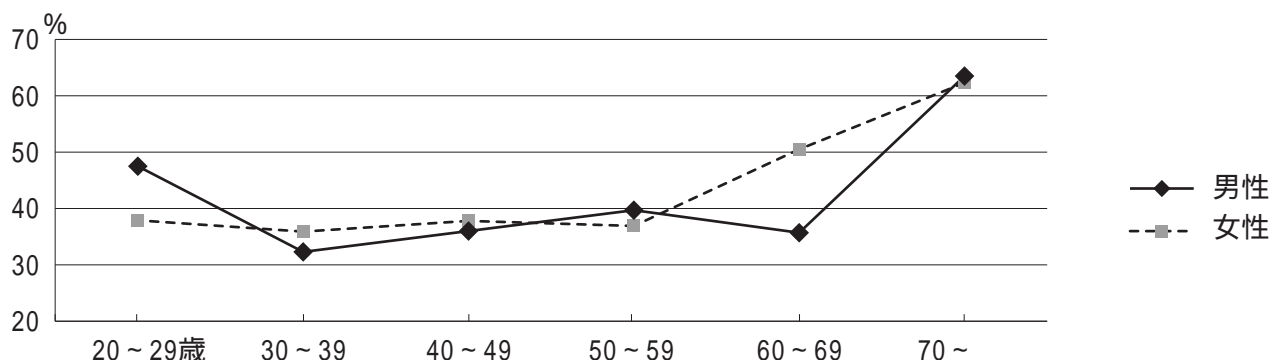


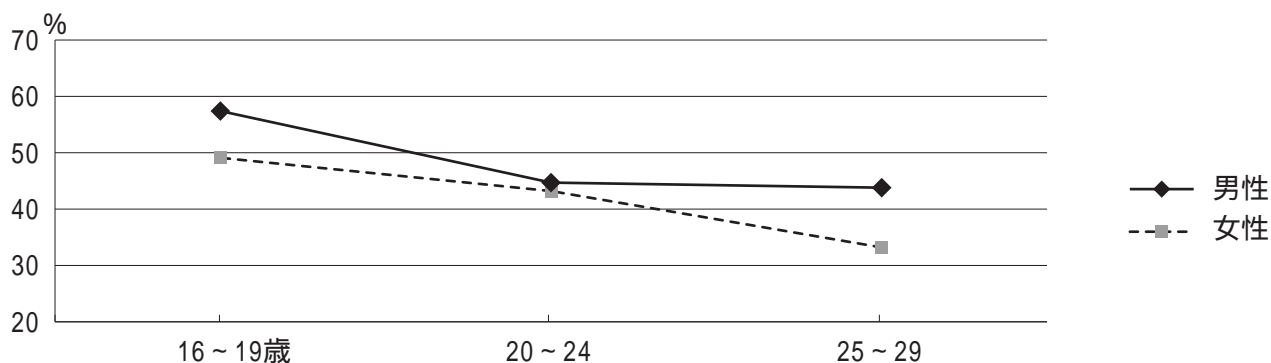
表2 - 1のこの質問に対する若者調査結果からは、若者における加齢効果を確認することができる。つまり、将来よりも今の生活を楽しむことを肯定する態度は、10代後半から20代前半へ、そして20代後半へと年齢が上がるに連れて減少していき、これと反比例する形で否定する態度が増加していく。加えて、男女別の図2 - 3からは、図2 - 2の20代に見られた傾向と同様に、20代後半及び10代後半で、「将来よりも今」を肯定する割合が、女性よりも男性で高いことを確認できる。

就業状況別の調査結果では、専業主婦に「そうは思わない」とする割合が顕著に高いこと、未・既婚別の調査結果では、既婚者に「否定派」が多く未婚者に「肯定派」が多いことを重ね合わせると、家族を持つことにより、不安とともに将来のことを考えるようになるとの解釈が可能になる。なお、どの年齢層についても、学歴に沿った大きな差は存在しない。

表2 - 1 若者調査・Q1(3)将来のことよりも今の生活を楽しみたい(%)

年齢	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそうは思わない	そうは思わない	わからない	実数
16～19	22.1	30.4	19.6	19.8	8.1	484
20～24	14.5	29.5	24.4	24.6	7.0	712
25～29	10.5	27.8	20.4	34.7	6.7	842
全体	14.6	29.0	21.6	27.6	7.1	2,038

図2 - 3 若者調査・Q1(3)将来のことより今の生活を楽しみたい
(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)



次いで表2 - 2を参照されたい。「仕事や勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ」に対し「はい」と回答する割合は、20代から60代にかけて経年的に減少していき、70歳以上で再び増加に転じている。図2 - 4で見ると男女間の相違も存在しない。反対に「いいえ」の割合が示す形状は、いわゆる投票率パターン(我が国の選挙における年齢別の投票率には、20代から60代までは年齢が上がるに連れて上昇し、60代をピークに年齢が上がるに連れて下降する)に相当する。

この質問に対する若者調査結果を見ると(図2 - 5)、有権者年齢を境にして20歳以上の成人と20歳未満の未成年者との間に、有意な差が存在している。若者にとって「成人」年齢がそれ相応の自覚の契機となっていることを示唆している。ただ、男女別の図2 - 6によると、こうした傾向が男性には明確に存在するものの、女性についてはそれほど顕著でない。

学歴に沿った意識の相違は、先の「今志向」についてと同様、確認できなかった。

表2 - 2 有権者調査・Q2仕事や勉強より家族や友人と過ごす時間が大切(%)

年齢	はい	いいえ	実数
20～29	55.6	44.4	293
30～39	41.3	58.7	339
40～49	33.2	66.8	364
50～59	27.2	72.8	416
60～69	20.7	79.3	444
70～	32.9	67.1	356
全体	33.9	66.1	2,212

図2 - 4 有権者調査・Q2仕事や勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ
(「はい」と回答した人の割合)

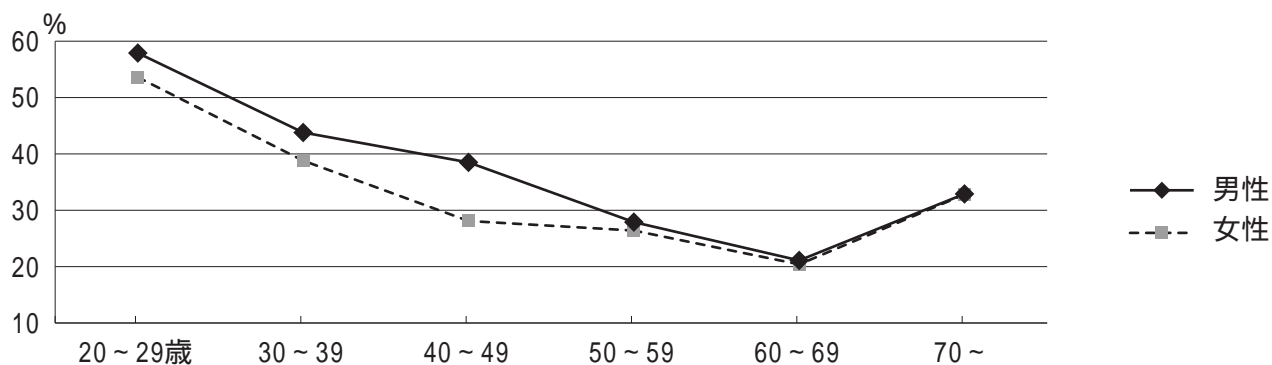


図2 - 5 若者調査・Q2 仕事や勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ

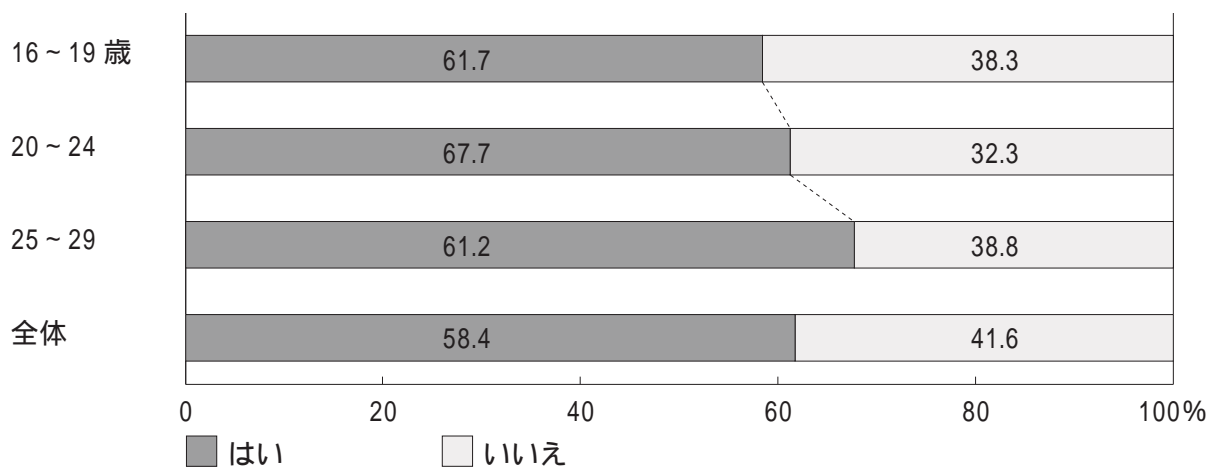
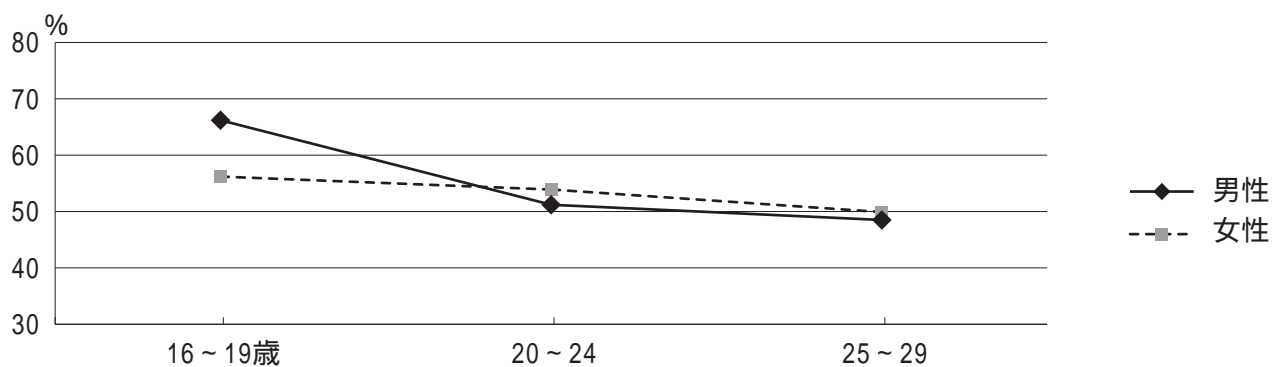


図2 - 6 若者調査・Q2仕事や勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ
(「はい」と回答した人の割合)



「ゴミのポイ捨てをすることがある」に「はい」と回答した人は、有権者調査で15.3%（20代19.6%）若者調査で19.5%、「電車やバスの中で化粧する人を見ても気にならない」に「はい」と回答した人は有権者調査で21.8%（20代28.8%）若者調査で31.6%、「ボランティア活動に興味がない」に「はい」と回答した人は有権者調査で19.8%（20代24.4%）若者調査で22.4%となっており、若年層は他世代に比べてこれらの考えを肯定する割合が高いという特色が伺える（表2 - 3）。

表2 - 3 Q2自分にあてはまると思いますか「はい」と回答した人の割合（%）

質問	有権者調査		若者調査
	全体	20代	
ゴミのポイ捨てをすることがある	15.3	19.6	19.5
電車やバスの中で化粧する人を見ても気にならない	21.8	28.8	31.6
ボランティア活動には興味がない	19.8	24.4	22.4
実数	1,597	250	1,758

同じ価値観の質問でも「生活できるならば定職につく必要はない」に関する回答傾向は大きく異なる。表2 - 4の有権者調査結果をご覧ください。「定職につく必要はない」に対し明確に「そうは思わない」と回答する割合は、20代から70歳以上に至るまで全年齢層にわたって極めて高い割合を示している。年齢のみならず性別（図2 - 7）についても、20代の男女で10ポイントの差があることを除き、ほとんど差がない。

表2 - 5の若者調査結果を見ると、「そうは思わない」割合は、成人よりも未成年の方が高い割合を示している。加えて、男女（図2 - 8）学歴（表2 - 6）による相違も見受けられない。若者、わけでも10代におけるこの傾向は、時勢の影響だろうか。確かに、今回の若者調査結果には、各質問に共通して堅実な回答の割合が高いという特性が見受けられる。「非正規社員」という言葉、ないし「正規」・「非正規」の区分用語が一般化した昨今の状況からして、彼ら若者も世の中の雰囲気敏感にならざるを得ないのだろう。いずれにせよ、若者は相応のプレッシャーを感じていることが伺われる。

表2 - 4 有権者調査・Q1(4)生活できるならば定職につく必要はない(%)

年齢	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそうは思わな い	そうは思わない	わからない	実数
20～29	7.9	12.3	11.3	66.4	2.1	292
30～39	6.8	6.2	11.2	71.4	4.4	339
40～49	7.2	6.3	13.2	72.2	1.1	363
50～59	7.5	8.9	9.7	72.9	1.0	414
60～69	4.5	5.0	11.3	78.2	1.1	444
70～	10.5	10.8	7.7	69.5	1.4	351
全体	7.3	8.0	10.7	72.2	1.8	2,203

図2 - 7 有権者調査・Q1(4)生活できるなら定職につく必要はない
(「どちらかといえはそう+そうは」思わないと回答した人の割合)

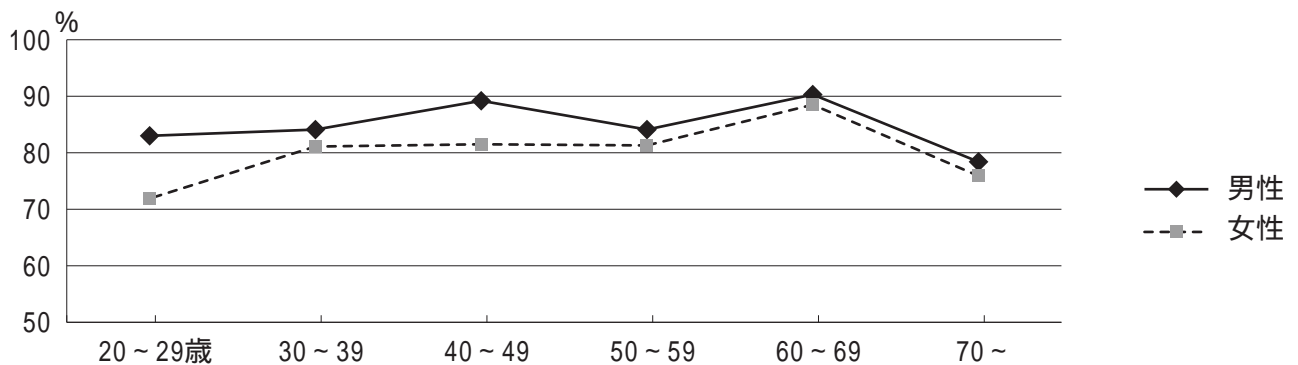


表2 - 5 若者調査・Q1(4)生活できるならば定職につく必要はない(%)

年齢	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそうは思わな い	そうは思わない	わからない	実数
16～19	4.7	7.0	13.1	71.3	3.9	487
20～24	9.4	8.4	13.2	65.1	3.9	714
25～29	10.4	9.6	11.4	65.6	3.0	843
全体	8.7	8.6	12.4	66.8	3.5	2,044

図2 - 8 若者調査・Q1(4)生活できるならば定職につく必要はない
(「どちらかといえば+そうは」思わないと回答した人の割合)

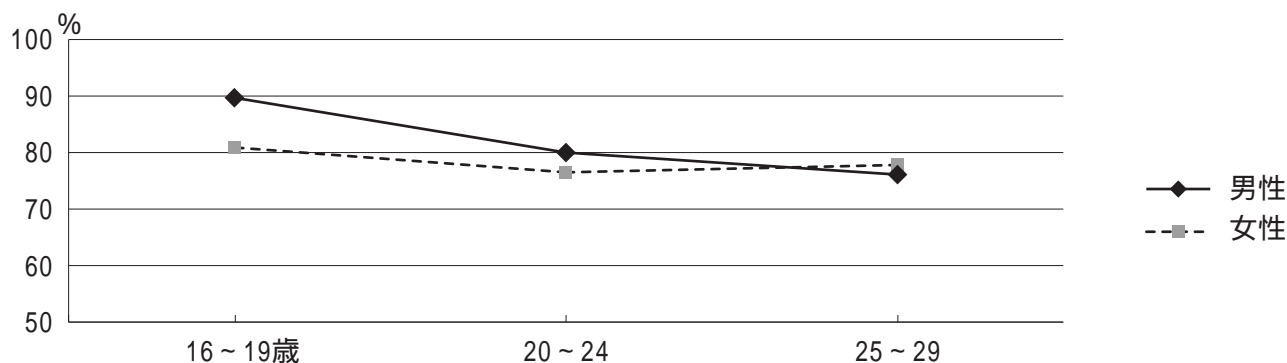


表2 - 6 若者調査・Q1(4)生活できるならば定職につく必要はない(%)

年齢	学歴	そう+どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ば+そうは思わない	わからない	実数
16～19	中学・高校	13.0	82.8	4.2	378
	高専・短大等	7.1	90.5	2.4	42
	大学・大学院	7.6	89.4	3.0	66
	全体	11.7	84.4	3.9	486
20～24	中学・高校	18.6	76.0	5.5	183
	高専・短大等	19.8	78.7	1.5	197
	大学・大学院	16.2	79.3	4.5	334
	全体	17.8	78.3	3.9	714
25～29	中学・高校	22.0	74.8	3.3	246
	高専・短大等	18.2	78.3	3.5	258
	大学・大学院	20.3	77.3	2.4	335
	全体	20.1	76.9	3.0	839
全体	中学・高校	17.0	78.8	4.2	807
	高専・短大等	17.9	79.5	2.6	497
	大学・大学院	17.3	79.3	3.4	735
	全体	17.3	79.2	3.5	2,039

若者の堅実な考えは表2 - 7の調査結果からも伺える。「努力すればいつか報われる」という考えに「そう思う」と回答した人は有権者調査が38.8%(20代37.1%)、若者調査が38.3%で、世代間の差はほとんどない。ただし、70歳以上の人は「そう思う」という人の割合が高い。

「みんなが力を合わせたら社会を変えることができる」という考えに、「そう思う」と回答した人は、有権者調査では45.0%(20代43.5%)、若者調査では41.0%、特に70歳以上の人に「そう思う」と回答した人が多い(表2-8)。

なお、就業(仕事の有無)や未婚・既婚状況(結婚の有無)などについても、回答結果とのクロス集計をもとに比較検討したが、先に取り上げた「将来のことよりも今の生活を楽しみたい」について以外には固有の特徴は確認できなかった。

表2-7 Q1(1)努力すればいつか報われる(%)

調査	年齢	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそうは思わない	そうは思わない	わからない	実数
有権者調査	20～29	37.1	44.3	6.2	7.6	4.8	291
	30～39	32.7	51.0	5.6	8.3	2.4	339
	40～49	32.7	51.4	6.3	7.4	2.2	364
	50～59	38.0	44.0	6.0	8.4	3.6	416
	60～69	39.0	47.3	4.1	6.8	2.9	444
	70～	53.0	36.3	4.2	3.1	3.4	353
	全体	38.8	45.8	5.3	6.9	3.2	2,207
若者調査	16～19	40.8	42.0	5.3	7.4	4.3	487
	20～24	37.5	41.7	8.3	9.4	2.9	713
	25～29	37.5	46.0	5.9	6.4	4.2	843
	全体	38.3	43.6	6.6	7.7	3.8	2043

表2-8 Q1(2)みんなが力を合わせたら社会を変えることができる(%)

調査	年齢	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそうは思わない	そうは思わない	わからない	実数
有権者調査	20～29	43.5	34.2	10.6	8.2	3.4	292
	30～39	38.9	41.0	7.1	8.6	4.4	339
	40～49	37.4	45.3	8.8	4.7	3.8	364
	50～59	43.8	40.9	4.8	6.5	4.1	416
	60～69	48.2	38.5	5.6	5.4	2.3	444
	70～	57.5	31.2	5.9	2.5	2.8	353
	全体	45.0	38.7	6.9	5.9	3.4	2,208
若者調査	16～19	44.5	33.2	7.6	9.0	5.5	487
	20～24	40.1	36.1	8.8	10.6	4.3	714
	25～29	39.7	35.9	9.1	8.7	6.4	842
	全体	41.0	35.4	8.7	9.4	5.5	2,043

3 政治に対する認知

以下では、人々の政治に対する認識の度合いを探るため、政治的関心と政治的知識についての質問の回答を検討する。

結論から述べると、過半数の人々が政治に対する関心を示しており、その割合は増加している。また、年齢が高いほど、教育程度が高いほど、政治に対する関心は高く、その認識は正確といえる。

3.1 政治的関心

ここでは、政治的な関心について検討する。具体的には、政治的な議論の機会や、国と地方の政治に対する関心について、それぞれの質問に対する回答を分析する。

まず、政治に関する議論の頻度について、若者調査の20代を対象に、過去の調査の結果と比較したものが表3 - 1である。「あなたは誰かと政治的な事柄を話題にしたり、議論したりすることがありますか」という質問に対し、「毎日」、「週に何回か」、「週に一度ぐらい」と回答した人の割合を合計すると、いずれの調査時点においても、過半数を上回るか、それに近くなる。また、09年若者調査を98年調査と比べると、「まったくない(全然ない)」という回答が22%と半減していることがわかる。調査の方法や回収率が異なるため、比較には注意が必要であるが、政治的な議論の機会は少なくなき、むしろ多くなっているともいえる。

09年調査について、全体の結果を見ると、20歳以上を対象とする有権者調査では、66.9%が「毎日」、「週に何回か」、「週に一度ぐらい」と回答している。16歳から29歳を対象とする若者調査では、このように回答する人の割合は全体の57.1%と、有権者調査より少なくなっている。

表3 - 1 Q3誰かと政治的な事柄を話題にしたり議論したりすることがありますか(%)

	88年調査	98年調査(20代)	09年若者調査(20代)
毎日ある	2.6	1.7	3.2
週に何回かある	18.2	14.5	19.2
週に一度ぐらいある	30.7	30.6	36.9
まったくない(全然ない)	40.8	46.2	22.0
その他	5.8	4.6	13.4
わからない	2.1	2.4	5.2

さらに、男女別、年齢別に上記の結果を区分して見てみよう。有権者調査の結果によると、男性、女性ともに、40代までは政治的な議論を行う機会が増えるが、男性は50代で一端落ち込んだ後に回復して横ばい、女性は50代でピークを迎えた後に緩やかに減少している(図3 - 1)。

一方、若者調査の結果によると(図3-2) 年齢が上がるに連れて、政治的な議論を行う機会も緩やかに増えている。また、男性より女性の方がその機会は相対的に少ない。

図3-1 有権者調査・Q3誰かと政治的な事柄を話題にしたり、議論をすることがありますか
(「毎日+週に何回か+週に一度ぐらい」と回答した人の割合)

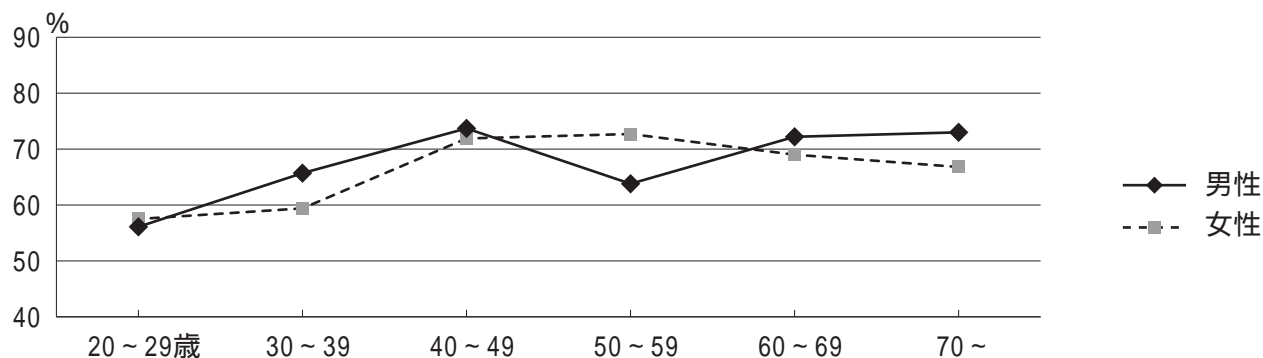
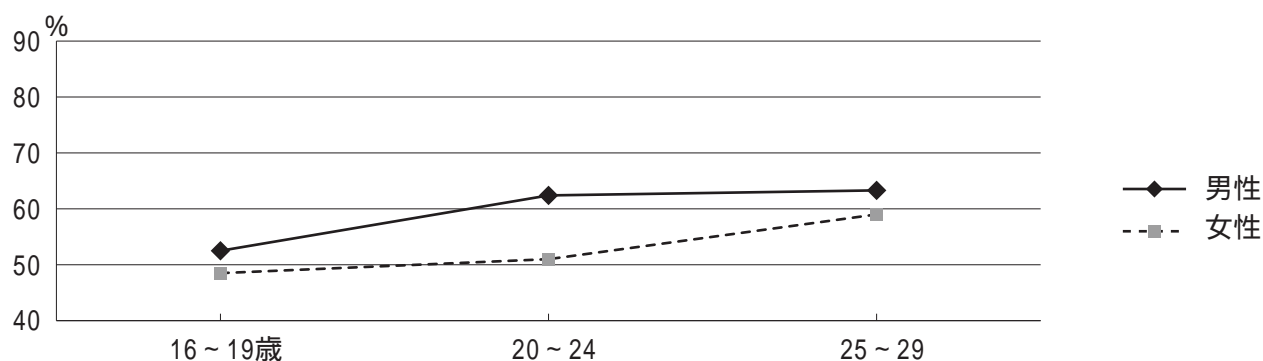


図3-2 若者調査・Q3誰かと政治的な事柄を話題にしたり、議論をすることがありますか
(「毎日+週に何回か+週に一度ぐらい」と回答した人の割合)



若者調査について、年齢別に学歴による違いを表3-2で見る。「毎日+週に何回か+週に一度ぐらい」という回答は、年齢層ごとに見ると学歴が高くなるに連れて増えていることがわかる。つまり、年齢を一定としても、学歴による違いが残ることを意味している。

表3 - 2 若者調査・Q3誰かと政治的な事柄を話題にしたり、議論をすることがありますか(%)

年齢	学歴	毎日 + 週に何回か + 週に一度ぐらい	まったくない	その他 + わからない	実数
16 ~ 19	中学・高校	48.9	31.2	19.8	378
	高専・短大等	50.0	33.3	16.7	42
	大学・大学院	56.1	31.8	12.1	66
	合計	50.0	31.5	18.5	486
20 ~ 24	中学・高校	47.0	31.7	21.3	183
	高専・短大等	54.6	25.5	19.9	196
	大学・大学院	64.7	19.2	16.2	334
	合計	57.4	24.1	18.5	713
25 ~ 29	中学・高校	51.6	26.4	22.0	246
	高専・短大等	59.5	23.3	17.1	257
	大学・大学院	69.6	12.5	17.9	335
	合計	61.2	19.9	18.9	838
全体	中学・高校	49.3	29.9	20.8	807
	高専・短大等	56.8	25.1	18.2	495
	大学・大学院	66.1	17.3	16.6	735
	合計	57.2	24.2	18.7	2,037

さらに、社会的なネットワークとの関係についても表3 - 3で見てみよう。何らかの団体に加入している人は、そうでない人よりも、政治的な議論の機会が多くなるのではないか。そこで、団体加入の有無と議論の機会の関係を示した。それによると、団体に加入していない回答者は、加入している回答者よりも議論の機会が少ない回答者が若干多いようである。

また、「加入している」として挙げられた団体の数と議論の頻度について、相関係数(注)を算出すると、0.144と強くはないが統計的に有意な結果を得た(1%水準)。

(注) 相関係数は二つの変数間における相互関連の程度を示す指標であり、-1から+1の値をとる。

- の符号は逆比例、+ の符号は正比例の関係を示す。0は無相関、すなわち関係が見いだせないことを示す。また、文中の「1%水準で統計的に有意である」とは、相関係数が統計的に信頼できるものか検証した結果、二つの変数に関係があるにもかかわらず、関係がないと誤った判断を下してしまう確率が1%以下であることを意味している。

表3 - 3 若者調査・F6団体加入×Q3誰かと政治的な事柄を話題にしたり議論をすることがありますか(%)

団体加入	政治的な事柄を話題にするか			実数
	毎日+週に何回か+週に一度くらい	まったくない	その他+わからない	
加入していない	54.1	27.3	18.6	1,103
加入している	63.8	18.5	17.7	841
全体	57.2	24.2	18.6	1,944

次いで、より直截に政治への関心を質問した結果を見てみよう。「あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか」という質問への回答について、20代を対象に、過去の若者調査と比較すると(図3-3) 09年若者調査では「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」という回答の合計割合は60%近くに上り、顕著に増えている。特に、「ある程度関心がある」という回答の割合が半数を超える一方、「あまり関心がない」という回答の割合は10ポイント以上も少なくなっている。政治的な議論の機会に関する質問と同様の傾向を示しているといえよう。

09年有権者調査の回答者全体では、80.2%が「非常に+ある程度」の関心があるとしている。また、09年若者調査の回答者全体では、「関心がある」という回答は57.4%で、やはり有権者調査の結果よりも低い。

有権者調査の結果を用いて、各年齢層における政治的関心の推移を図3-4で男女別に見る。男女ともに60代で頭打ちになるまで増加する傾向を見て取れる。「政治について議論する」という回答の割合が比較的早くピークを迎えるのとは対照的である。また、女性より男性の方が関心は高いようである。

図3 - 3 Q4国や地方の政治にどの程度関心がありますか

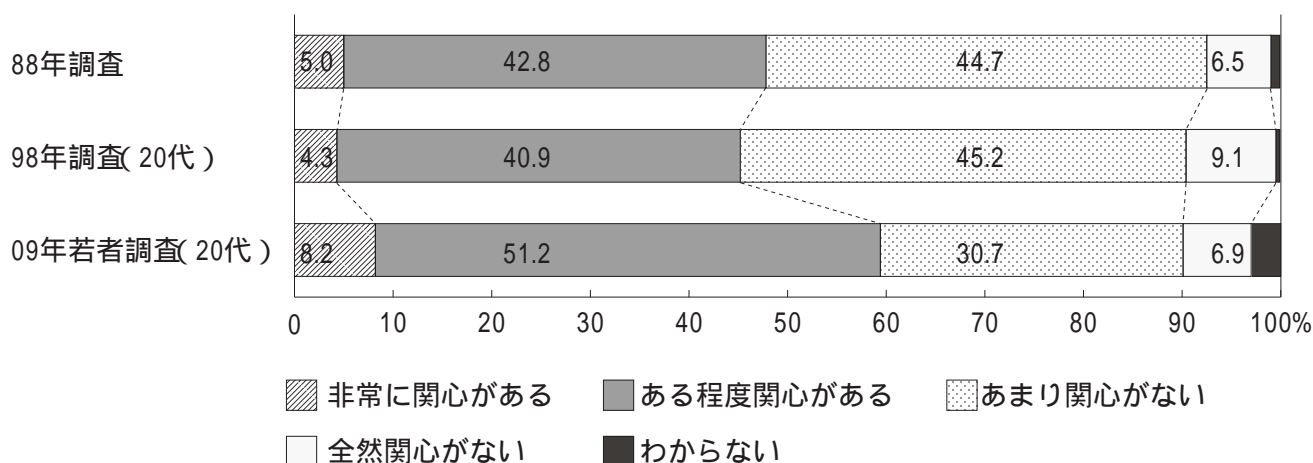
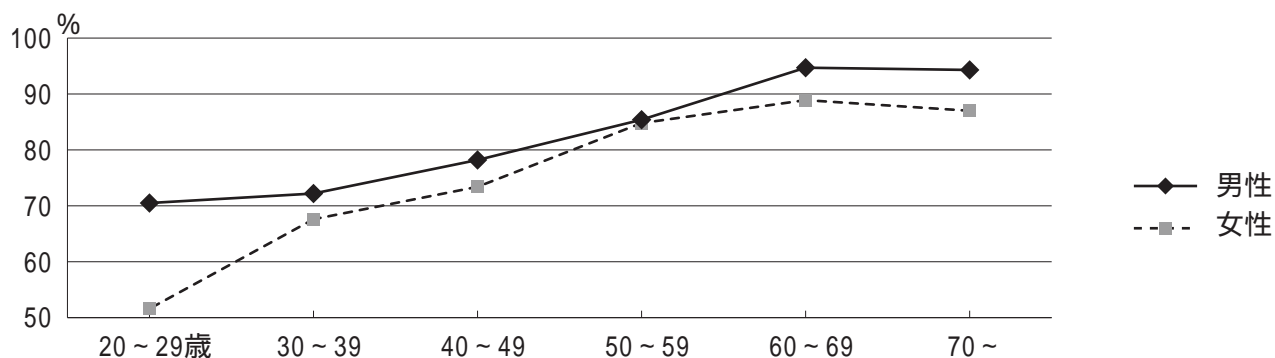


図3 - 4 有権者調査・Q4国や地方の政治にどの程度関心がありますか
（「非常に＋ある程度」と回答した人の割合）



若者調査の結果を見ると(図3 - 5)、政治的な議論の機会と同様に、男性、女性ともに、政治的な関心は年齢が上がるに連れて増加している。ここでも、男女の差が見られるが、有権者調査の20代ほどの違いはない。

再び、今回の若者調査について、年齢別に学歴による違いを検討した(表3 - 4)。「非常に」と「ある程度」関心があるという回答の合計割合を年齢層ごとに見ると、未成年者を除き、学歴が高くなるに連れて、その割合が増えており、政治的な議論の機会に関する質問と似た結果となっていることがわかる。

図3 - 5 若者調査・Q4国や地方の政治にどの程度関心がありますか
（「非常に＋ある程度」と回答した人の割合）

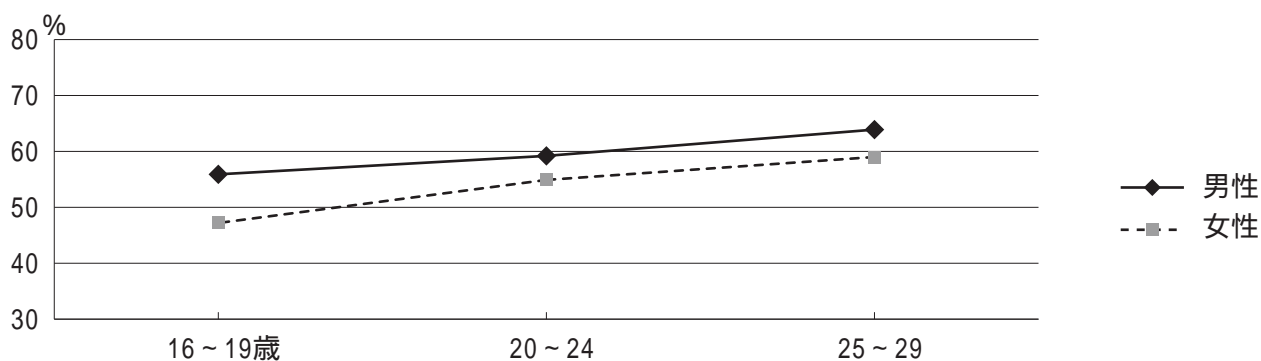


表3 - 4 若者調査・Q4国や地方の政治にどの程度関心がありますか(%)

年齢	学歴	非常に + ある程度ある	あまり + 全然ない	わからない	実数
16 ~ 19	中学・高校	51.1	43.9	5.0	378
	高専・短大等	47.6	40.5	11.9	42
	大学・大学院	53.0	47.0	0.0	66
	全体	51.0	44.0	4.9	486
20 ~ 24	中学・高校	46.4	50.3	3.3	183
	高専・短大等	56.1	38.3	5.6	196
	大学・大学院	63.5	35.6	0.9	334
	全体	57.1	40.1	2.8	713
25 ~ 29	中学・高校	54.5	42.3	3.3	246
	高専・短大等	53.5	41.5	5.0	258
	大学・大学院	72.5	26.3	1.2	335
	全体	61.4	35.6	3.0	839
全体	中学・高校	51.1	44.9	4.1	807
	高専・短大等	54.0	40.1	5.8	496
	大学・大学院	66.7	32.4	1.0	735
	全体	57.4	39.2	3.4	2,038

再び、社会的ネットワークとの関係について見る(表3 - 5)。ここでも、団体に加入しているという回答者は、そうでない人よりも、政治的な関心の程度が高い人が若干多いようである。なお、団体加入数との関係については、統計的に有意ではあるが、さらに弱い関係しか検出できなかった(相関係数は0.1、1%水準で有意)。

表3 - 5 若者調査・F6団体加入×Q4あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか(%)

団体加入	政治への関心			
	非常に + ある程度ある	あまり + 全然ない	わからない	実数
加入していない	54.7	41.6	3.7	1,104
加入している	62.3	36.0	1.7	841
全体	57.2	39.2	3.5	1,945

最後に、政治的関心と「努力すればいつか報われる」(表3-6)「みんなの力で社会を変えられる」(表3-7)という価値観との関係を見ておこう。両者ともに、「そう思う」ないし「どちらかといえばそう思う」と回答する人は、そうではない人と比べて、政治に対する関心が高い人が多いことがわかる。「努力すればいつか報われる」や「みんなの力で社会を変えられる」という価値観は無力感とは反対の感覚であり、自分や周囲の人々の力を信じられる人が政治に関心を向けるということは納得できる。

表3-6 若者調査・Q1(1)努力すればいつか報われる×
Q4国や地方の政治にどの程度関心がありますか(%)

努力	政治への関心			
	非常に + ある程度ある	あまり + 全然ない	わからない	実数
そう + どちらかといえばそう思う	60.2	36.6	3.2	1,676
どちらかといえばそう + そうは思わない	45.9	50.0	4.1	294
わからない	38.8	50.0	11.3	80
全体	57.3	39.1	3.6	2,050

表3-7 若者調査・Q1(2)みんなが力を合わせたら社会を変えることができる×
Q4あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか(%)

みんなの力	政治への関心			
	非常に + ある程度ある	あまり + 全然ない	わからない	実数
そう + どちらかといえばそう思う	62.3	34.5	3.3	1,563
どちらかといえばそう + そうは思わない	42.7	54.3	3.0	372
わからない	37.4	52.2	10.4	115
全体	57.3	39.1	3.6	2,050

以上の二つの政治的関心に関連する質問への回答をまとめると、若者の政治に対する関心は近年増大しているといえる。また、年齢が上がると関心が高くなるが、政治的な議論の機会の多さは比較的早く頭打ちの傾向を見せる。若年層内部においては、年齢が上がるほど、また、学歴が高いほど、関心も概ね高いといえる。さらに、ある種の有効性感覚と政治的関心には関係がある。自らや周囲の人々の力を信じられるという価値観の持ち主は関心が比較的に高いようである。

3.2 政治的知識

次に、政治的知識に目を転じよう。具体的には、各政党の党首について、正しい名前を回答してもらう質問と、期日前投票の認知度に関する質問の回答を検討する。

まず、党首名の正解率であるが、有権者調査の結果によると(表3-8)自民党と民主党という二大政党については、全年齢層で正解率が極めて高く、9割を超えている。しかし、その他の政党についての正解率は、2大政党に比べて概ね低く、特に20代においては、60%近辺と低い。正解率は60代でピークを迎えるまで、年齢が上がるに連れて概ね上昇している。

表3-8 有権者調査・Q15政党の現在の党首：正解

年齢	自民党		民主党		公明党		共産党		社民党		国民新党	
	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数
20～29	95.3	255	91.9	248	58.8	211	66.2	204	65.9	205	54.6	194
30～39	98.4	308	96.4	302	63.6	261	86.3	249	88.5	253	74.9	235
40～49	98.0	345	94.2	342	66.7	297	83.9	298	91.4	303	71.0	276
50～59	99.5	393	97.5	398	76.5	357	90.2	347	92.9	364	77.7	328
60～69	99.1	434	97.6	415	89.7	388	93.3	388	99.0	390	83.4	355
70～	99.0	310	98.3	290	91.3	253	91.6	251	96.1	256	78.1	233
全体	98.4	2,045	96.2	1995	75.8	1,767	86.6	1,737	90.7	1,771	74.7	1,621

次に、若者調査の回答者全体の正解率は、自民党95.2%、民主党91.3%、公明党54.9%、共産党63.6%、社民党64.4%、国民新党54.3%である。表3-9で、年齢と学歴による違いを見る。有権者調査と同様、自民党と民主党を除くと、未成年者においては正解率が低く、年齢が上がるに連れて正解率が上昇するという関係が見られる。ただし、公明党については、その関係は他党ほど顕著でない。また、二大政党以外の政党について、特に20代後半の年齢カテゴリーにおいて、学歴が高いと正解率も高いという関係が見られる。

表3-9 若者調査・Q15政党の現在の党首：正解

年齢	学歴	自民党		民主党		公明党		共産党		社民党		国民新党	
		%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数
16～19	中学・高校	91.9	344	84.3	324	46.9	273	52.1	267	55.9	272	41.0	256
	高専・短大等	92.3	39	79.5	39	52.9	34	48.5	33	51.5	33	30.3	33
	大学・大学院	93.8	65	90.5	63	54.5	55	50.9	55	61.8	55	50.9	53
	全体	92.2	448	84.7	426	48.6	362	51.5	355	56.4	360	41.5	342
20～24	中学・高校	90.3	154	87.2	148	57.9	121	59.3	113	58.6	116	48.1	106
	高専・短大等	96.0	175	93.3	164	53.8	143	59.1	137	62.7	134	56.2	130
	大学・大学院	96.5	317	93.3	315	55.0	271	66.7	264	60.8	273	56.5	255
	全体	94.9	646	91.9	627	55.3	535	63.0	514	60.8	523	54.6	491
25～29	中学・高校	96.2	210	94.5	199	50.9	163	60.6	155	68.4	155	52.1	144
	高専・短大等	97.0	230	92.0	224	59.1	193	68.6	185	66.1	192	58.4	173
	大学・大学院	97.9	328	96.9	321	61.8	285	78.3	272	77.6	281	68.3	265
	全体	97.1	768	94.8	744	58.2	641	70.9	612	71.8	628	61.3	582

政治に対する関心の高い人は、政治的な知識を多く持っていると考えられる。そこで、政治的関心の程度と党首名の正解率との関係を表3 - 10で見ると、政治的な関心が「非常に」ないし「ある程度」あるという回答者と、「あまり」ないし「全然」ないという回答者とでは、二大政党では正解率そのものがそもそも高いためそれほど大きな正解率の違いはないが、それ以外の政党では関心が高い方が正解率は高い。

表3 - 10 若者調査・Q4国や地方の政治にどの程度関心がありますか×Q15現在の党首：正解

政治への関心	自民党		民主党		公明党		共産党		社民党		国民新党	
	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数
非常に + ある程度ある	97.8	1,101	94.6	1,079	61.9	945	70.7	904	70.7	923	59.9	866
あまり + 全然ない	91.7	714	86.5	673	43.4	560	52.5	547	54.7	559	45.9	519
わからない	87.7	57	84.9	53	50.0	40	55.3	38	50.0	36	38.9	36
全体	95.2	1,872	91.3	1,805	54.9	1,545	63.6	1,489	64.4	1,518	54.3	1,421

次に、期日前投票の認知度についてはどうであろうか。全体を通して見ると、若者調査では「知っている」という回答の割合が71.3%、有権者調査では92.3%である。平成21年8月に実施された第45回衆議院議員総選挙においては、1,398万人が期日前投票制度を利用しており、周知が進んできたといえよう。

20歳以上を対象とする有権者調査においては、この質問の回答には年齢による大きな違いは見られなかった。しかし、16歳から29歳までの若者調査に限定すると(表3 - 11)、「知っている」という回答の割合は年齢が上がるに連れて顕著に増えている。特に未成年者においては、過半数をわずかに上回るに過ぎない。また、それぞれの年齢層において、学歴が高いほど認知度が高いという関係も見られる。

さらに、期日前投票を知っているという回答者に対して、期日前投票に関するいくつかの記述のうち正しいと思うものを挙げてもらった(表3 - 12)。期日前投票をすることができる理由については、よく知られているようで、正解である「仕事があれば期日前投票ができる」という回答は88.1%と多く、不正解である「理由が結婚式出席は期日前投票不可」、「理由がレジャーは期日前投票不可」という回答はともに10%台と少ない。一方、期日前投票の期間については、不正解である「期日前投票は平日しかできない」という回答は少ないが、期日前投票の時間については、正解である「期日前投票は午後8時までできる」という回答は、半数以下と少ない。この点については、一層の周知が必要であろう。

以上から、特に若年層における政治的知識の水準は、年齢や学歴によって異なることがわかる。政治に対する関心と同様に、政治的社会化と関係があると考えれば、当然の結果であろう。また、政治的関心が高い方がより正確な政治的知識を持っていることも不思議ではない。

表3 - 11 若者調査・Q14期日前投票制度をご存知ですか(%)

年齢	学歴	知っている	知らない	実数
16～19	中学・高校	48.9	51.1	376
	高専・短大等	45.2	54.8	42
	大学・大学院	65.2	34.8	66
	全体	50.8	49.2	484
20～24	中学・高校	57.7	42.3	182
	高専・短大等	69.2	30.8	195
	大学・大学院	77.7	22.3	332
	全体	70.2	29.8	709
25～29	中学・高校	77.5	22.5	244
	高専・短大等	84.1	15.9	258
	大学・大学院	88.9	11.1	334
	全体	84.1	15.9	836
全体	中学・高校	59.6	40.4	802
	高専・短大等	74.9	25.1	495
	大学・大学院	81.7	18.3	732
	全体	71.3	28.7	2,029

表3 - 12 若者調査・Q14SQ期日前投票制度について正しいと思うもの(%)

仕事があれば期日前投票ができる	88.5
理由が結婚式出席は期日前投票不可	12.0
理由がレジャーは期日前投票不可	13.0
期日前投票は平日しかできない	7.7
期日前投票は午後8時までできる	45.3
わからない	8.1

実数 1,450

4 政治に対する評価

以下では、人々の政治に対する評価を表す指標として、政治的信頼、政治の有効性感覚、政治満足度に関する質問を取り上げる。

結論から述べると、選挙制度を除いて、民主主義を担う制度やアクターに対する信頼は極めて低い。若い有権者から寄せられる信頼も低く、彼らないし彼女らにおいては、年齢が高くなると、むしろ不信が強まるという傾向が表れている。高齢者層においては信頼する割合が高いという有権者全体の調査の結果とは異なる傾向を示している。

政治的な有力感についても同様で、全体として見ると、その水準は低い。年齢が高いと、有力感も高いという傾向があるが、若年層に限ってみると、年齢が高いと、むしろ有力感は減退するようである。

政治的満足については、年齢、男女、学歴を問わず、不満と回答する割合が極めて高い。また、政治に対する関心は、満足ではなく、不満に結びつくようである。

4.1 政治的信頼

ここでは、政治的信頼の水準を測定するため、様々な政治制度やアクターに対する信頼を問う質問の回答を検討する。

まず、有権者調査の結果によると(表4-1)、選挙制度については、「ほとんど」ないし「あまり」信頼できないという回答の合計割合はそれぞれの年齢層で過半数を下回るが、政党、国会、中央省庁、マスコミに対する不信の割合は押し並べて高い。ただし、60代以上では、選挙制度に対するそれを除いて、不信の割合が減る傾向にある。

若者調査の回答者全体の「不信」の割合は、選挙制度40.1%、政党73.4%、国会76.4%、中央省庁59.4%、マスコミ66.2%となっている。

若者調査を用いて、「ほとんど」ないし「あまり」信頼できないという回答の合計と、年齢、学歴との関係を見る(表4-2)。信頼しないという回答の割合が最も低いのは選挙制度に関するものであることには変わらない。また、年齢が上がると、マスコミを除いて信頼しないという回答割合が増える。さらに、20代では、選挙制度を除いて、学歴が高いほど信頼しないという回答の割合が概ね増える傾向にある。

以上から、制度やアクターに対する信頼の絶対的な水準の低さが浮かび上がってくる。選挙制度に対する信頼は相対的に高く、代議制民主主義に対する信頼はかろうじてつなぎ止められているといえようか。

表4 - 1 有権者調査・Q11次の制度や組織、団体についてどの程度信頼していますか
 (「あまり＋ほとんど」信頼できないと回答した人の割合)

年齢	選挙制度		政党		国会		中央省庁		マスコミ	
	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数
20～29	37.7	292	72.9	292	70.2	292	60.6	292	67.8	292
30～39	36.3	339	74.9	338	77.9	339	67.0	339	62.8	339
40～49	40.7	364	73.4	364	78.0	364	74.7	364	61.0	364
50～59	39.7	413	69.2	412	74.3	413	74.0	415	58.7	414
60～69	40.6	443	59.6	441	65.8	442	64.8	443	55.3	443
70～	37.7	353	44.6	350	53.6	351	48.4	353	50.9	352
全体	38.9	2,204	65.4	2,197	69.9	2,201	65.3	2,206	59.0	2,204

表4 - 2 若者調査・Q11次の制度や組織、団体についてどの程度信頼していますか
 (「あまり＋ほとんど」信頼できないと回答した人の割合)

年齢	学歴	選挙制度		政党		国会		中央省庁		マスコミ	
		%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数
16～19	中学・高校	32.4	377	62.0	376	65.0	377	43.0	377	62.1	377
	高専・短大等	51.2	41	73.2	41	82.9	41	56.1	41	75.6	41
	大学・大学院	33.3	66	81.8	66	69.7	66	53.0	66	69.7	66
	全体	34.1	484	65.6	483	67.1	484	45.5	484	64.3	484
20～24	中学・高校	44.3	183	63.9	183	71.0	183	57.9	183	60.7	183
	高専・短大等	46.4	196	74.6	197	81.2	197	58.4	197	70.1	197
	大学・大学院	34.7	334	76.6	334	81.1	334	65.3	334	76.6	334
	全体	40.4	713	72.8	714	78.6	714	61.5	714	70.7	714
25～29	中学・高校	45.7	243	74.6	244	79.2	245	61.2	245	51.8	245
	高専・短大等	48.4	258	78.7	258	81.8	258	63.6	258	64.0	258
	大学・大学院	37.5	333	81.1	334	79.9	334	70.9	333	72.8	334
	全体	43.3	834	78.5	836	80.3	837	65.8	836	63.9	837
全体	中学・高校	39.1		66.5		70.7		51.9		58.6	
	高専・短大等	47.9		76.6		81.7		60.9		67.3	
	大学・大学院	36.2		79.2		79.6		66.7		74.3	
	全体	40.2		73.7		76.6		59.4		66.4	

4.2 政治的有効性感覚

ここでは、政治に対する人々の有力感(政治的有効性感覚)を検討する。具体的には、「自分には政府のすることを左右する力はない」と「自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい」の二つの質問を取り上げる。前者は、政治を動かす力に関するものであり、外的有効性感覚と呼ばれるものである。後者は、政治に対する理解力に関するものであり、内的有効性感覚と関係している。

まず、「自分には政府のすることを左右する力はない」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という、政治的な有力感がないと回答している割合は、有権者調査が64.0%、若者調査が69.4%でともに過半数を上回っている。図4-1と図4-2を見ると、有権者調査においては、年齢が上がるに連れてこの回答割合が緩やかに減り、有力感が高まっていく(特に男性の場合。60代以降の女性を除く)。しかし、若者調査においては、年齢が上がっても有効性感覚が上昇しないことがわかる。政治的信頼と同様に政治的有効性感覚についても、年齢が上がるに連れて、若者ではむしろ低下するが、有権者全体では上昇するという傾向が表れている。

図4-1 有権者調査・Q8(3)自分は政府のすることに対して、それを左右する力はない
(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)

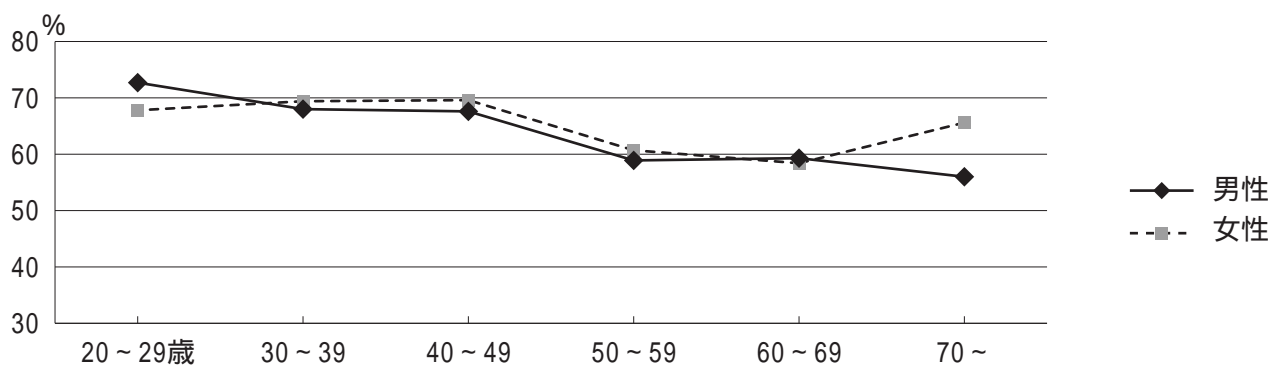
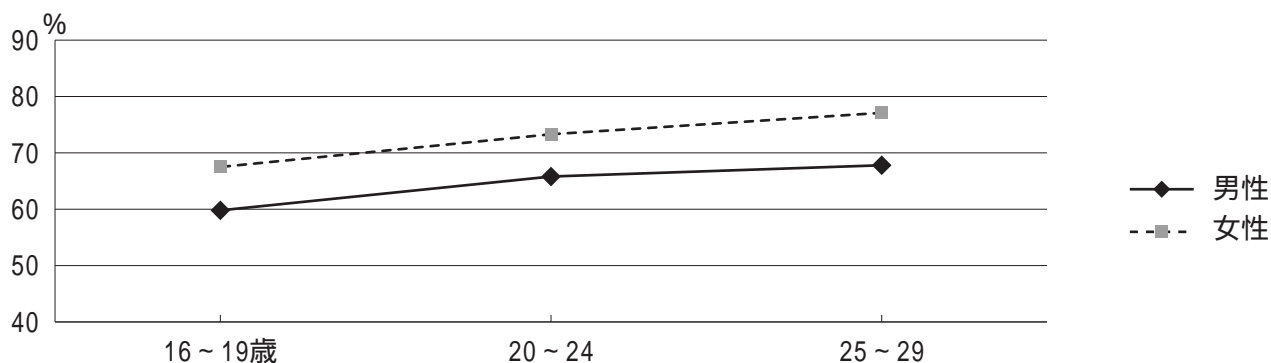


図4-2 若者調査・Q8(3)自分は政府のすることに対して、それを左右する力はない
(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)



前節の分析によって、自分や周囲の人々の力を信じられる人は政治に対する関心も高いことがわかった。このような価値感とは政治的な有効性感覚とも関係があると考えられる。若者調査の結果によると(表4 - 3、表4 - 4)、「努力すればいつか報われる」や「みんなの力で社会を変えられる」という価値観に肯定的な回答者も「左右する力がない」とする人の方が多い。しかし、そのような価値観に否定的な回答者と比較すると、政府のすることに対し「左右する力がある」という回答の割合が高い。

表4 - 3 若者調査・Q1(1)努力すればいつか報われる×
Q8(3)自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない(%)

努力	左右する力はない			実数
	そう + どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ば + そうは 思わない	わからない	
そう + どちらかといえ ばそう思う	68.5	24.0	7.5	1,673
どちらかといえ ばそう + そうは 思わない	76.2	15.3	8.5	294
わからない	65.0	17.5	17.5	80
全体	69.5	22.5	8.0	2,047

表4 - 4 若者調査・Q1(2)みんなの力で社会を変えられる×
Q8(3)自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない

みんなの力	左右する力はない			実数
	そう + どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ば + そうは 思わない	わからない	
そう + どちらかといえ ばそう思う	66.1	26.1	7.8	1,560
どちらかといえ ばそう + そうは 思わない	83.1	11.3	5.6	372
わからない	70.4	11.3	18.3	115
全体	69.4	22.6	8.0	2,047

次に、「政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい」について、回答の分布を見る。回答者全体では、有権者調査は11.5%、若者調査は24.4%が「そう思う」ないし「どちらかといえばそう思う」としている。前記の「政府のすることを左右する力はない」への回答と比べると、やや異なる傾向を示している。

16歳から19歳までの回答者は有権者ではないことから、投票すべきかそうでないかという質問自体が妥当ではないので、有権者調査の結果に焦点を合わせる。図4 - 3を見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の合計割合は20代をピークに、30代、40代に向けて急激に下降し、40代以降は1割に満たなくなる。若い人に特有の考えであり、特に若い女性にこのような考えをする人が多い。このような結果は、「自分は政治のことがわかる」という感覚(内的有効性感覚)と「投票すべき」という規範意識が、年齢が上がるに連れて高まることによる効果と考えられる。

若者調査を用いて年齢別に学歴との関係を見る(表4 - 5)。未成年者については、先ほどの理由により分析から除外してある。20代前半と後半のいずれにおいても、学歴が上がるに連れて「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答割合が、若干の減少傾向にある。この質問は投票に対する規範意識を表明しているとも考えられるので、再び触れる。

図4 - 3 有権者調査・Q8(4)自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい
(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)

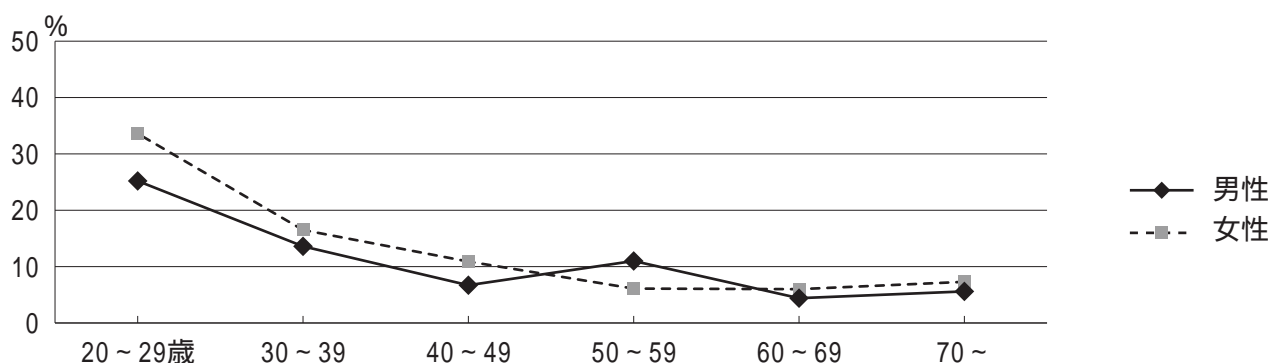


表4 - 5 若者調査・Q8(4)自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい(%)

年齢	学歴	そう + どちらか といえはそう思 う	どちらかといえ ば + そうは思わ ない	わからない	実数
20～24	中学・高校	29.0	64.5	6.6	183
	高専・短大等	21.9	65.8	12.2	196
	大学・大学院	23.4	72.1	4.5	333
	合計	24.4	68.4	7.2	712
25～29	中学・高校	24.0	65.9	10.2	246
	高専・短大等	21.8	68.9	9.3	257
	大学・大学院	18.0	76.0	6.0	333
	合計	20.9	70.8	8.3	836

政治的関心との関係はどうであろうか(表4 - 6)。関心が高い人の方が政治のことがわかっており、投票するべきと考えているのであろうか。若者調査の結果によると、国や地方の政治に対する関心が「非常にある」、「ある程度ある」という回答者は、そうでない回答者よりも、「自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい」という考えを否定している割合が顕著に高い。やはり、関心が高い人の方が政治を理解し、投票にも積極的といえよう。

表4 - 6 若者調査・Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか×
Q8(4)自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい(%)

政治への関心	投票しない方がいい			実数
	そう + どちら かといえはそ う思う	どちらかとい えは + そうは 思わない	わからない	
非常に + ある程度ある	17.4	75.8	6.7	1,171
あまり + 全然ない	34.0	56.6	9.4	799
わからない	31.1	37.8	31.1	74
合計	24.4	66.9	8.7	2,044

最後に、「日本の政治を動かしている者」についての回答を見てみよう(表4-7)。有権者調査と若者調査を用いて、年齢との関係を見る。まず、国会議員や官僚と比べると、国民一人一人という回答の割合が極めて少ない。70歳以上の年齢層による回答割合が目立つ程度である(有権者調査)。政治的有効性感覚の低さを異なる側面から裏書きしているといえる。また、マスコミを挙げる人の割合は若いほど多いようである。反対に、官僚を挙げる人は年配者に多い。50代でピークに達し、その後、減少している。なお、学歴の違いによる回答傾向の顕著な違いは見られなかった。

まとめると、「政府を左右する力の有無」についての回答の割合が示すように、有効性感覚の絶対的な水準は高くない。若年層では一度低下して、年齢が上がるに連れて再び上昇するパターンも、政党等に対する政治的信頼と似ている。

表4-7 Q9今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか(%)

	年齢	国会議員	官僚	首相	国民一人一人	大企業	マスコミ	実数
有権者調査	20～29	26.3	28.4	7.6	4.2	4.2	16.3	289
	30～39	30.7	37.8	2.9	5.0	3.5	7.1	339
	40～49	31.6	44.6	2.5	4.7	4.4	4.2	361
	50～59	25.7	51.6	3.9	5.9	5.4	3.2	409
	60～69	23.1	49.9	5.7	10.0	3.4	3.2	441
	70～	30.5	31.3	10.3	16.4	2.6	1.4	348
	全体	27.8	41.7	5.4	7.8	3.9	5.4	2,187
若者調査	16～19	31.1	17.2	9.5	9.9	3.5	13.9	483
	20～24	28.9	29.2	6.8	7.6	4.9	13.0	710
	25～29	30.9	33.1	6.7	4.2	5.8	10.1	838
	全体	30.2	27.9	7.4	6.7	5.0	12.0	2,031

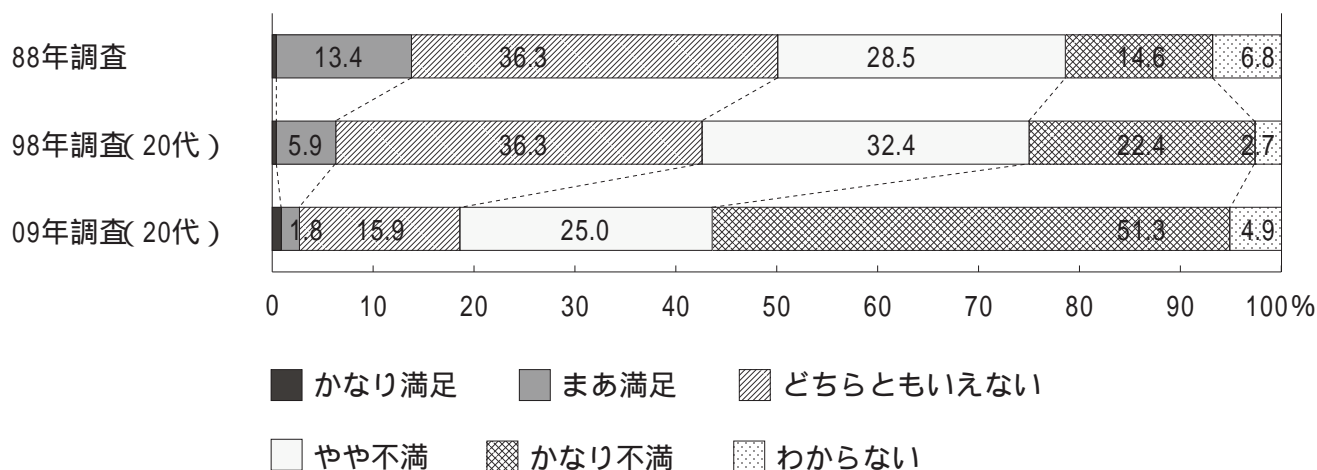
4.3 政治満足度

以下では、政治に対する満足の度合いについての質問の回答を検討する。

政治満足度について、若者調査の20代を対象に、過去の調査と比較すると(図4-4) 09年調査では、「まあ満足」、「どちらともいえない」という回答が大幅に減少している。一方、「やや不満」という回答は減少しているが、「かなり不満」という回答の割合が急増し、50%を超えている。「かなり不満」と「やや不満」という回答を合計すると、76.3%に達する。88年調査は43.1%、98年調査は54.8%であったから、調査方法の違いはあるが、顕著に増加していると考えられる。

09年の有権者調査では79.4%、若者調査では75.3%が不満を表明しており、両者には大きな差はない。

図4 - 4 Q10今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか



それでは、今回の有権者調査と若者調査を用いて、それぞれ性・年齢別に回答の割合を図4 - 5と図4 - 6で見てみよう。「かなり」ないし「やや」不満という回答の合計割合は40代、50代まで増加し、90%近くにまで到達しているが、60代以降急激に減少している。若年層では、若干の上昇が見られるが、顕著なものではない。しかし、未成年者においても既に政治に対する不満を回答する割合が70%を超えている。

なお、若年層においては、学歴との関係を見いだせなかった。

図4 - 5 有権者調査・Q10今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか
(「やや+かなり」不満と回答した人の割合)

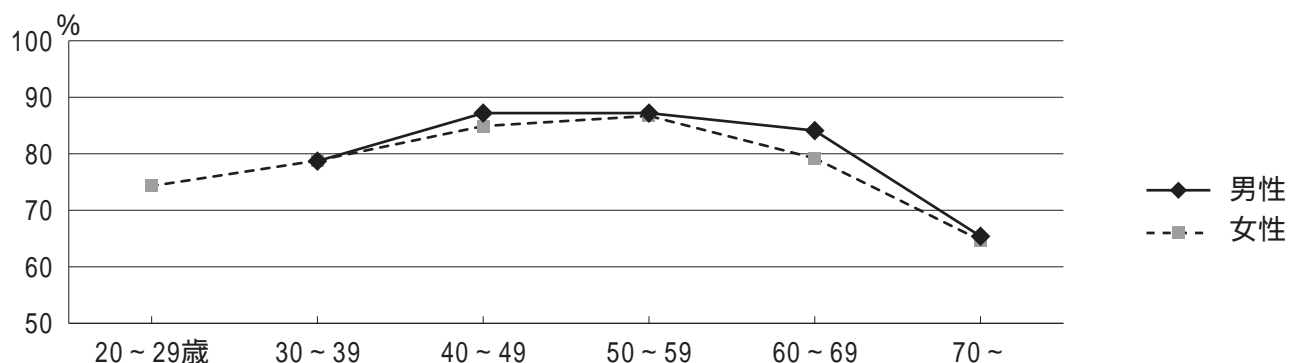
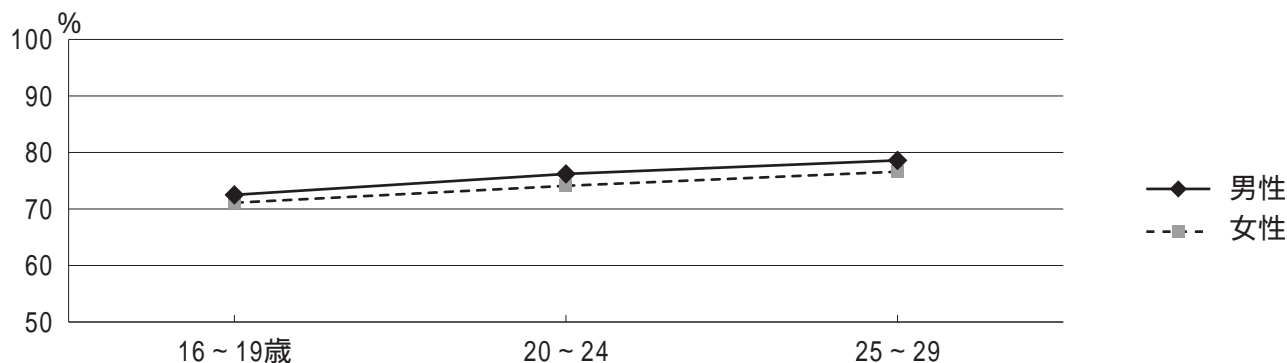


図4 - 6 若者調査・Q10今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか
(「やや+かなり」不満と回答した人の割合)



最後に、若者調査を用いて、政治的関心との関係について表4 - 8で見てみよう。関心が高い方が、政治に対する満足度は高いのであろうか、それとも低いのであろうか。分析結果によると、政治に対する関心が「非常に」ないし「ある程度」ある人は、「あまり」ないし「全然」ない人より、「やや不満」、「かなり不満」と回答する割合が高い。

表4 - 8 若者調査・Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか ×
Q10今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか(%)

政治への関心	政治満足度				実数
	かなり+まあ満足	どちらともいえない	やや+かなり不満	わからない	
非常に+ある程度ある	2.4	11.9	83.8	2.0	1,171
あまり+全然ない	3.4	20.4	65.1	11.1	799
わからない	1.4	25.7	51.4	21.6	74
合計	2.7	15.7	75.3	6.3	2,044

5 投票に対する態度

以下では、投票について、若年層の考え方を中心に検討する。結論から述べると、投票を無駄とは考えず、積極的に臨む姿勢が伺えとともに、投票率の低下を問題と捉える回答者も増えている。しかし、そのような考え方は、必ずしも投票を「義務」ないし「棄権すべきでない権利」とする意識に強く導くわけではない。

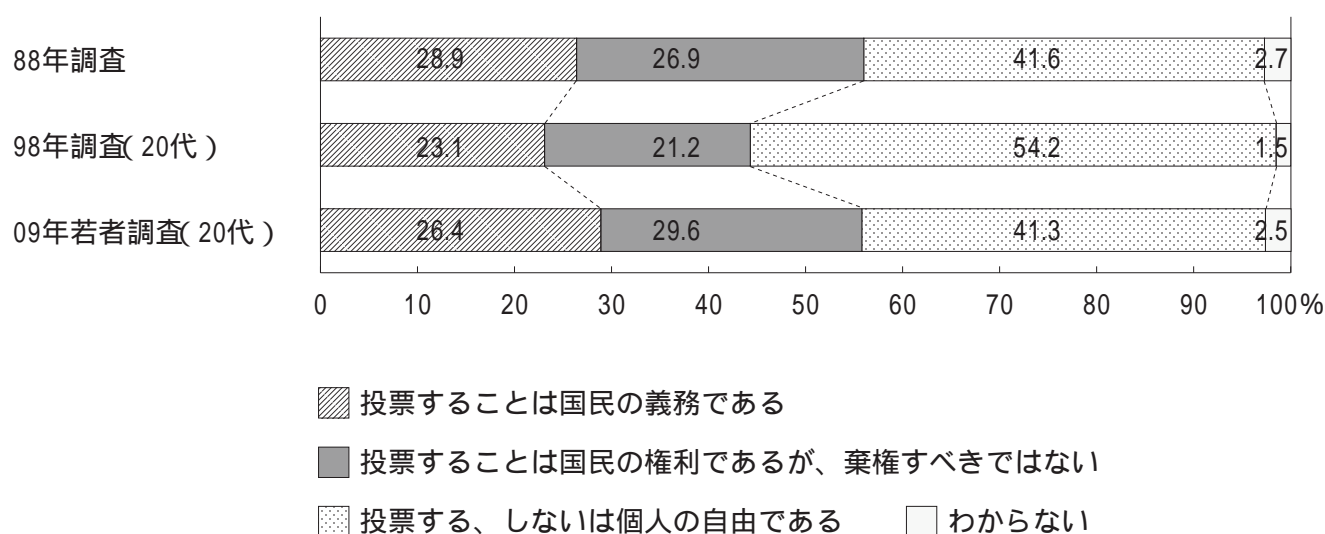
また、全体として、年齢層が高いほど、投票に対する積極性、義務意識が強い。特に義務意識については、学歴が高いほど、「投票する、しないは個人の自由」という回答の割合が減る。また、政治に対する関心が強い、有力感がある、選挙制度を信頼する、このような意識を持つ人は投票に対する義務意識が高いといえる。

5.1 投票義務感

投票義務感は、投票参加の決定要因として重要であることが知られている。ここでは、この政治意識について検討する。

20代を対象に、過去の若者調査の結果と比較する(図5 - 1)。「投票は国民の義務」と「権利であるが棄権すべきでない」という回答の割合は、98年調査では一旦低くなるが、09年調査では再び回復している。逆に「個人の自由」という回答は、98年調査では半数を上回ったが、09年若者調査では88年調査とほぼ同じ4割強に低下している。調査方法の違いを考慮に入れる必要があるが、投票義務感が傾向的に低下しているとはいえないようである。

図5 - 1 Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか



「義務」という回答は、09年の有権者調査では35.8%、若者調査では27.5%となっている。

09年の有権者調査と若者調査を用いて、性・年齢別に回答の割合を見てみよう(図5-2、図5-3)。有権者調査においては、年齢が上がるほど、「義務」と回答する人の割合も上がる。しかしながら、若者調査においては、その割合はむしろ低下するか(男性)、良くて一定である(女性)。また、男性より女性の方が投票義務感は概して高い。

図5-2 有権者調査・Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか
(「投票することは国民の義務である」と回答した人の割合(%))

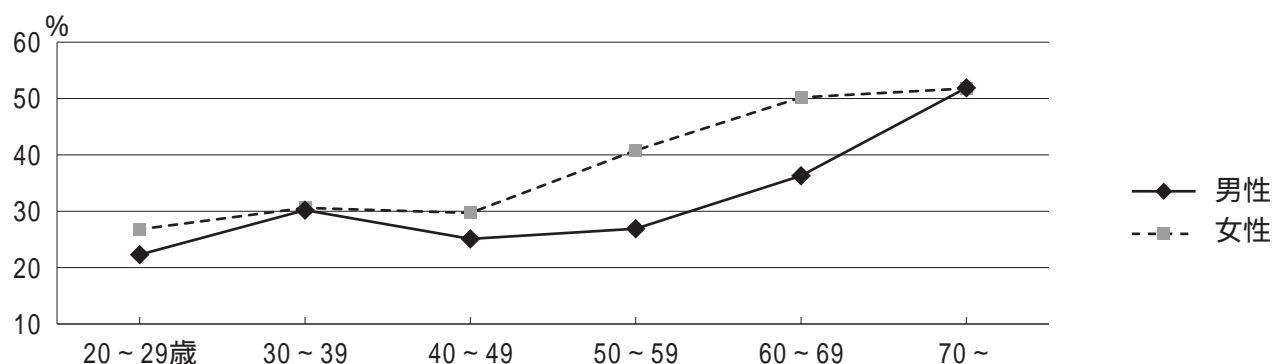
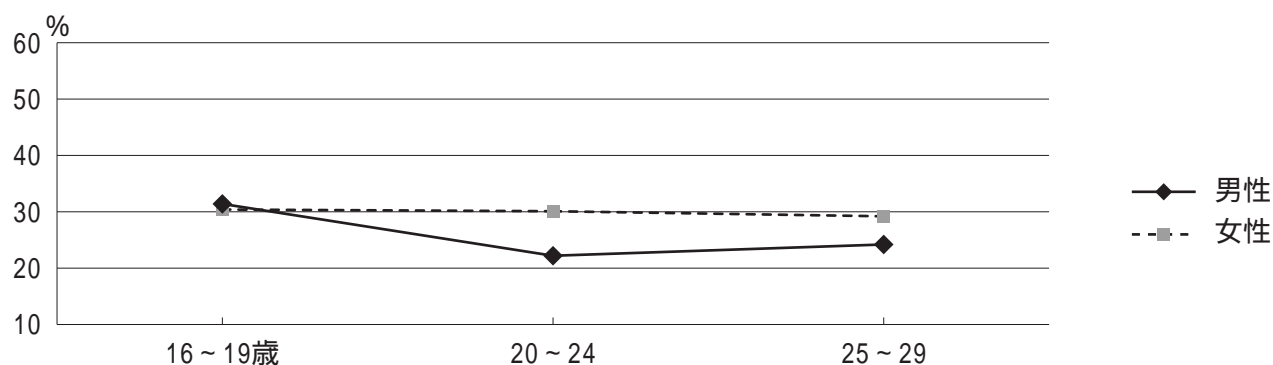


図5-3 若者調査・Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか
(「投票することは国民の義務である」と回答した人の割合(%))



今回の若者調査について、年齢別に学歴との関係を示したものが表5-1である。年齢との関係はそれほどはっきりしていない。強いていえば、「個人の自由」という回答の割合が未成年者で比較的に低いことであろうか。ただし、学歴との関係は比較的にはっきりしている。未成年者を除き、学歴が高くなるほど、「義務」ないし「棄権すべきでない」という回答の割合が高くなり、「個人の自由」という回答の割合が低くなる。

表5 - 1 若者調査・Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

年齢	学歴	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	実数
16～19	中学・高校	32.1	34.2	30.5	3.2	377
	高専・短大等	26.8	26.8	46.3	0.0	41
	大学・大学院	25.8	43.9	28.8	1.5	66
	全体	30.8	34.9	31.6	2.7	484
20～24	中学・高校	19.1	23.5	54.1	3.3	183
	高専・短大等	23.9	25.4	48.2	2.5	197
	大学・大学院	31.1	37.4	31.1	0.3	334
	全体	26.1	30.5	41.7	1.7	714
25～29	中学・高校	22.4	22.9	49.4	5.3	245
	高専・短大等	24.1	24.9	48.2	2.7	257
	大学・大学院	31.7	36.5	29.6	2.1	334
	全体	26.7	28.9	41.1	3.2	836
全体	中学・高校	26.2	28.3	41.6	3.9	805
	高専・短大等	24.2	25.3	48.1	2.4	495
	大学・大学院	30.9	37.6	30.2	1.2	734
	全体	27.4	30.9	39.1	2.6	2,034

さらに、若者調査を用いて、政治的関心、有効性感覚、選挙制度への信頼、これらの質問に対する回答と投票義務感との関係を各年齢層について見る。これらの質問を選んだ理由は、投票義務感との関係性を予想できること、実際に関係があること、以上の二点である。それぞれについて、年齢を考慮に入れて多重クロス集計を行った。

まず、政治に関心が「あまり」ないし「全然」ないという人は「個人の自由」と回答する割合がどの年齢層においても顕著に高い(表5 - 2)。有効性感覚の低い人(「自分には政府のすることに対して左右する力はない」と回答した人)は、特に20代において、「個人の自由」と回答する割合が高い(表5 - 3)。選挙制度への信頼が「あまり」ないし「ほとんど」ない人も同様である(表5 - 4)。

参考までに、投票義務感とこれらの意識の関係の強さを、順位相関係数(注)を用いて統計的に検証した(全て1%水準で有意、選択肢をまとめていない点に注意)。0.186(政治的関心)、0.151(有効性感覚)、0.142(選挙制度への信頼)であり、次小節で扱う変数と比較して、特に強いとはいえないが、統計的に有意な関係の存在を確認できる。なお、年齢カテゴリーを一定としても、これらの関係は残存する。

注 順位相関係数とは、二つの順位の間における相互関連の程度を示す指標である。

表5 - 2 若者調査・Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか×
Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

年齢	政治への関心	投票することは				実数
		国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	
16～19	非常に＋ある程度ある	32.8	40.9	24.7	1.6	247
	あまり＋全然ない	28.2	28.6	40.8	2.3	213
	わからない	32.0	28.0	20.0	20.0	25
	全体	30.7	34.8	31.5	2.9	485
20～24	非常に＋ある程度ある	29.5	36.4	33.2	1.0	407
	あまり＋全然ない	22.0	23.4	52.4	2.1	286
	わからない	15.0	15.0	60.0	10.0	20
	全体	26.1	30.6	41.7	1.7	713
25～29	非常に＋ある程度ある	31.5	34.0	32.8	1.7	515
	あまり＋全然ない	19.7	20.7	55.2	4.3	299
	わからない	15.4	23.1	42.3	19.2	26
	全体	26.8	28.9	41.1	3.2	840
全体	非常に＋ある程度ある	31.1	36.3	31.2	1.5	1,169
	あまり＋全然ない	22.8	23.8	50.4	3.0	798
	わからない	21.1	22.5	39.4	16.9	71
	全体	27.5	30.9	39.0	2.6	2,038

表5 - 3 若者調査・Q8(3)自分には政府のすることに対してそれを左右する力はない×
Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

年齢	左右する力はない	投票することは				実数
		国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	
16～19	そう＋どちらかといえばそう思う	30.9	33.8	34.1	1.3	311
	どちらかといえばそう＋そうは思わない	32.8	43.7	23.5		119
	わからない	25.5	21.8	34.5	18.2	55
	全体	30.7	34.8	31.5	2.9	485
20～24	そう＋どちらかといえばそう思う	23.0	28.3	46.5	2.2	495
	どちらかといえばそう＋そうは思わない	34.3	37.3	28.3		166
	わからない	28.8	28.8	40.4	1.9	52
	全体	26.1	30.4	41.8	1.7	713
25～29	そう＋どちらかといえばそう思う	24.9	28.6	43.5	2.9	611
	どちらかといえばそう＋そうは思わない	35.8	32.4	30.1	1.7	176
	わからない	18.9	20.8	49.1	11.3	53
	全体	26.8	28.9	41.1	3.2	840
全体	そう＋どちらかといえばそう思う	25.5	29.6	42.5	2.3	1,417
	どちらかといえばそう＋そうは思わない	34.5	37.1	27.8	0.7	461
	わからない	24.4	23.8	41.3	10.6	160
	全体	27.5	30.9	39.1	2.6	2,038

表5 - 4 若者調査・Q11(1)選挙制度についてどの程度信頼していますか×
Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか。(%)

年齢	選挙制度への信頼	投票することは				実数
		国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	
16～19	かなり＋ある程度ある	33.0	42.6	23.9	0.4	230
	あまり＋ほとんどない	29.7	33.3	33.9	3.0	165
	わからない	26.7	17.8	46.7	8.9	90
	全体	30.7	34.8	31.5	2.9	485
20～24	かなり＋ある程度ある	29.2	40.1	29.8	0.9	342
	あまり＋ほとんどない	22.2	24.7	51.7	1.4	288
	わからない	26.5	12.0	55.4	6.0	83
	全体	26.1	30.6	41.7	1.7	713
25～29	かなり＋ある程度ある	28.5	35.2	34.1	2.1	375
	あまり＋ほとんどない	24.6	26.0	47.2	2.2	362
	わからない	28.0	16.0	45.0	11.0	100
	全体	26.8	28.9	41.1	3.2	837
全体	かなり＋ある程度ある	29.9	38.8	30.1	1.3	947
	あまり＋ほとんどない	24.8	27.0	46.1	2.1	815
	わからない	27.1	15.4	48.7	8.8	273
	全体	27.5	30.9	39.0	2.6	2,035

さらに、両親の投票習慣についても、同様の分析を行った(表5 - 5)。親が投票に行っていない人はどの年齢層においても、「個人の自由」と回答する割合が高くなっている。

以上から、投票に対する規範的な意識は低くはないものの、こうした意識は年齢、学歴、政治に対する認知や評価と関係があり、両親の投票習慣の影響もあると考えられる。投票義務感がこのような様々な要因に支えられている以上、義務意識を強めることは容易な課題ではなく、投票率を向上させるには、多面的な取り組みが必要といえる。

表5 - 5 若者調査・Q17両親の政治・選挙に対する姿勢「親は投票に行っている」×
Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

年齢	親は投票に行っている	投票することは				実数
		国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	
16～19	はい	33.2	39.3	25.4	2.1	389
	いいえ	20.8	16.7	56.3	6.3	96
	全体	30.7	34.8	31.5	2.9	485
20～24	はい	29.4	31.9	37.9	0.7	564
	いいえ	13.3	25.3	56.0	5.3	148
	全体	26.1	30.5	41.7	1.7	712
25～29	はい	28.4	31.3	37.2	3.2	691
	いいえ	19.5	18.1	59.1	3.4	149
	全体	26.8	28.9	41.1	3.2	840
全体	はい	29.9	33.4	34.7	2.1	1,644
	いいえ	17.5	20.5	57.2	4.8	395
	全体	27.5	30.9	39.0	2.6	2,039

5.2 投票についての考え方

ここでは、投票についての考え方を問う二つの質問、「自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、投票しても無駄である」と「選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくてもかまわない」について検討する。両者ともに、前小節で扱った狭義の投票義務感(Q12)に近いことを質問しているので、それとの関係も検討する。

まず、「自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、投票しても無駄である」について見てみよう(表5 - 6)。全体を通して見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の割合が有権者調査では18.3%、若者調査では21.3%といずれも低い。図5 - 4、図5 - 5は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の合計割合を性・年齢別に示したものである。まず、有権者調査については、20代、30代は20%を超えている。以降年齢が上がるに連れて減少し、70代で再び上昇するが、世代間の差はそれほど大きくない。若者調査については、10代後半に「わからない」が多いことを除けば、年齢で大きな違いはない。

表5 - 6 Q&1)自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、
投票しても無駄である(%)

調査	年齢	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そうは思わ ない	わからない	実数
有権者調査	20～29	9.6	12.0	12.3	59.2	6.8	292
	30～39	6.2	16.0	10.9	60.7	6.2	338
	40～49	5.5	12.4	10.7	68.6	2.8	363
	50～59	6.0	11.1	10.6	69.6	2.7	415
	60～69	5.4	7.9	7.9	77.1	1.6	441
	70～	6.3	12.6	6.6	71.8	2.6	348
	全体	6.4	11.8	9.7	68.5	3.6	2,197
若者調査	16～19	8.0	9.1	12.2	56.3	14.4	485
	20～24	10.1	13.2	12.3	55.7	8.7	713
	25～29	8.1	14.2	12.5	58.2	7.0	839
	全体	8.8	12.6	12.4	56.8	9.4	2,037

図5 - 4 有権者調査・Q&1)自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、
投票しても無駄である(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)

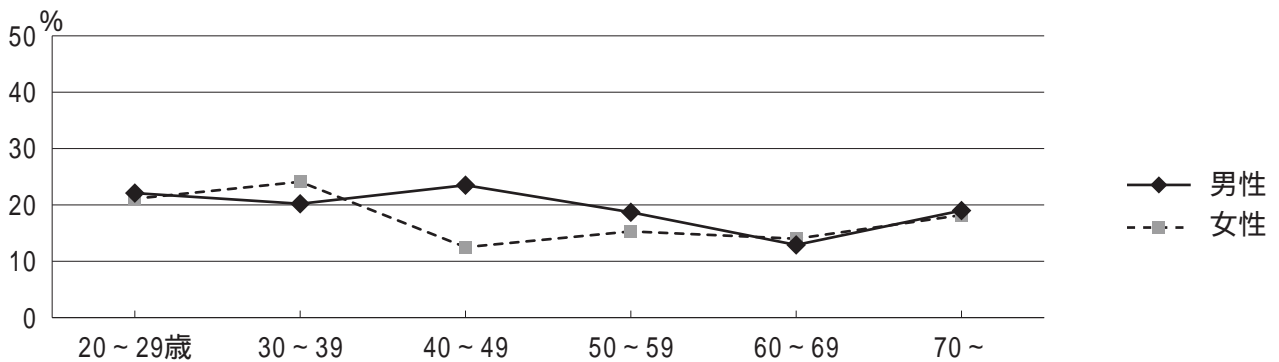
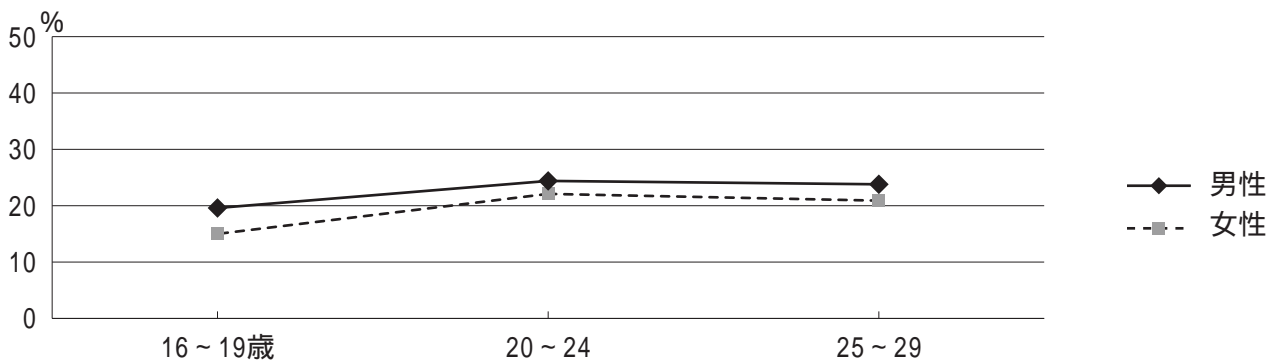


図5 - 5 若者調査・Q&1)自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、
投票しても無駄である(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)



若者調査を用いて、この質問と趣旨に近い投票義務感(Q12)との関係について表5 - 7で検討する。「投票しても無駄」という意見に対して、「そう思う + どちらかといえばそう思う」を選択する人は、予想通り「個人の自由」という回答の割合が多い。「どちらかといえば + そうは思わない」を選択する人の回答は、「義務」、「棄権すべきでない」、「個人の自由」に三分されている。これら二つの意識の関係について、順位相関係数を用いて統計的に検証すると、0.156と、弱いながらも統計的に有意な結果を得た(1%水準、選択肢をまとめていない点に注意)。

表5 - 7 若者調査・Q8(1)自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、投票しても無駄である × Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

投票しても無駄	投票することは				
	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	実数
そう + どちらかといえばそう思う	21.3	23.2	54.1	1.4	436
どちらかといえばそう + そうは思わない	30.8	35.1	32.2	1.8	1,414
わからない	17.1	17.1	53.9	11.9	193
全体	27.5	30.8	39.0	2.7	2,043

次に、「選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくてもかまわない」について見てみよう(表5 - 8)。全体的な水準としては、このような考えに賛意を示すものは少なく、高い割合で投票に対する前向きな考え方が表明されている。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、有権者調査では11.3%、若者調査では22.6%に過ぎなかった。

図5 - 6、図5 - 7で、性・年齢別の関係を見てみよう。有権者調査に対する回答を見ると、年齢が上がるに連れて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答する割合の合計が少なくなっていくが、40代以降は大きな違いはない。また、若者調査の結果を見ると、若干であるがこれらの回答の割合が上昇する傾向が見られる。

表5 - 8 Q&(2)選挙では大勢の人が投票するのだから
自分一人くらい投票しなくてもかまわない(%)

調査	年齢	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう は思わない	そうは思わ ない	わからない	実数
有権者調査	20～29	8.6	16.5	14.4	58.1	2.4	291
	30～39	5.9	13.3	10.3	65.8	4.7	339
	40～49	1.9	9.9	11.8	75.2	1.1	363
	50～59	1.7	6.7	10.4	80.5	0.7	415
	60～69	2.3	1.8	8.6	85.0	2.3	441
	70～	1.4	2.8	7.3	87.3	1.1	354
	全体	3.4	7.9	10.3	76.4	2.0	2,203
若者調査	16～19	4.1	12.8	14.3	62.5	6.2	483
	20～24	8.4	17.0	15.6	55.7	3.4	713
	25～29	6.8	16.7	15.0	56.9	4.6	840
	全体	6.7	15.9	15.0	57.8	4.6	2,036

図5 - 6 有権者調査・Q&(2)選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい
投票しなくてもかまわない(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)

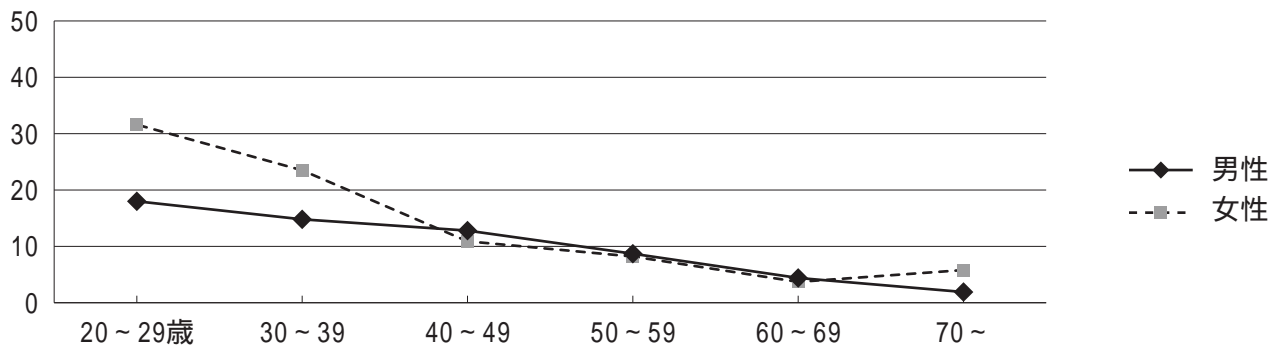
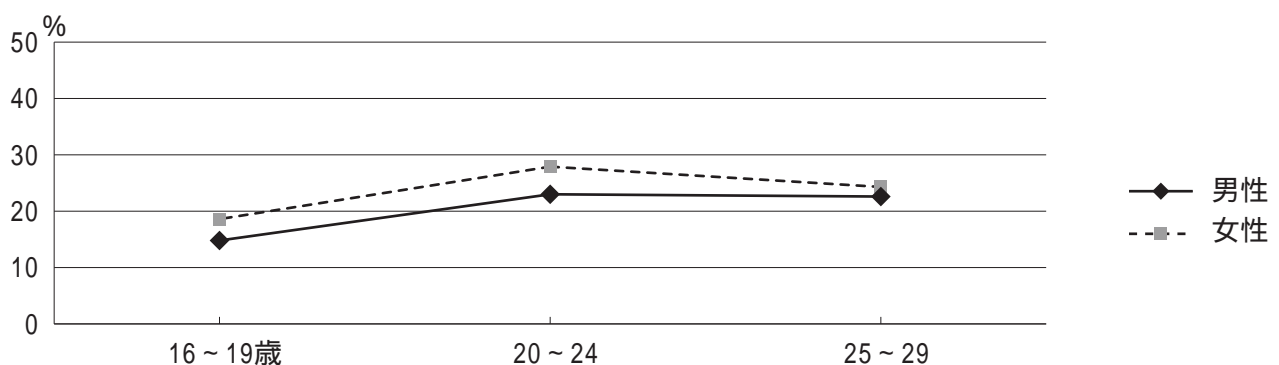


図5 - 7 若者調査・Q&(2)選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい
投票しなくてもかまわない(「そう+どちらかといえばそう」思うと回答した人の割合)

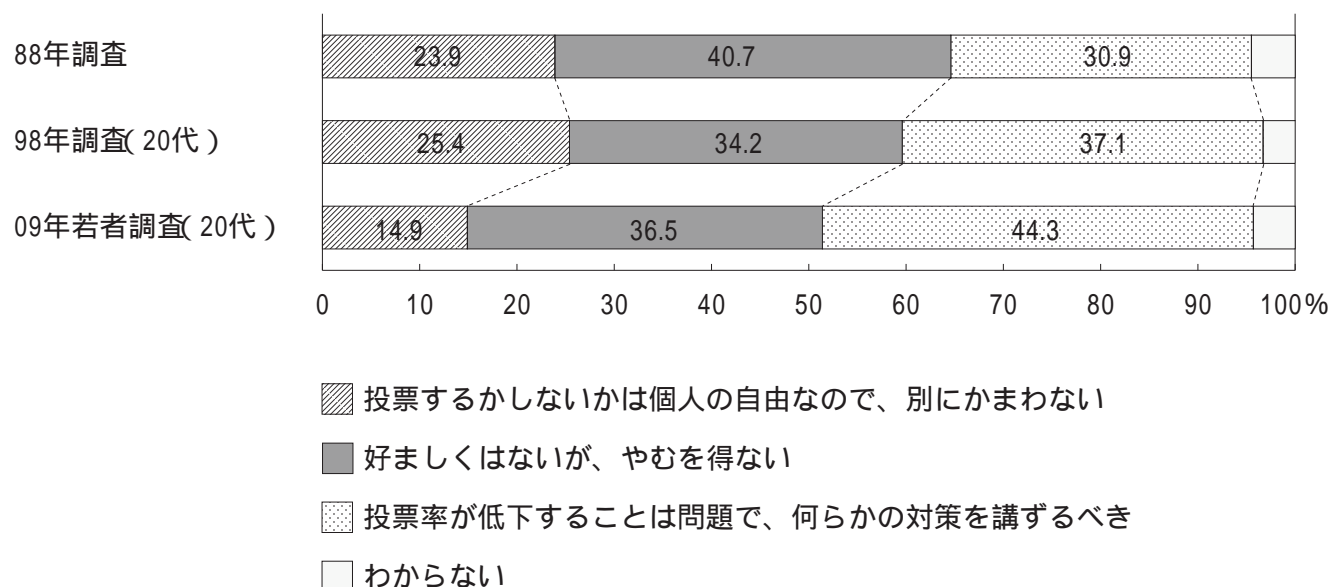


再び若者調査を用いて、投票義務感との関係を見る(表5-9)。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答する人は、やはり「個人の自由」と回答する割合が高い。また、「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」と回答する人は、「義務」、「棄権すべきでない」と回答する割合が比較的に高く、「個人の自由」は低い。順位相関係数は0.319であり、ここではより強い、統計的に有意な関係を見出せる(1%水準)。

表5-9 若者調査・Q8(2)選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくてもかまわない×Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

投票しなくてもかまわない	投票することは				
	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	実数
そう+どちらかといえばそう思う	13.0	15.0	69.6	2.4	460
どちらかといえばそう+そうは思わない	33.0	37.0	28.6	1.5	1,487
わからない	11.6	11.6	53.7	23.2	95
全体	27.5	30.9	39.0	2.7	2,042

図5-8 Q13投票率が低下してきていますがどのようにお考えですか(20代)



最後に、投票率の低下に対する考えを問う質問に対する回答を見てみよう(図5 - 8)。20代を対象に、過去の若者調査の結果も用いて、投票率低下についての考え方を時系列的に追ってみると、「投票するかしないかは個人の自由なので、別にかまわない」という回答が減る一方、「何らかの対策を講ずるべき」という回答の割合が増えている。問題と考える人の割合が高まっているといえる。

09年調査の回答者全体では、有権者調査の58.7%、若者調査の44.4%が「問題であり、何らかの対策を講ずるべき」と回答している。

09年の有権者調査と若者調査を用いて、性・年齢別の関係を見る(図5 - 9、図5 - 10)。有権者調査においては、年齢が上がると問題として認識される割合が多くなる。一方、若者調査においては、比較的低い水準で一定しており、それほどの違いはない。

図5 - 9 有権者調査・Q13投票率が低下してきていますがどのようにお考えですか
(「問題であり対策が必要」と回答した人の割合)

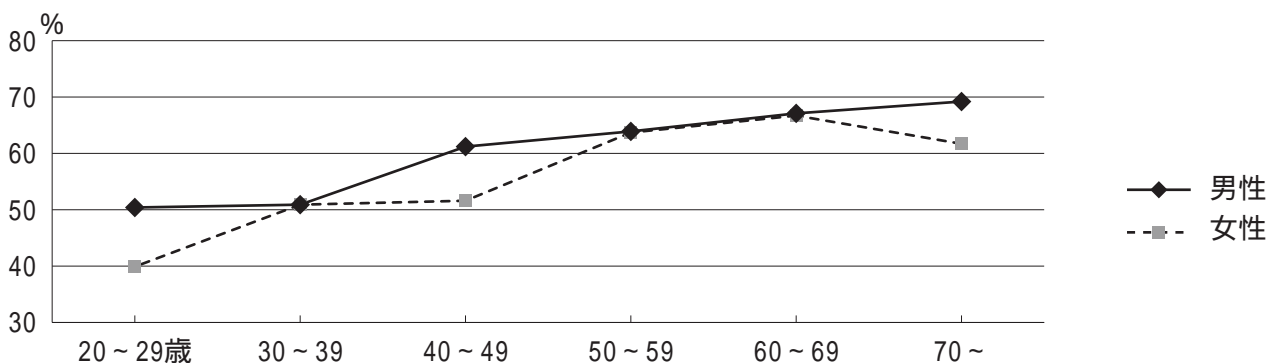
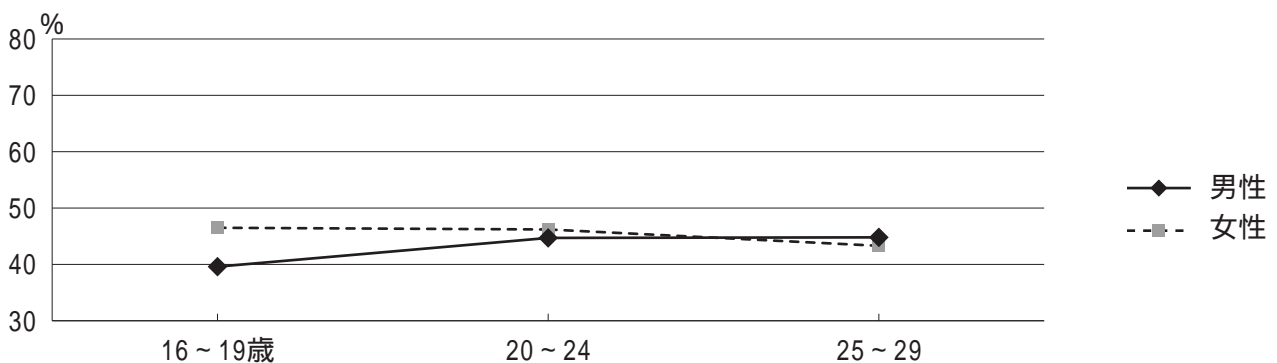


図5 - 10 若者調査・Q13投票率が低下してきていますがどのようにお考えですか
(「問題であり対策が必要」と回答した人の割合)



この質問についても、投票義務感との関係を確認しておこう(表5 - 10)。若者調査の結果によると、当然ではあるが、「個人の自由なのでかまわない」と回答する人には「投票は個人の自由」という回答が圧倒的に多い。一方、「好ましくないが、やむをえない」と回答する人は、「国民の義務」「権利だが棄権すべきでない」「個人の自由」に三分されているが、3者の中では「義務」という回答が比較的少ない。「問題であり何らかの対策を講ずべき」と回答する人は、これとは逆に「個人の自由」という回答が比較的少ない。順位相関係数は0.33であり、統計的に有意であった(1%水準)。

本小節で扱った質問文、「自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、投票しても無駄である」と「選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくてもかまわない」は広義の投票義務感を構成すると考えられるが、「投票することは国民の義務」か否かを問う、狭義の投票義務感との関係は、統計的に有意ではあるが、予想されるほど強くはないともいえる。

表5 - 10 若者調査・Q13投票率が低下してきていますがどのようにお考えですか×
Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか

投票率の低下について	投票することは				
	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	実数
投票は個人の自由なのでかまわない	8.5	8.2	81.3	2.0	305
好ましくはないが、やむをえない	22.8	36.6	39.1	1.5	741
問題であり何らかの対策を講ずべき	38.6	35.7	24.0	1.7	901
わからない	20.9	10.5	41.9	26.7	86
合計	27.6	30.8	38.9	2.7	2,033

6 政治的社会化

以下では、若者の政治的社会化に影響を及ぼす要因として、家庭環境と情報環境とを取り上げたい。

6.1 家庭環境

まず、家庭環境の中で最も大きな要素である「親」との関係について見てみよう。表6 - 1の若者調査の結果を参照されたい。「親と政治の話をしたことがある」と回答したのは、年齢による差はほとんどなく、いずれも5割を超えている。「親と一緒に投票所に行ったことがある」と回答した人には、未成年者ないし子供のころ一緒に連れて行ってもらったことがあるという人、成人してから親と一緒にに行っているという人の両方が含まれている。政治的社会化の文脈からすると、前者に相当する子供時代の体験がどのような効果を持ちうるかということであるが、注目されるのは有権者年齢未満の10代後半の年齢層で相応の比率を占めている点であろう。「親から投票に行けと言われたことがある」と回答したのは、20代前半で3割強、20代後半は5割に達する。

表6 - 1 若者調査・Q17両親の政治・選挙に対する姿勢(%)

年齢	親と政治の話をしたことがある	親と一緒に投票所に行ったことがある	親から投票に行けと言われたことがある	実数
20～24	53.9	39.0	34.3	712
25～29	54.4	51.4	50.5	842
全体	54.2	45.8	43.1	1,554

それでは、こうした体験と政治意識との関連を検討してみよう。表6 - 2、表6 - 3、表6 - 4は、「親と政治の話をしたことがある」、「親と投票所に行ったことがある」、「親から投票に行けと言われたことがある」の回答と、「国や地方の政治にどの程度関心があるか」(Q4)の回答とのクロス集計結果をまとめたものである。表6 - 2に見るように、「親と政治の話をしたこと」の「ある」人と「ない」人は国や地方の政治への関心に極めて大きな相違が存在する。家庭環境の影響力の大きさを示唆する傾向である。一方、表6 - 3の「一緒に投票所に行ったこと」の「ある」人と「ない」人の間、表6 - 4の「親から投票に行けと言われたこと」の「ある」人と「ない」人の間には、政治関心についての相違は見受けられるもののそれほど大きくはない。

表6 - 5は、親と政治の話をしたことが「ある」の回答と、投票についての考え方(Q12)の回答(「投票することは国民の義務だ」、「国民の権利だが棄権すべきではない」、「投

票する、しないは個人の自由だ」とのクロス集計結果である。「ある」と回答した人は投票を「義務」ないし「棄権すべきではない」とする割合が、「ない」と回答した人は投票を「個人の自由」とする割合がそれぞれ高くなっている。常識にかなった傾向と言えよう。

親と一緒に投票所に行った体験の有無と投票についての考え方、親から投票に行けと言われた体験の有無と投票についての考え方にはあまり大きな相違は見受けられなかった。

表6 - 2 若者調査・Q17両親の政治・選挙に対する姿勢「親と政治の話をしたことがある」× Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか(%)

親と政治の話をしたこと	政治への関心			
	非常に+ある程度ある	あまり+全然ない	わからない	実数
ある	72.7	25.9	1.5	1,098
ない	39.5	54.5	6.0	949

表6 - 3 若者調査・Q17両親の政治・選挙に対する姿勢「親と投票所に行ったことがある」× Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか(%)

親と投票所に行ったこと	政治への関心			
	非常に+ある程度ある	あまり+全然ない	わからない	実数
ある	60.8	35.2	4.0	886
ない	54.6	42.1	3.3	1,161

表6 - 4 若者調査・Q17両親の政治・選挙に対する姿勢「親に投票に行けと言われたことがある」× Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか(%)

親から投票に行けと言われたこと	政治への関心			
	非常に+ある程度ある	あまり+全然ない	わからない	実数
ある	60.8	37.6	2.4	678
ない	56.0	39.9	4.2	1,366

表6 - 5 若者調査・Q17両親の政治・選挙に対する姿勢「親と政治の話をしたことがある」× Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

親と政治の話をしたこと	投票することは				
	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	実数
ある	28.9	35.0	34.6	1.5	1,096
ない	25.8	26.1	44.0	4.1	948

6.2 情報環境

政治的社会化の要素として、次に情報環境について見てみよう。ここでは、政治や社会の情報に接する媒体に注目した。取り上げたのは、新聞、インターネット、テレビの3つである。

新聞

まず、新聞を読む頻度について、有権者調査結果で全年齢層の傾向を確認すると、明確な年齢差が存在している。図6 - 1をご覧ください。新聞を「毎日読んでいる」比率は20代が最も低く、年齢が上がるに連れて増加していくという、投票率パターンと同様の形状を示している。20代はわずか22.5%で、「週に何回か読んでいる」を含めても5割に満たない。20代を基点に割合を比較すると30代で2倍に、40代では3倍へと急増する。図6 - 2からは、全年代を通じて男性の方が女性よりも新聞を読む比率が高いことが確認できる。

図6 - 1 有権者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか

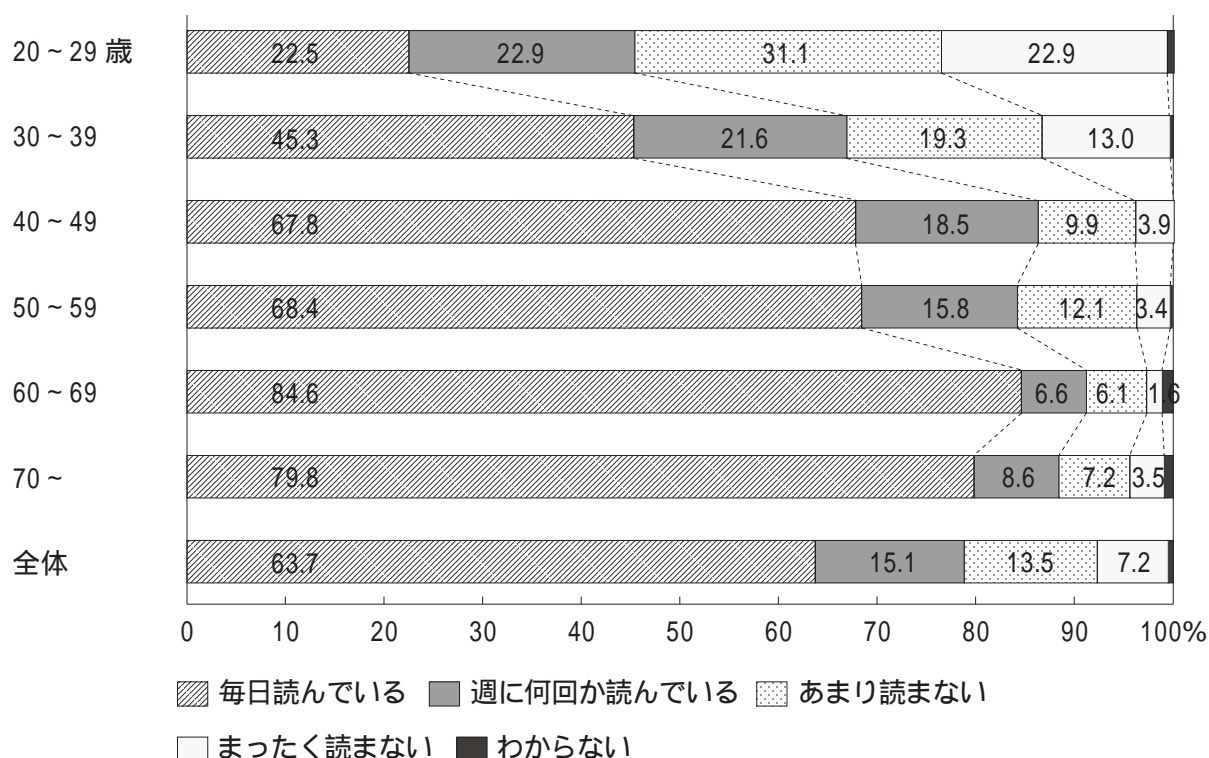


図6 - 2 有権者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか。
(「毎日+週に何回か」読んでいると回答した人の割合)

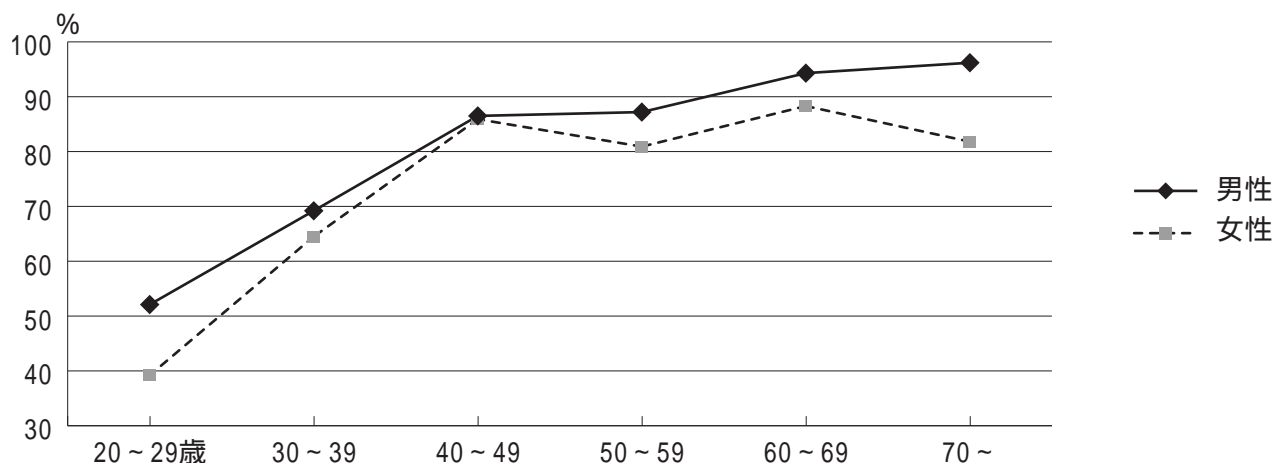


表6 - 6の若者調査結果に転じると、新聞を「毎日読む」割合はやはり、年齢が上がるに連れて増加している。反対に「まったく読まない」割合は年齢が上がるに連れて減少する。図6 - 3からは、有権者調査結果と同様に、「読む」派の割合が男性で高く女性で低いという一般的傾向も確認できる。

さらに、若者調査結果を学歴で細分した表6 - 7を見ると、学歴が高くなるに連れて新聞を読む割合が増加するという傾向を確認できる。

なお、新聞の政治面を「毎日読む」人は、有権者全体では34.0%だが、若者調査では7.0%(20代は8.0%)に過ぎない(表6 - 8)。

表6 - 6 若者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか(%)

年齢	毎日読んでい る	週に何回か読 んでいる	読む小計	あまり読まな い	まったく読ま ない	わからない	実数
16～19	17.7	23.8	41.5	33.5	23.6	1.4	487
20～24	19.9	22.6	42.5	33.8	22.9	0.8	713
25～29	25.7	23.7	49.3	30.7	19.7	0.2	841
全体	21.8	23.3	45.1	32.4	21.8	0.7	2,041

図6 - 3 若者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか
 (「毎日+週に何回か」読むと回答した人の割合)

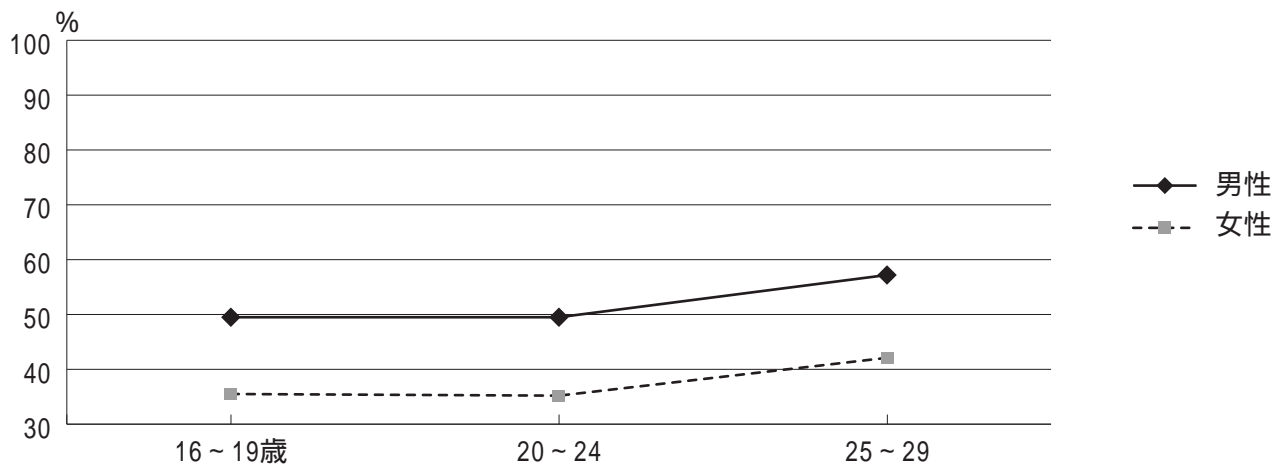


表6 - 7 若者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか(%)

学歴	毎日読んでい る	週に何回か読 んでいる	読む小計	あまり読まな い	まったく読ま ない	わからない	実数
中学・高校	20.5	19.3	39.9	34.0	24.9	1.2	808
高専・短大等	19.3	23.7	43.0	32.5	24.3	0.2	498
大学・大学院	24.8	27.5	52.3	30.6	16.5	0.5	738

表6 - 8 Q22S Q新聞の政治面をどのくらい読みますか「毎日読む」(%)

	年齢	%	実数	実数(全体)
有権者調査	20～29	6.1	18	293
	30～39	18.6	63	338
	40～49	27.8	101	363
	50～59	37.4	154	412
	60～69	49.7	219	441
	70～	55.3	192	347
	全体	34.0	747	2,194
若者調査	16～19	3.7	18	487
	20～29	8.0	124	1,554
	(20～24)	7.3	52	713
	(25～29)	8.6	72	841
	全体	7.0	142	2,041

インターネット

インターネットへのアクセス頻度に関しては、新聞と逆の傾向が見られる。図6 - 4の有権者調査結果を参照されたい。インターネットを「毎日使う」比率は、20代で最も高く、ほぼ半数を占める。「週に何回か使う」まで含めると75%を超えている。年齢が上がるに連れて減少していき、70歳以上が最も低くなっている。逆に、「まったく使わない」比率は明確な年齢による増加傾向を示している。男女別の結果を図6 - 5に示すと、20代を除く各年齢層で、男性の使用比率が女性を上回っていることが確認できる。

若者調査の結果を見ると、表6 - 9に明らかなように、使用頻度に関する年齢差が存在している。すなわち、「使う」派が圧倒的シェアを占めるのは同じだが、未成年者は「週に何回か」、成人は「毎日」がそれぞれ多数派となっている。男女別の図6 - 6を見ると、先の図6 - 5における20代と同じく、男女間での差は見られない。現在の若者の特徴はやはり男女とも「インターネット世代」ということのようなのである。若者を学歴で細分した表6 - 10によると、学歴に沿った相違が見られ、特に「毎日使う」という回答は大学・大学院卒とそれ以外との間の差が顕著である。

なお、インターネットのニュースサイトを「毎日見ている」人は、有権者全体で16.6%、若者調査でも21.1%(20代は24.3%)と少ない(表6 - 11)。

図6 - 4 有権者調査・Q24インターネットをどのくらい使っていますか

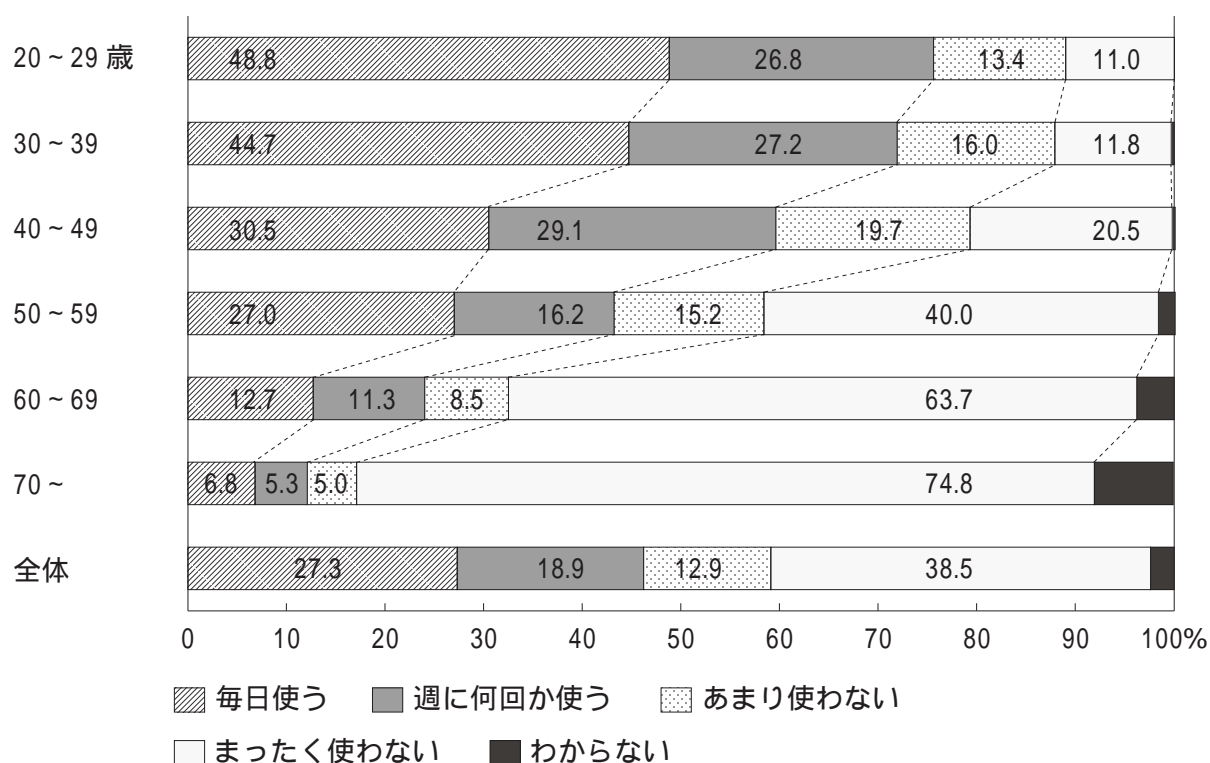


図6 - 5 有権者調査・Q24インターネットをどのくらい使っていますか
 (「毎日+週に何回か」使うと回答した人の割合)

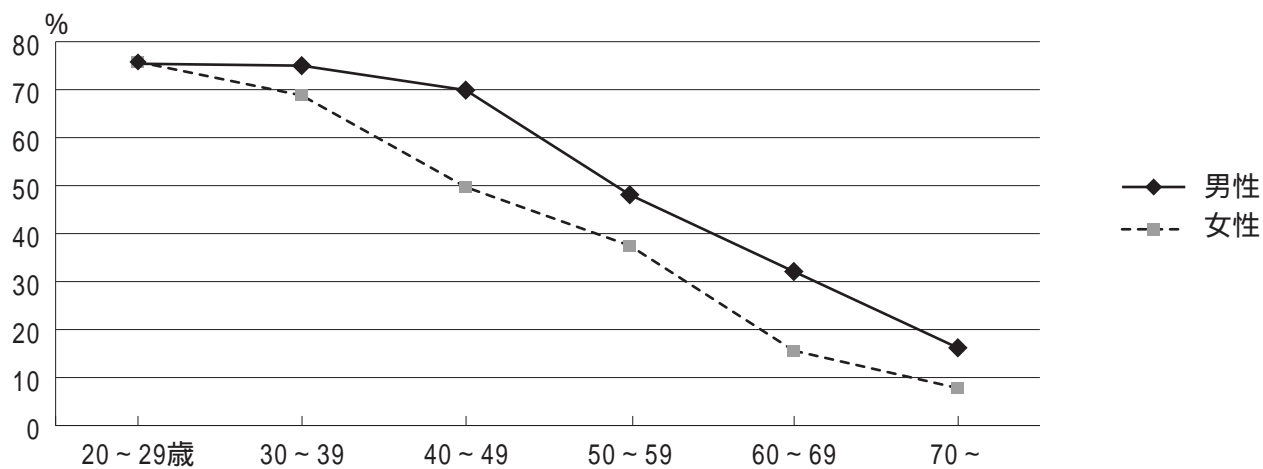


表6 - 9 若者調査・Q24インターネットをどのくらい使っていますか(%)

年齢	毎日使う	週に何回か使う	使う小計	あまり使わない	まったく使わない	わからない	実数
16～19	29.6	43.3	72.9	17.9	8.3	0.8	480
20～24	48.3	28.5	76.8	14.0	8.6	0.6	712
25～29	44.8	28.7	73.5	13.5	12.4	0.6	839
全体	42.4	32.1	74.5	14.7	10.1	0.6	2,031

図6 - 6 若者調査・Q24インターネットをどのくらい使っていますか
 (「毎日+週に何回か」使うと回答した人の割合)

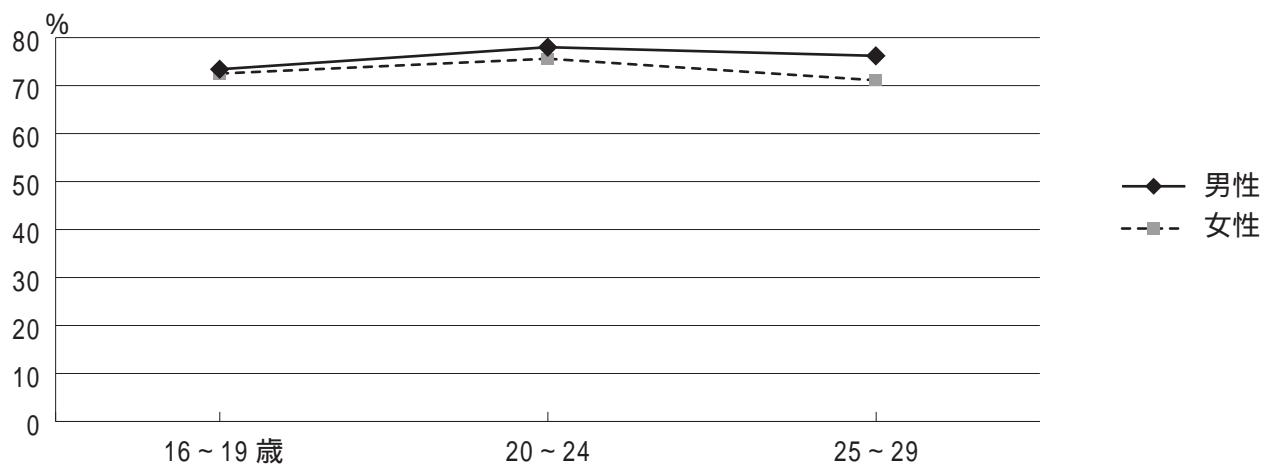


表6 - 10 若者調査・Q24インターネットをどのくらい使っていますか(%)

学歴	毎日使う	週に何回か使う	使う小計	あまり使わない	まったく使わない	わからない	実数
中学・高校	29.4	33.1	62.5	19.0	17.6	0.9	800
高専・短大等	37.3	34.1	71.3	16.8	11.4	0.4	499
大学・大学院	59.9	29.4	89.3	9.0	1.2	0.5	735

表6 - 11 Q24SQインターネットのニュースサイトをどのくらい見ますか「毎日見る」(%)

	年齢	%	実数	実数(全体)
有権者調査	20～29	26.8	78	291
	30～39	31.4	106	338
	40～49	18.0	65	361
	50～59	15.7	64	408
	60～69	6.8	29	424
	70～	5.0	17	337
	全体	16.6	359	2,159
若者調査	16～19	10.8	52	480
	20～29	24.3	377	1,551
	(20～24)	22.1	157	712
	(25～29)	26.2	220	839
	全体	21.1	429	2,031

テレビ

テレビの視聴頻度については、新聞やインターネットとは全く異なる傾向が見られる。

図6 - 7の有権者調査結果を参照されたい。テレビを「毎日見る」割合は、全年齢層を通じ70%以上という非常に高い比率を占めているが、60代の96.6%をピークに、年齢が下がるに連れて低下し、20代は74.4%まで低下している。男女別の図6 - 8を見ると、20代を除き、男女間の差はほとんど存在しない。この傾向は、表6 - 12の若者調査結果にも共通する。10代後半、20代前半、20代後半のすべてに関して、「毎日見る」割合が圧倒的多数を占めている。

ただ、図6 - 9の男女別結果を見ると、各年代を通じて女性の「見る」派の割合が男性を若干上回っていることが確認できる。就業別では、専業主婦の「毎日見る」割合が際立って高い。学歴に沿って比較した表6 - 13を見ると、どの学歴層においても「見る」派の割合は非常に高い。ただ、「毎日見る」割合は、大学・大学院卒の高学歴層で低下する傾向が見受けられる。なお、テレビのニュース番組を「毎日見る」人は、有権者全体で79.6%と高く、若者調査でも55.4%(20代は55.6%)と過半数を占める(表6 - 14)。

図6 - 7 有権者調査・Q23テレビをどのくらい見ますか(%)

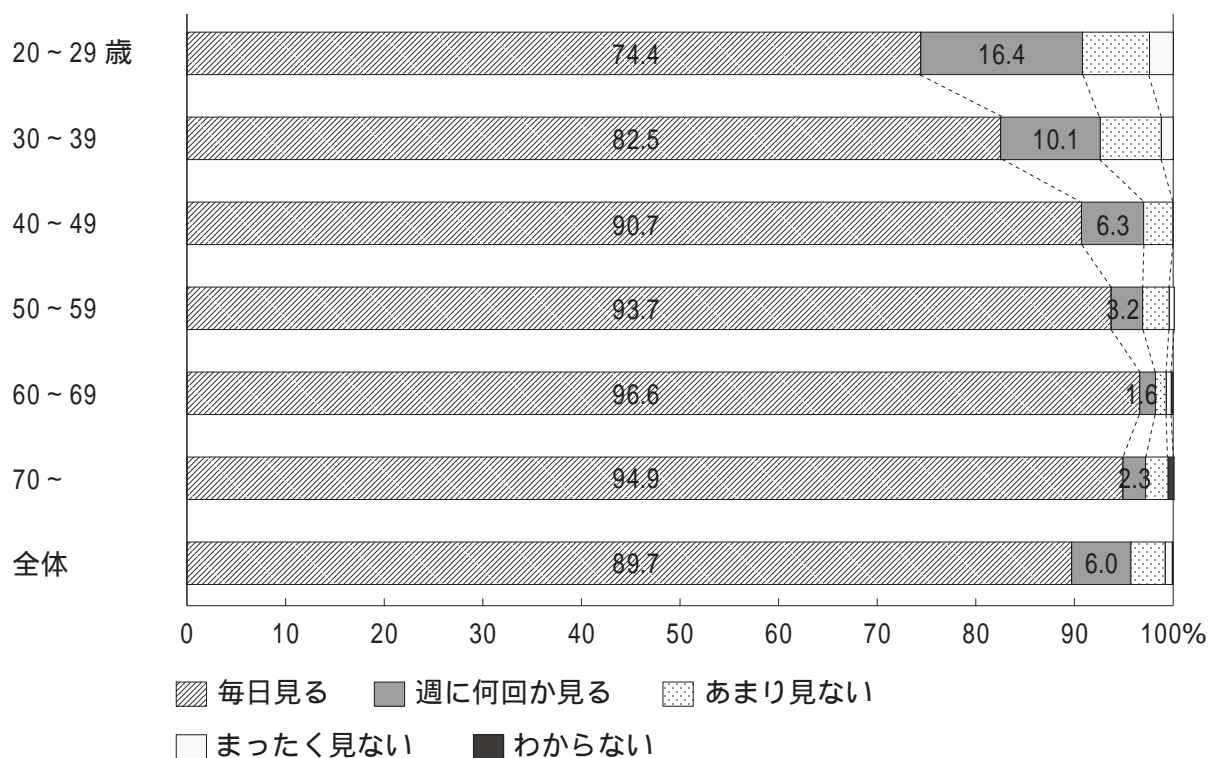


図6 - 8 有権者調査・Q23テレビをどのくらい見ますか
(「毎日+週に何回か」見ると回答した人の割合)

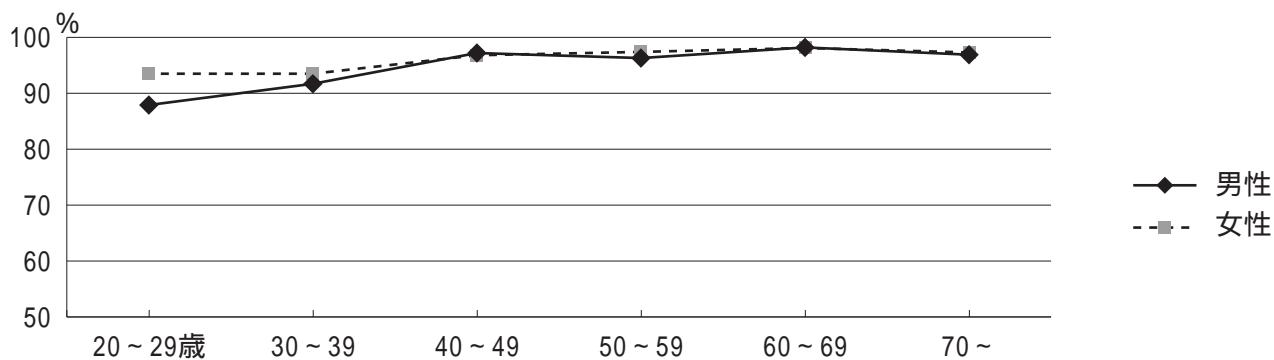


表6 - 12 若者調査・Q23テレビをどのくらい見ますか(%)

年齢	毎日見る	週に何回か見る	見る小計	あまり見ない	まったく見ない	わからない	実数
16～19	84.8	7.2	92.0	7.2	0.2	0.6	486
20～24	74.6	14.3	88.9	8.8	1.8	0.4	705
25～29	79.3	10.9	90.2	7.2	2.5	0.1	835
全体	79.0	11.2	90.2	7.7	1.7	0.3	2,026

図6 - 9 若者調査・Q23テレビをどのくらい見ますか
(「毎日+週に何回か」見ると回答した人の割合)

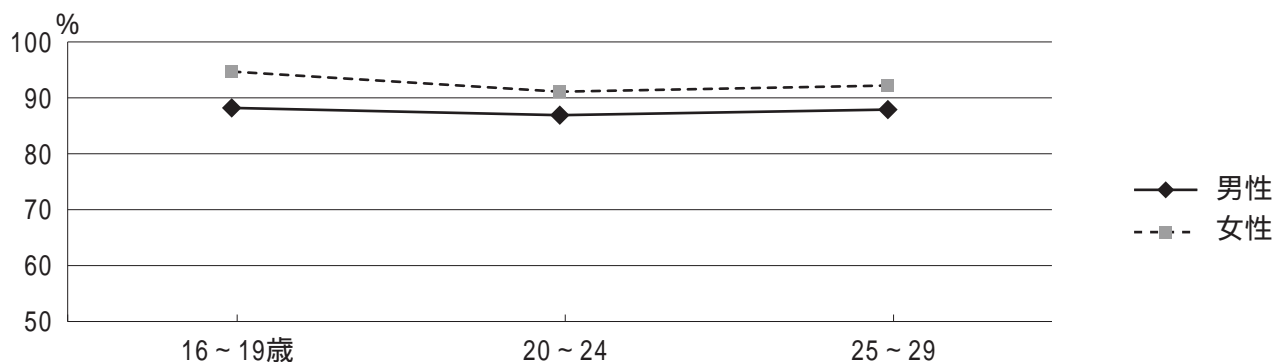


表6 - 13 若者調査・Q23テレビをどのくらい見ますか(%)

学歴	毎日見ている	週に何回か見ている	見ている小計	あまり見ない	まったく見ない	わからない	実数
中学・高校	84.3	8.8	93.2	5.5	0.9	0.5	805
高専・短大等	81.5	8.5	90.1	7.5	2.2	0.2	493
大学・大学院	71.7	15.5	87.1	10.3	2.3	0.3	731

表6 - 14 Q23SQテレビのニュース番組をどのくらい見ますか「毎日見る」(%)

	年齢	%	実数	実数(全体)
有権者調査	20～29	53.9	158	293
	30～39	64.5	218	338
	40～49	78.6	286	364
	50～59	87.3	359	411
	60～69	93.2	412	442
	70～	90.3	317	351
	全体	79.6	1,750	2,199
若者調査	16～19	54.5	265	486
	20～29	55.6	857	1,540
	(20～24)	52.8	372	705
	(25～29)	58.1	485	835
	全体	55.4	1,122	2,026

それでは、こうした情報環境と政治意識との関連はどうだろうか。ここでは、年齢差が見られた新聞を取り上げてみよう。表6 - 15および表6 - 16をご覧ください。これらは、新聞を読む頻度と政治関心の度合いとのクロスを示している。有権者全体、若者双方とも、「読む」派と「読まない」派間に政治への関心に大きな相違がある。

投票に対する考え方との関連について見ると、表6 - 17および表6 - 18に明らかなように、政治関心と同様、有権者全体、若者共通に、「読む」派で投票を「義務だ」ないし「棄権すべきではない」とする割合が高く、「読まない」派では逆に「個人の自由」とする割合が高い。新聞を読む習慣の有無は、投票への動機付けに相応の影響を及ぼしているように思われる。なお、新聞と同じく年齢差が見られたインターネットについても比較検討したが、インターネットへのアクセス頻度と政治関心や投票態度との間にそれほど明確な相関関係を確認することはできなかった。

これに対して、政治への満足度に関しては、まったく独特の脈絡が見られる。例えば、新聞を「読む」派と「読まない」派の、政治への満足度をまとめた表6 - 19および表6 - 20を見ると、有権者調査結果、若者調査結果に共通して、両派の間に相違は存在せず、双方とも「不満(かなり+やや)」割合が非常に高いことが確認される。つまり、新聞を読む、読まないにかかわらず、政治不満が一樣に高いということにほかならない。政治への満足度について見られるこの傾向は、新聞のみならずインターネットやテレビについても同様に確認でき、政治情報の多寡や政治関心の程度にかかわらず、多くの人々が高い政治不満を保有している。

表6 - 15 有権者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか×
Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか(%)

新聞を読む頻度	政治への関心						実数
	非常にある	ある程度ある	ある小計	あまりない	全然ない	ない小計	
毎日読む	23.6	64.3	87.9	10.8	0.9	11.6	1,401
週に何回か読む	15.0	62.6	77.5	18.9	2.1	21.0	334
あまり読まない	4.4	61.5	65.9	27.7	5.1	32.8	296
まったく読まない	6.3	43.1	49.4	34.4	11.9	46.3	160

表6 - 16 若者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか×
Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか(%)

新聞を読む頻度	政治への関心						実数
	非常にある	ある程度ある	ある小計	あまりない	全然ない	ない小計	
毎日読む	16.4	53.9	70.3	21.1	6.1	27.2	445
週に何回か読む	7.5	61.0	68.5	26.1	4.0	30.1	479
あまり読まない	5.7	45.6	51.4	38.1	6.6	44.7	664
まったく読まない	4.5	37.6	42.1	38.7	13.5	52.3	444

表6 - 17 有権者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか×
Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

新聞を読む頻度	投票することは			
	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	実数
毎日読む	38.9	42.1	18.3	1,400
週に何回か読む	33.8	37.1	28.1	334
あまり読まない	30.0	35.7	31.6	297
まったく読まない	22.6	21.4	52.2	159

表6 - 18 若者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか×
Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

新聞を読む頻度	投票することは			
	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	実数
毎日読む	31.2	33.5	33.3	445
週に何回か読む	30.3	34.2	34.2	479
あまり読まない	25.5	31.3	40.0	662
まったく読まない	23.9	24.8	47.9	443

表6 - 19 有権者調査・Q22新聞をどのくらい読みますか×
Q10今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか(%)

新聞を読む頻度	政治満足度					実数
	かなり満足	まあ満足	どちらでもない	やや不満	かなり不満	
毎日読む	0.9	4.0	12.8	25.0	56.3	1,397
週に何回か読む	0.9	3.3	12.3	26.3	54.2	334
あまり読まない	1.7	2.0	13.5	21.6	55.7	296
まったく読まない	1.9	3.2	18.4	17.1	54.4	158

表6 - 20 若者調査・Q2新聞をどのくらい読みますか×
Q10今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか(%)

新聞を読む頻度	政治満足度					実数
	かなり満足	まあ満足	どちらでもない	やや不満	かなり不満	
毎日読む	1.1	3.1	11.9	25.2	54.8	445
週に何回か読む	0.6	1.7	16.1	25.4	51.8	477
あまり読まない	0.9	1.4	18.4	28.5	45.2	662
まったく読まない	0.2	2.3	14.5	21.5	50.7	442

7 政党支持

「ふだんの支持政党」を質問した有権者調査結果をまとめると、表7-1のようになっている。自民党についての明確な特徴が、まず注目される。20代から70歳以上へと年齢が上がるに連れて支持率がきれいに増加する。自民党支持者に関する「若低 - 老高」型支持構造が、現在も継続していることを確認できよう。民主党についても、やはり年齢が上がるに連れて支持率の上昇が見られる。ただ、加齢効果は自民党ほどには明確でない。60代をピークに70歳以上で割合が減少していることを考慮すると、投票率パターンと表現した方が良いかもしれない。一方、自民・民主両党の「若低 - 老高」型と対照的な構造、すなわち、「若高 - 老低」型を示しているのが「支持政党なし」である。ただし、「支持政党なし」の割合が最も高いのは、20代ではなく30代であることに留意が必要だろう。20代においては他の年代と異なる特性として、「わからない」の割合が顕著に高いことが判明する。この「わからない」回答の示唆する意味的文脈を若者調査結果で考察してみよう。

表7-1 有権者調査・Q6ふだん何党を支持していますか(%)

年齢	自民党	民主党	他党	支持政党なし	わからない
20～29	10.5	10.2	9.5	50.5	20.0
30～39	16.7	13.1	5.2	57.4	7.6
40～49	25.8	16.9	7.9	44.4	5.1
50～59	32.8	19.5	7.8	38.3	2.3
60～69	39.8	22.9	9.0	25.9	2.3
70～	52.4	19.0	9.8	17.3	2.4
全体	30.7	17.5	8.2	38.1	5.9

表7-2の若者調査の結果をご覧いただきたい。自民党、民主党の支持率に関して、若者にも有権者全体と同様の傾向が存在している。すなわち同じ若者の中でも、10代後半から、20代前半、20代後半へと年齢が上がるに連れて自民党、民主党の支持率が増加する加齢効果が見受けられる。そうはいつても、両党の支持率自体が非常に小さい。若者において多数を占め、彼らの特徴付けるのは、年齢を問わず「支持政党なし」派である。

ここで注目すべきは、やはり「わからない」割合に見られる傾向である。通例「支持政党なし」の特性として知られる右肩下がりの構造は、「支持政党なし」層にではなく、「わ

からない」層に該当する。「支持政党なし」はむしろわずかではあるものの、常識とは反対に年齢が上がるに連れて増加傾向を示している。加えて、「わからない」割合は20歳を境に大きく減少しており、有権者年齢を契機に「わからない」ことではなくなる、言い換えるならば、何らかの意思表示が可能になっていくということを示唆していよう。この傾向は次のように解釈できるのではないか。若者においては、10代から20代へと年齢が上がることにより、これまで意味や脈絡のよくわからなかった政党支持に関して、「支持政党名」や「支持政党名なし」と回答できるようになる。言い換えるならば、「支持政党なし」とは、政治的社会化のワンステップとして位置付けられるということであろう。

表7 - 2 若者調査・Q6ふだん何党を支持していますか(%)

年齢	自民党	民主党	他党	支持政党なし	わからない	実数
16～19	9.2	6.5	1.9	46.8	35.6	477
20～24	14.7	8.2	4.3	54.4	18.6	699
25～29	16.0	10.3	5.8	56.6	11.3	831
全体	14.0	8.7	4.3	53.5	19.6	2,007

こうした解釈は、「自分自身を無党派層だと思うか」と聞いた質問の結果からも裏付けられる。有権者全体についてまとめた表7 - 3を見ると、無党派層だと「思う」とする割合の「若高 - 老低」型と「思わない」とする割合の「若低 - 老高」型という対照的な構図を確認できる。常識的な傾向だ。ところが、表7 - 4の若者調査結果では、「思う」、「思わない」双方とも、10代後半から20代前半に向けて増加し、20代後半は前半とほぼ同水準となる。「思う」と「思わない」とを合計した割合、すなわち意思表示ができる人の割合が20代になると上昇するという事にほかならない。逆に見れば、20代になると「わからない」割合は大きく減少する。これは20歳という現在の有権者年齢が大きな契機になっていると考えられ、今後の可能性の話として、有権者年齢の引き下げの効果が期待できるのではなかろうか。

なお、若者調査結果を学歴ごとに細分した表7 - 5によると、学歴が高いほど「わからない」が減少しており、特に大学・大学院卒とそれ以外との間の差が大きい。

表7 - 3 有権者調査・Q21自分自身を無党派層だと思いますか(%)

年齢	思う	思わない	わからない	実数
20～29	45.5	22.1	32.4	290
30～39	47.4	24.9	27.6	333
40～49	41.6	37.4	21.1	361
50～59	33.7	49.0	17.2	412
60～69	21.4	66.4	12.3	440
70～	15.0	68.3	16.8	334
全体	33.3	46.3	20.4	2,170

表7 - 4 若者調査・Q21自分自身を無党派層だと思いますか(%)

年齢	思う	思わない	わからない	実数
16～19	40.2	11.3	48.5	485
20～24	47.5	18.8	33.8	708
25～29	46.5	18.5	34.9	836
全体	45.3	16.9	37.8	2,029

表7 - 5 若者調査・Q21自分自身を無党派層だと思いますか(%)

年齢	学歴	思う	思わない	わからない	実数
16～19	中学・高校	38.3	10.6	51.1	376
	高専・短大等	42.9	7.1	50.0	42
	大学・大学院	50.0	18.2	31.8	66
	全体	40.3	11.4	48.3	484
20～24	中学・高校	40.7	15.4	44.0	182
	高専・短大等	44.1	12.8	43.1	195
	大学・大学院	53.2	24.2	22.7	331
	全体	47.5	18.8	33.8	708
25～29	中学・高校	36.9	17.4	45.6	241
	高専・短大等	42.4	17.9	39.7	257
	大学・大学院	56.3	20.1	23.7	334
	全体	46.4	18.6	35.0	832
全体	中学・高校	38.4	13.8	47.8	799
	高専・短大等	43.1	15.0	41.9	494
	大学・大学院	54.3	21.8	23.9	731
	全体	45.3	16.9	37.7	2,024

この無党派自己認識について、他の政治意識との関連を、政治的関心を例にとって確認してみよう。表7 - 6の有権者調査結果、表7 - 7の若者調査結果のいずれにおいても、政治に関心が「ある(非常に+ある程度)」人たちと「ない(あまり+全然)」人たちでは、無党派層だと「思う」か「思わない」かの間ではなく、「思う+思わない」と「わからない」との間で顕著な相違が見られる。「支持政党なし」や「無党派」は、やはり、政治的関心の一つのタイプとして位置付けられるかもしれない。

ここで改めて強調したいことは、「わからない」回答の取り扱い方の問題である。通常の意識調査研究において、「わからない」や「答えない」に相当するD K(Don't Know) ・ N A(No Answer)回答は、欠損値ないし欠測値として処理され、解析や解釈の対象から除外されることが多い。しかしながらこれまで見てきたように、これらの欠損値にこそ貴重な情報的価値が宿っている。すなわち、「わからない」回答は、若者の政治的社会化に関する重要な指標として扱う必要があると考えられる。

表7 - 6 有権者調査・Q21自分自身を無党派層だと思いますか×
Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか(%)

無党派層だと	政治への関心		
	非常に+ある程度ある	あまり+全然ない	実数
思う	77.3	22.0	727
思わない	91.9	8.0	1,008
わからない	59.3	36.0	445

表7 - 7 若者調査・Q21自分自身を無党派層だと思いますか×
Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか(%)

無党派層だと	政治への関心		
	非常に+ある程度ある	あまり+全然ない	実数
思う	62.2	36.5	923
思わない	73.9	25.2	345
わからない	43.5	48.8	768

8 学校教育

政治・選挙に関心を持たせる多面的な取り組みの一つが教育である。ここでは、学校における政治・選挙教育について検討する。

まず、どれほどの回答者に政治・選挙教育を受けたという記憶があるのでしょうか。高校までの授業で政治・選挙のことを「学んだ記憶がある」という回答の割合は、若者調査で88.7%、有権者調査で75.7%である。

学校で学んだこととして、「国民主権などの民主主義の基本」、「選挙区制などの選挙のしくみ」、「普通選挙権実現の歴史」、「選挙の意義と投票参加の重要性」、「投票所における投票の方法」、「模擬投票などの体験型学習」、「その他」を挙げてもらった。その結果、「国民主権などの民主主義の基本」や「選挙区制などの選挙のしくみ」に関しては、「学んだ記憶がある」という回答は7割を超えるが、「普通選挙権実現の歴史」は47.5%、「選挙の意義と投票参加の重要性」については34.6%と少ない。「投票所における投票の方法」や「模擬投票などの体験型学習」に関しては、10%台に留まる(表8-1)。

表8-1 若者調査・Q18S Q2高校までの学校の授業で学びましたか(%) 実数2,048

国民主権などの民主主義の基本	73.0
選挙区制などの選挙のしくみ	73.6
普通選挙権実現の歴史	47.5
選挙の意義と投票参加の重要性	34.6
投票所における投票の方法	14.3
模擬投票などの体験型学習	10.9
その他	0.7

政治や選挙を学んだ記憶がある人となない人では、政治的関心や投票義務感に違いがあるのであろうか。表8-2と表8-3を見ると、「学んだ記憶がある」人は、そうではない人に比べ、政治に対する関心がある(「非常に」ないし「ある程度」という回答が顕著に多く、投票義務感に関しては、「投票する、しないは個人の自由」という回答は少ない。政治・選挙教育により、政治的関心と投票参加志向が高まったと解釈することができよう。

なお、Q20で「あなたの高校までの学校では、投票による児童会・生徒会選挙がありましたか」と質問したところ表8-4の通りであった。立会演説などを伴う児童会・生徒会選挙は、選挙に関心を持たせる絶好の機会であるが、小学校においては「あった」とする人が半分以下に留まっている。

表8 - 2 若者調査・Q18高校までの学校の授業で政治や選挙を学んだ記憶がありますか×
Q4国や地方の選挙にどの程度関心がありますか(%)

政治や選挙を学んだ記憶	政治への関心			
	非常に + ある程度ある	あまり + 全然ない	わからない	実数
ある	60.1	36.8	3.1	1,816
ない	34.6	58.0	7.4	231
全体	57.2	39.2	3.6	2,047

表8 - 3 若者調査・Q18高校までの学校の授業で政治や選挙を学んだ記憶がありますか×
Q12選挙での投票についてどれに近い考えをお持ちですか(%)

政治や選挙を学んだ記憶	投票することは				
	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない	実数
ある	28.2	32.2	37.6	2.0	1,811
ない	22.4	19.8	50.0	7.8	232
全体	27.5	30.8	39.0	2.7	2,043

表8 - 4 Q20高校までの学校では投票による児童会・生徒会選挙がありましたか(複数回答)(%)

	年齢	小学校であった	中学校であった	高校であった	ない	わからない	実数
有権者調査	20～29	48.4	82.9	62.4	4.2	4.9	287
	30～39	57.4	68.3	49.2	9.1	7.9	331
	40～49	56.8	74.1	57.4	4.7	6.7	359
	50～59	41.5	75.1	55.6	8.6	8.1	405
	60～69	25.6	63.1	45.4	12.9	12.5	425
	70～	16.0	35.8	25.6	38.0	11.8	313
	合計	40.6	66.7	49.3	12.6	8.8	2,120
若者調査	16～19	33.7	89.2	79.5	2.7	3.3	483
	20～24	45.3	82.6	66.1	4.8	5.2	708
	25～29	51.3	75.6	51.1	6.9	8.0	837
	合計	45.0	81.3	63.1	5.2	5.9	2,028

また、政治を扱ったテレビドラマやコミックを見た(読んだ)経験について、若者調査においては、ドラマは「CHANGE」(木村拓哉主演)が最も多く(52.2%) コミックは「クニミツの政」(安童夕馬作)が最も多い(18.1%)という結果になった。一方、「見たり読んだりしたことはない」という回答も3分の1以上あった(34.2%)。若年層にも人気がある「C

「H A N G E」の視聴経験と政治意識との関係ははっきりしないが、政治的な関心とは関連するようである。「C H A N G E」を見たという人が、国や地方の政治に対する関心が「非常にある」ないし「ある程度ある」と回答する割合は、見ていない人のそれよりも若干高い(61.6%に対して52.7%)。政治的な関心が高い人が視聴しているからなのか、視聴の結果、関心が高まったのか、判断は難しい。

次に、政治・選挙教育の必要性についての意見を見てみよう(図8 - 1、図8 - 2)。「学校で政治や選挙の重要性を教えることは必要だと思いますか」という質問に対し、「必要」と回答した人は、有権者調査では89.1%、若者調査では85.1%と高く、年齢や男女による違いもあまりない。既に紹介した、「投票率の低下は問題で、何らかの対策を講ずべき」という回答割合の高さとあわせて考えると、投票率を向上させるために、政治・選挙教育を展開するための社会的な合意はできているといえよう。

図8 - 1 有権者調査・Q19学校で政治や選挙の重要性を教えることは必要だと思いますか
(「必要」と回答した人の割合)

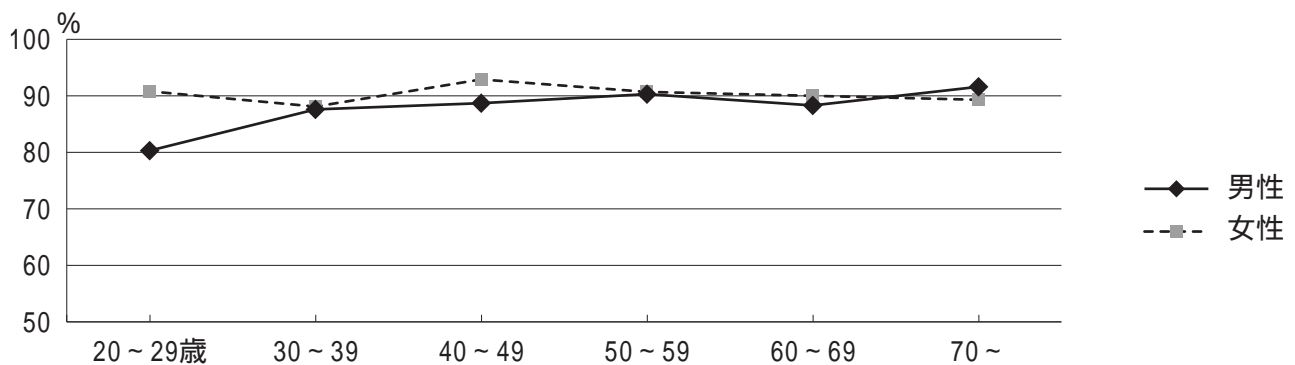
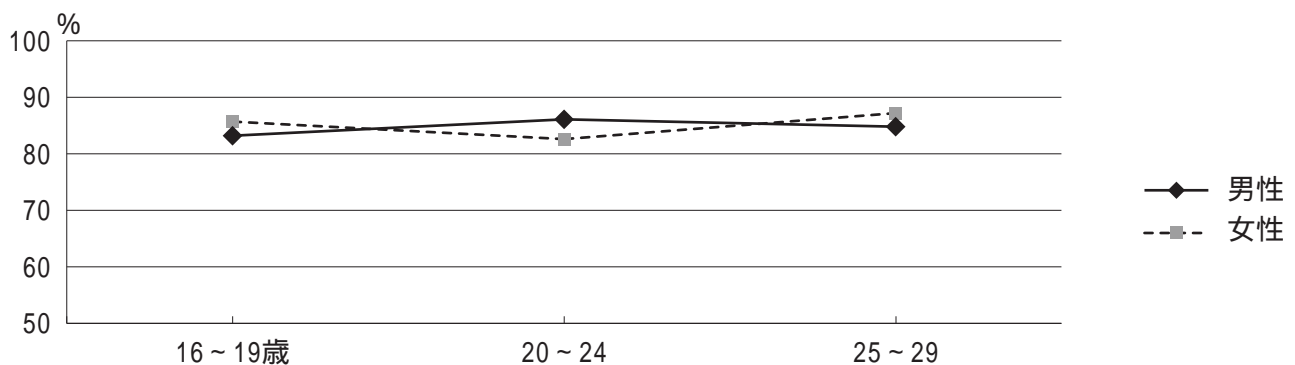


図8 - 2 若者調査・Q19学校で政治や選挙の重要性を教えることは必要だと思いますか
(「必要」と回答した人の割合)



9 一番印象に残っている政治的な出来事

以下では、自由回答を用いて、最も印象に残っている政治的な出来事を分析する。

まずは、有権者調査の結果を検討する。自由回答の分析によって抽出された語彙を各カテゴリーに分け、表9 - 1のように、その度数と割合を計算した。上位10位までを掲げている。一人の回答から複数の語彙が抽出される場合、それぞれの語彙は適当なカテゴリーに分類される。従って、度数の合計と回答者数が一致しないことに注意されたい。

分析の結果、総理大臣に関する言及が一番多く、次いで郵政民営化、ロッキード事件、北朝鮮、消費税と続く。なお、印象に残っている出来事を一つも挙げなかった人が51.5%いた。総理大臣に対する言及数の内訳を見ると、小泉首相に対するものが最も多く(64)、次いで、安倍首相(30)、福田首相(25)と続く。小泉首相に対する言及は郵政民営化、安倍首相や福田首相に対するそれは辞任というように、それぞれ関連付けられて言及されていることが多い。また、北朝鮮問題は拉致被害者の帰国、大統領はオバマ政権の発足に関する言及が多い。日本に関する言及は様々であるが、アメリカについては、オバマ大統領と同時多発テロに関するものが多かった。

表9 - 1 有権者調査・Q25今までで一番印象に残っている政治的な出来事はなんですか(自由回答)

カテゴリー	度数	割合(%)
1 総理大臣に関する出来事	204	18.9
2 郵政民営化	106	9.8
3 ロッキード事件	87	8.1
4 北朝鮮問題	66	6.1
5 消費税の導入	65	6.1
6 大統領に関する出来事	42	3.9
7 年金問題	37	3.4
8 自民党に関する出来事	36	3.3
9 日本に関する出来事	31	2.9
10 アメリカに関する出来事	28	2.6

実数 1,079

当然のことながら、年齢によって記憶に残る出来事は異なると考えられる。そこで、上位5位までのカテゴリーについて、年齢層ごとに言及の割合を表9 - 2で見た。総理大臣についての言及は、年齢によって「どの総理大臣か」という違いはあるものの、概ね小泉首相以降の総理大臣の名前を挙げる人が多い。郵政民営化は比較的に若い層にインパクトがあったようである。対照的に、ロッキード事件は40代以降の印象に残る事件である。北朝鮮問題は年齢にかかわらず、幅広く関心を集めている。消費税については、30代で突出した回答割合を示している。

表9 - 2 有権者調査・Q25今までで一番印象に残っている政治的な出来事はなんですか(自由回答)

年齢	総理大臣	郵政民営化	ロッキード事件	北朝鮮	消費税	実数
20～29	20.5	10.3	0.7	4.1	7.5	146
30～39	20.3	12.6	1.4	5.6	12.6	143
40～49	19.6	13.0	9.8	8.2	9.2	184
50～59	17.7	8.7	12.6	8.2	4.8	231
60～69	19.0	8.6	11.6	5.2	1.7	232
70～	16.8	6.3	7.0	4.2	3.5	143
合計	18.9	9.8	8.1	6.1	6.1	1,079

若者調査の結果(表9 - 3)は、上記の分析結果を裏付けるものとなっている(各カテゴリーの度数の合計は970)。有権者調査の結果と同様に、総理大臣に対する言及が最も多い。特に目立つのが、安倍首相や福田首相の相次ぐ辞任に関するものである。否定的な感想を伴う場合も多く、若年層における政治不信の原因となっている可能性を否定できない。二番目に郵政民営化が続く点は同じであるが、三番目には大統領に対する言及が来ている。前年に行われたアメリカ大統領選挙に対する関心の高さが伺える。続いて、消費税、北朝鮮、年金問題となっている。消費税は税率引き上げについての言及である点が、有権者調査との違いである。日本に関しては、オバマ政権を生み出したアメリカと首相の交代が重なった日本を比較したり、日本の対アジア外交を批判する言及が散見される。選挙については、郵政民営化が争点となった2005年の総選挙を挙げる回答が多い。なお、5歳刻みの年齢カテゴリーごとの回答傾向に顕著な違いは見られなかった。

政治意識との関連では、国や地方の政治に対する関心が高い人は何らかの回答をする傾向にある。例えば、総理大臣に関する言及では、政治的関心が「非常にある」、「ある程度ある」という人の言及割合は14.7%であるのに対し、「あまりない」、「全然ない」という人のそれは9.6%に留まる。

表9 - 3 若者調査・Q25今までで一番印象に残っている政治的な出来事はなんですか(自由回答)

カテゴリー	度数	割合(%)
1 総理大臣に関する出来事	253	26.1
2 郵政民営化	149	15.4
3 大統領に関する出来事	68	7.0
4 消費税の税率の引き上げ	66	6.8
5 北朝鮮問題	42	4.3
6 年金問題	34	3.5
7 日本に関する出来事	29	3.0
8 選挙に関する出来事	20	2.1
9 様々な問題	18	1.9
10 定額給付金	18	1.9

実数 970

10 若干の考察

最後に、今回の若者の政治意識調査結果に関する若干の概観的まとめをしておきたい。

現在の若年層においては、政治関心や参加意識、政治的認知や判断など、加齢に応じたノーマルな社会化が確認された。加えて、88年調査、98年調査の調査結果で共通に見られた傾向とは異なり、政治への関心の高まりや堅実な生活態度の増加という変化も見受けられた。

ただ、その一方で、若者固有の特徴として、政治に対する信頼や満足度、および政治的有効性感覚などに関する否定的な傾向が顕著であった。例えば、政治的信頼を取り上げると、選挙制度を除く他の制度的アクター、とりわけ政党と国会に対する信頼度は極めて低い。また、有効性感覚についても、国民および自らのポテンシャルを非常にネガティブに評価している。さらに、「政治に対する満足度」では極めて強い不満が示されている。98年調査の報告書においても、若者の政治イメージの悪化が指摘されてはいる。しかしながら、98年調査の結果では、国会や政党に対しては肯定的評価が否定的評価を上回っており、今回のような顕著な否定的傾向と同一視はできないだろう。

加えて、これらの項目に共通する傾向として、年齢による相違があまり見られないことも特色として挙げなければならない。すなわち、10代後半という政治参加を前にした少年時に、言い換えるならば、政治への関心や政治に対する認知・判断基準を持ち合わせる前段階で、すでに政治不信や政治的無力感を内化させている。

98年調査の報告書は、彼ら若者の間で「政治に関心を持つきっかけとなった事件」として汚職事件や政治スキャンダルを挙げる人が多いことについて、「政治スキャンダルが政治関心の形成のきっかけになるとすると、青少年期に形成された政治不信がその後も継続する」と指摘している。今回の「一番印象に残っている政治的出来事」の回答結果においても、ほぼ同様の傾向を確認することができた。現実の政治社会との関わりが薄い若者だからこそ、ひとたび形成された政治への不信や不満は、それを中和する機会のないまま先入観として高い比率で定着してしまうのかもしれない。社会や自分の将来に対する生真面目さを持ち合わせつつも、同時にまた、政治に対する根強い不信と自らの政治的有効性に否定的な彼らの、日々の内なる葛藤の一端を伺い知ることができよう。

こうした悪循環的状况を少しでも解消させる方法として、小中学校レベルの早い段階から、政治・選挙教育の展開が望まれる。有権者年齢の引き下げについても前向きに対応すべきであろう。

調査票と回答の単純分布

「若者の政治に関する意識調査」16～29歳

数字は%

整理番号1-

回答は質問番号、矢印に従って進んでください。あてはまる番号に○をつけて頂くものと、ご意見等を記入して頂くものがあります。記入は鉛筆又は黒ボールペンでお願いします。

名前をお書きになる必要はありません。右上にある「整理番号」は、調査票が返送されたかどうかの確認や集計を匿名で行うために用意させていただいたものです。

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？ それぞれ1つ選んで番号に○をつけてください。

(1) 努力すればいつか報われる。

38.2	そう思う	7.7	そうは思わない	n=2053
43.4	どちらかといえばそう思う	3.9	わからない	
6.6	どちらかといえばそうは思わない	0.1	無回答	

(2) みんなが力を合わせたら社会を変えることができる。

40.9	そう思う	9.5	そうは思わない	n=2053
35.3	どちらかといえばそう思う	5.6	わからない	
8.6	どちらかといえばそうは思わない	0.1	無回答	

(3) 将来のことよりも今の生活を楽しみたい。

14.5	そう思う	27.6	そうは思わない	n=2053
28.8	どちらかといえばそう思う	7.1	わからない	
21.6	どちらかといえばそうは思わない	0.3	無回答	

(4) 生活できるならば定職につく必要はない。

8.7	そう思う	66.6	そうは思わない	n=2053
8.5	どちらかといえばそう思う	3.6	わからない	
12.5	どちらかといえばそうは思わない	0.0	無回答	

Q2 次のことについて、自分にあてはまると思うものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

16.7	ゴミのポイ捨てをすることがある	53.0	仕事や勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ	
27.2	電車やバスの中で化粧する人を見ても気にならない	29.5	人付き合いが苦手だ	n=2053
19.2	ボランティア活動には興味がない	14.0	無回答	回答計 156.9

Q3 あなたは誰かと政治的な事柄を話題にしたり、議論をしたりすることがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

3.3	毎日ある	24.2	まったくない	n=2053
18.6	週に何回かある	12.8	その他（ ）	
35.2	週に1度ぐらいある	5.9	わからない	0.1 無回答

Q4 あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

8.1	非常に関心がある	7.4	全然関心がない	n=2053
49.1	ある程度関心がある	3.6	わからない	
31.7	あまり関心がない	0.1	無回答	

Q 5 あなたは、今関心をもっている政治的な問題がありますか。あれば具体的にお書きください。

Q 6 あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=2053

13.6 自由民主党	1.1 日本共産党	— 新党日本	0.5 その他 (Q 7 へ)
8.5 民主党	0.4 社会民主党	— 改革クラブ	52.5 支持政党なし
2.1 公明党	0.1 国民新党	0.0 新党大地	19.2 わからない
		1.9 無回答	回答計 100.0

Q 6 S Q 「(支持政党なし)」、「わからない」と答えた方に)

あなたは支持するまでではなくても、ふだん好ましいと思っている政党がありますか。あれば1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1473

13.0 自由民主党	2.0 日本共産党	0.3 新党日本	0.5 その他
10.7 民主党	0.7 社会民主党	0.1 改革クラブ	46.9 ない
0.8 公明党	0.3 国民新党	0.3 新党大地	22.7 わからない
		2.6 無回答	回答計 100.8

Q 7 あなたは、自分自身の生活と政治とはどの程度関係しているとお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

20.9 非常に関係している	5.6 全然関係していない	n=2053
44.8 ある程度関係している	6.5 わからない	
19.0 あまり関係していない	3.2 無回答	

Q 8 国民と選挙や政治の関わりあいに関する次のことについて、それぞれあなたのお気持ちを1つ選んで番号に○をつけてください。

(1) 自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、投票しても無駄である。

8.7 そう思う	56.6 そうは思わない	n=2053
12.5 どちらかといえばそう思う	9.4 わからない	
12.4 どちらかといえばそうは思わない	0.4 無回答	

(2) 選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくてもかまわない。

6.7 そう思う	57.6 そうは思わない	n=2053
15.7 どちらかといえばそう思う	4.6 わからない	
15.0 どちらかといえばそうは思わない	0.4 無回答	

(3) 自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない。

39.2 そう思う	13.9 そうは思わない	n=2053
30.1 どちらかといえばそう思う	8.0 わからない	
8.6 どちらかといえばそうは思わない	0.2 無回答	

(4) 自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい。

11.4 そう思う	53.0 そうは思わない	n=2053
12.9 どちらかといえばそう思う	8.7 わからない	
13.6 どちらかといえばそうは思わない	0.4 無回答	

Q 9 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

30.0 国会議員	6.7 国民一人一人	3.3 その他 ()
27.8 官僚	5.0 大企業	9.6 わからない n=2053
7.3 首相	11.9 マスコミ	0.7 無回答 回答計 102.2

Q 10 あなたは、今の日本の政治のあり方に、どの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

0.7 かなり満足	25.4 やや不満	n=2053
2.0 まあ満足	49.6 かなり不満	
15.6 どちらともいえない	6.2 わからない	0.4 無回答

Q 11 あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。それぞれあなたのお気持ちを1つ選んで番号に○をつけてください。

(1) 選挙制度

5.4 かなり信頼できる	14.3 ほとんど信頼できない	n=2053
40.8 ある程度信頼できる	13.4 わからない	
25.6 あまり信頼できない	0.4 無回答	

(2) 政党

0.6 かなり信頼できる	32.3 ほとんど信頼できない	n=2053
11.1 ある程度信頼できる	14.8 わからない	
40.8 あまり信頼できない	0.4 無回答	

(3) 国会

0.6 かなり信頼できる	36.2 ほとんど信頼できない	n=2053
11.0 ある程度信頼できる	11.9 わからない	
40.0 あまり信頼できない	0.2 無回答	

(4) 中央省庁

0.8 かなり信頼できる	27.5 ほとんど信頼できない	n=2053
11.4 ある程度信頼できる	28.3 わからない	
31.7 あまり信頼できない	0.3 無回答	

(5) マスコミ

2.2 かなり信頼できる	28.7 ほとんど信頼できない	n=2053
21.9 ある程度信頼できる	9.6 わからない	
37.3 あまり信頼できない	0.2 無回答	

Q 12 あなたは選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

27.4 投票することは、国民の義務である	n=2053
30.8 投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない	
38.9 投票する、しないは個人の自由である	
2.7 わからない	0.3 無回答

Q 1 3 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | | |
|------|------------------------------------|---------|
| 14.9 | 投票するかしないかは個人の自由なので、別にかまわないと思う | n=2053 |
| 36.1 | 自分たちの代表を選ぶ選挙だから、好ましくはないが、やむをえないと思う | |
| 44.0 | 投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずべきだと思う | |
| 4.2 | わからない | 0.8 無回答 |

Q 1 4 期日前投票制度をご存知ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | | | | | | |
|------|-------|------|----------------|-----|-----|--------|
| 70.9 | 知っている | 28.5 | 知らない (Q 1 5 へ) | 0.5 | 無回答 | n=2053 |
|------|-------|------|----------------|-----|-----|--------|

Q 1 4 S Q (「知っている」と答えた方に)

期日前投票制度について、次のうち正しいと思うものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | | | |
|------|--------------------------------------|-----------|
| 88.1 | 投票日に仕事があるときは期日前投票をすることができる | n=1456 |
| 12.0 | 投票日に友人の結婚式に出席するときは期日前投票をすることができない | |
| 12.9 | 投票日にレジャーで出かける予定があるときは期日前投票をすることができない | |
| 7.6 | 期日前投票は平日しかできない | |
| 45.1 | 期日前投票は午後8時までできる | |
| 8.0 | わからない | 0.4 無回答 |
| | | 回答計 174.2 |

Q 1 5 次にあげる政党の現在の党首は、誰でしょうか。下の人物リスト(1~16)から選んで()内に番号をお書きください。

政党	ア	自由民主党 ()	ウ	公明党 ()	オ	社会民主党 ()
※別紙参照	イ	民主党 ()	エ	日本共産党 ()	カ	国民新党 ()

- | | | | | | | | | |
|----|---|------|---|------|----|-------|----|------|
| 人物 | 1 | 麻生太郎 | 5 | 小沢一郎 | 9 | 小泉純一郎 | 13 | 福田康夫 |
| | 2 | 安倍晋三 | 6 | 亀井静香 | 10 | 志位和夫 | 14 | 不破哲三 |
| | 3 | 太田昭宏 | 7 | 菅直人 | 11 | 土井たか子 | 15 | 綿貫民輔 |
| | 4 | 岡田克也 | 8 | 神崎武法 | 12 | 福島瑞穂 | 16 | 前原誠司 |

Q 1 6 政治を扱ったテレビドラマやコミックがあります。次の中から、あなたが見たり読んだりしたことがあるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

- | | | |
|------|------------------------------|-----------|
| 51.3 | CHANGE (テレビドラマ、木村拓哉 主演) | n=2053 |
| 3.9 | ザ・ホワイトハウス (テレビドラマ、アメリカ作品) | |
| 4.5 | レッツ・ゴー! 永田町 (テレビドラマ、石橋貴明 主演) | |
| 0.8 | 加治隆介の議 (コミック、弘兼憲史 著) | |
| 17.8 | クニミツの政 (コミック、安童夕馬 作) | |
| 0.3 | ㊦タネタミキオでございます。 (コミック、塚脇永久 画) | |
| 33.6 | 見たり読んだりしたことはない | |
| 4.8 | わからない | 1.8 無回答 |
| | | 回答計 118.7 |

Q 1 7 あなたのご両親についてお伺いします。あてはまるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

- | | | | | |
|------|---------------------|------|--------------------|-----------|
| 74.7 | 親はテレビのニュース番組をよく見ていた | 43.2 | 親と一緒に投票所に行ったことがある | n=2053 |
| 53.5 | 親と政治の話をしたことがある | 33.1 | 親から投票に行けと言われたことがある | |
| 80.6 | 親は投票に行っている | 4.0 | どれにもあてはまらない | 0.2 無回答 |
| | | | | 回答計 289.1 |

Q 1 8 あなたは高校までの学校の授業で、政治や選挙のことを学んだ記憶がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

88.5 ある 11.3 ない (Q 1 9 へ) 0.2 無回答 n=2053

Q 1 8 S Q 1 (「ある」と答えた方に)

学んだ記憶がある時期を、すべて選んで番号に○をつけてください。

38.1 小学校で学んだ記憶がある } 3.0 わからない (Q 1 9 へ) n=1816
83.8 中学校で学んだ記憶がある } 1.0 無回答
68.1 高校で学んだ記憶がある } 回答計 193.9

Q 1 8 S Q 2 (小中高のいずれかで、「ある」と答えた方に)

次のことを学びましたか。あてはまるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

85.7 民主権や多数決などの民主主義の基本 16.8 投票所における投票の方法 n=1744
86.4 選挙区制や選挙権年齢などの選挙のしくみ 12.8 ディベートや模擬投票などの体験型学習
55.8 普通選挙権実現の歴史 0.8 その他 ()
40.6 選挙の意義と投票参加の重要性 3.2 わからない 0.6 無回答 回答計 302.7

Q 1 9 学校で、政治や選挙の重要性を教えることは必要だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

84.4 必要 3.0 必要でない 11.8 わからない 0.8 無回答 n=2053

Q 2 0 あなたの高校までの学校では、投票による児童会・生徒会選挙がありましたか。あてはまるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

44.6 小学校であった 5.1 ない n=2053
80.7 中学校であった 5.8 わからない
62.7 高校であった 0.8 無回答 回答計 199.8

Q 2 1 無党派層という言葉がよく使われますが、あなたは自分自身を無党派層だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

45.0 無党派層だと思う 16.8 無党派層だとは思わない 37.5 わからない 0.8 無回答 n=2053

Q 2 2 あなたは新聞をどのくらいお読みになりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

21.7 毎日読んでいる } 21.6 まったく読まない } (Q 2 3 へ) n=2053
23.4 週に何回か読んでいる } 0.8 わからない
32.3 あまり読まない (Q 2 3 へ) 0.2 無回答

Q 2 2 S Q (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

政治面をどのくらいお読みになりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

15.4 毎日読んでいる 8.4 まったく読まない n=925
41.2 週に何回か読んでいる 0.3 わからない
33.8 あまり読まない 0.9 無回答

Q 2 3 あなたはテレビをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

78.3 毎日見ている	}	1.7 まったく見ない	} (Q 2 4 へ)	n=2053
11.1 週に何回か見ている		0.4 わからない		
7.6 あまり見ない (Q 2 4 へ)		0.9 無回答		

Q 2 3 S Q (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

ニュース番組をどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

61.5 毎日見ている	0.8 まったく見ない	n=1834
28.7 週に何回か見ている	0.1 わからない	
8.0 あまり見ない	0.9 無回答	

Q 2 4 あなたはインターネットをどのくらい使っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

42.0 毎日使う	}	10.1 まったく使わない	} (Q 2 5 へ)	n=2053
31.8 週に何回か使う		0.7 わからない		
14.7 あまり使わない (Q 2 5 へ)		0.7 無回答		

Q 2 4 S Q 1 (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

ニュースサイトをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

28.3 毎日見ている	14.5 まったく見ない	n=1515
30.7 週に何回か見ている	0.3 わからない	
25.3 あまり見ない	1.0 無回答	

Q 2 4 S Q 2 (Q 2 4 で、「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

あなたがインターネットにアクセスするのは、主にパソコンからですか、それとも携帯電話からですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=1515

59.1 パソコンから	27.3 携帯電話から	0.2 わからない	14.1 無回答	回答計100.7
-------------	-------------	-----------	----------	----------

Q 2 5 あなたが今までで一番印象に残っている政治的な出来事はなんですか。あれば具体的にお書きください。

F 1 あなたは男性ですか、女性ですか。

47.4 男性	52.5 女性	0.0 無回答	n=2053
---------	---------	---------	--------

F 2 あなたのお年は満でいくつですか。

11.1 16～17歳	12.7 18～19歳	34.8 20～24歳	41.1 25～29歳	0.4 無回答	n=2053
-------------	-------------	-------------	-------------	---------	--------

F 3 あなたが最後に在籍した（または現在在籍している）学校を選んでください。

2.1 中学校	35.9 大学・大学院	n=2053
37.3 高校	0.0 わからない	
24.4 高等専門学校・短期大学・専修学校	0.2 無回答	

F 4 あなたは何か仕事をしていますか。

54.0 仕事をしている	5.1 専業主婦	} (F 5へ)	n=2053
35.5 学生 (F 5へ)	5.2 無職		0.2 無回答

F 4 S Q 1 (「仕事をしている」と答えた方に)

どのようなかたちで仕事をしていますか。あなたの状況に一番近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1.2 経営者・役員・管理職	25.2 パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託	n=1109
61.9 正社員・正職員	4.2 自営業(家族従業を含む)	
5.8 派遣社員	1.1 その他	0.7 無回答

F 4 S Q 2 (F 4で、「仕事をしている」と答えた方に)

下記のように分類した場合、どれにあたりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

2.0 農・林・水産業に関わる仕事	n=1109
1.8 保安の仕事(警察、消防、自衛隊、警備など)	
3.9 運輸・通信の仕事(トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など)	
17.8 製造業の仕事(製品製造、建設、土木など)	
31.6 販売・サービスの仕事	
22.5 専門・技術の仕事(医師、看護師、弁護士、教師、デザイナーなど)	
14.5 事務の仕事(企業・官公庁における事務、経理、内勤の仕事など)	
4.6 その他()	1.4 無回答

F 5 あなたは結婚していらっしゃいますか。

15.4 結婚している (F 6へ)	84.4 結婚していない	0.2 無回答	n=2053
--------------------	--------------	---------	--------

F 5 S Q (「結婚していない」と答えた方に)

あなたは一人住まいですか、親や家族と同居していますか。

18.4 一人住まい	77.8 親や家族と同居	3.0 その他	0.8 無回答	n=1732
------------	--------------	---------	---------	--------

F 6 あなたは、このような団体に加入していますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

0.4 政治家の後援会	2.6 宗教団体	n=2053
7.1 自治会・町内会	10.2 同好会・趣味のグループ	
0.3 婦人会	0.2 住民運動・消費者運動・市民運動の団体	
1.9 青年団・消防団	13.8 学校での自治会・部会・サークル	
— 老人クラブ(会)	1.3 NPO・地域づくり団体	
1.2 PTA	0.9 その他()	
0.2 農協その他の農林漁業団体	55.8 どれにも加入していない	
6.0 労働組合	4.4 わからない	
0.4 商工業関係の経済団体	5.2 無回答	回答計 110.0

長い時間ご協力いただきまして、ありがとうございました。

回答された日付をご記入ください。
(月 日)

※縮ですが、返信用の封筒に入れて、2月15日(日)までにご投函下さいますよう、お願いします。

「有権者の政治に関する意識調査」 数字は%

回答は質問番号、矢印に従って進んでください。あてはまる番号に をつけて頂くものと、ご意見等を記入して頂くものがあります。記入は鉛筆又は黒ボールペンをお願いします。

名前をお書きになる必要はありません。右上にある「整理番号」は、調査票が返送されたかどうかの確認や集計を匿名で行うために用意させていただいたものです。

Q 1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？ それぞれ1つ選んで番号に をつけてください。

(1) 努力すればいつか報われる。

38.6	そう思う	7.0	そうは思わない	n=2226
45.6	どちらかといえばそう思う	3.2	わからない	
5.3	どちらかといえばそうは思わない	0.3	無回答	

(2) みんなが力を合わせたら社会を変えることができる。

44.7	そう思う	5.9	そうは思わない	n=2226
38.8	どちらかといえばそう思う	3.5	わからない	
6.9	どちらかといえばそうは思わない	0.2	無回答	

(3) 将来のことよりも今の生活を楽しまたい。

14.2	そう思う	30.8	そうは思わない	n=2226
28.3	どちらかといえばそう思う	4.5	わからない	
21.6	どちらかといえばそうは思わない	0.4	無回答	

(4) 生活できるならば定職につく必要はない。

7.3	そう思う	71.8	そうは思わない	n=2226
8.0	どちらかといえばそう思う	1.8	わからない	
10.7	どちらかといえばそうは思わない	0.4	無回答	

Q 2 次のことについて、自分にあてはまると思うものを、すべて選んで番号に をつけてください。

11.0	ゴミのポイ捨てをすることがある	33.7	仕事や勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ	
15.8	電車やバスの中で化粧する人を見ても気にならない	31.0	人付き合いが苦手だ	n=2226
14.4	ボランティア活動には興味がない	27.8	無回答	回答計 133.6

Q 3 あなたは誰かと政治的な事柄を話題にしたり、議論をしたりすることがありますか。1つ選んで番号に をつけてください。

4.9	毎日ある	14.1	まったくない	n=2226
24.2	週に何回かある	14.6	その他()	
37.8	週に1度ぐらいある	4.0	わからない	0.5 無回答

Q 4 あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。1つ選んで番号に をつけてください。

18.3	非常に関心がある	2.4	全然関心がない	n=2226
61.8	ある程度関心がある	1.3	わからない	
16.1	あまり関心がない	0.2	無回答	

Q 5 あなたは、今関心をもっている政治的な問題がありますか。あれば具体的にお書きください。

Q 6 あなたは、ふだん何党を支持していращやいますか。1つ選んで番号に をつけてください。 n=2226

29.6 自由民主党	2.0 日本共産党	0.1 新党日本	0.6 その他(Q 7 へ)
16.8 民主党	1.3 社会民主党	- 改革クラブ	36.8 支持政党なし
3.5 公明党	0.2 国民新党	0.1 新党大地	5.8 わからない
		3.4 無回答	回答計 100.4

Q 6 S Q (「支持政党なし」、「わからない」と答えた方に)

あなたは支持するまでではなくても、ふだん好ましいと思っている政党がありますか。あれば1つ選んで番号に をつけてください。

n=948

10.9 自由民主党	3.8 日本共産党	0.5 新党日本	1.2 その他
19.6 民主党	1.8 社会民主党	- 改革クラブ	42.4 ない
0.8 公明党	0.5 国民新党	0.4 新党大地	16.1 わからない
		2.2 無回答	回答計 100.3

Q 7 あなたは、自分自身の生活と政治とはどの程度関係しているとお考えですか。1つ選んで番号に をつけてください。

27.8 非常に関係している	4.5 全然関係していない	n=2226
43.5 ある程度関係している	3.6 わからない	
18.2 あまり関係していない	2.3 無回答	

Q 8 国民と選挙や政治の関わりあいに関する次のことについて、それぞれあなたのお気持ちを1つ選んで番号に をつけてください。

(1) 自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、投票しても無駄である。

6.4 そう思う	68.0 そうは思わない	n=2226
11.8 どちらかといえばそう思う	3.5 わからない	
9.6 どちらかといえばそうは思わない	0.7 無回答	

(2) 選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくてもかまわない。

3.4 そう思う	76.1 そうは思わない	n=2226
7.9 どちらかといえばそう思う	2.0 わからない	
10.2 どちらかといえばそうは思わない	0.4 無回答	

(3) 自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない。

34.0 そう思う	22.6 そうは思わない	n=2226
29.6 どちらかといえばそう思う	5.6 わからない	
7.5 どちらかといえばそうは思わない	0.6 無回答	

(4) 自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい。

4.8 そう思う	77.2 そうは思わない	n=2226
6.6 どちらかといえばそう思う	3.4 わからない	
7.6 どちらかといえばそうは思わない	0.4 無回答	

Q 9 今回の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。1つ選んで番号に をつけてください。

27.5 国会議員	7.7 国民一人一人	1.5 その他 ()
41.2 官僚	3.9 大企業	7.5 わからない n=2226
5.3 首相	5.3 マスコミ	1.2 無回答 回答計 101.0

Q 10 あなたは、今の日本の政治のあり方に、どの程度満足していますか。1つ選んで番号に をつけてください。

1.1 かなり満足	23.9 やや不満	n=2226
3.6 まあ満足	55.2 かなり不満	
13.3 どちらともいえない	2.5 わからない	0.5 無回答

Q 11 あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。それぞれあなたのお気持ちを1つ選んで番号に をつけてください。

(1) 選挙制度

8.3 かなり信頼できる	12.2 ほとんど信頼できない	n=2226
43.8 ある程度信頼できる	8.5 わからない	
26.8 あまり信頼できない	0.4 無回答	

(2) 政党

2.2 かなり信頼できる	22.3 ほとんど信頼できない	n=2226
23.8 ある程度信頼できる	8.4 わからない	
42.5 あまり信頼できない	0.8 無回答	

(3) 国会

1.5 かなり信頼できる	27.2 ほとんど信頼できない	n=2226
20.6 ある程度信頼できる	7.9 わからない	
42.3 あまり信頼できない	0.5 無回答	

(4) 中央省庁

0.8 かなり信頼できる	27.4 ほとんど信頼できない	n=2226
15.9 ある程度信頼できる	18.0 わからない	
37.6 あまり信頼できない	0.3 無回答	

(5) マスコミ

1.9 かなり信頼できる	20.4 ほとんど信頼できない	n=2226
30.7 ある程度信頼できる	8.2 わからない	
38.4 あまり信頼できない	0.4 無回答	

Q 12 あなたは選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。1つ選んで番号に をつけてください。

35.7 投票することは、国民の義務である	n=2226
38.5 投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない	
24.0 投票する、しないは個人の自由である	
1.4 わからない	0.3 無回答

Q 13 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。
1つ選んで番号に をつけてください。

- | | |
|---|---------|
| 8.2 投票するかしないかは個人の自由なので、別にかまわないと思う | n=2226 |
| 29.6 自分たちの代表を選ぶ選挙だから、好ましくはないが、やむをえないと思う | |
| 57.7 投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずべきだと思う | |
| 2.8 わからない | 1.7 無回答 |

Q 14 期日前投票制度をご存知ですか。1つ選んで番号に をつけてください。

- | | | | |
|------------|-------------------|---------|--------|
| 91.0 知っている | 7.5 知らない (Q 15 へ) | 1.4 無回答 | n=2226 |
|------------|-------------------|---------|--------|

Q 14 S Q (「知っている」と答えた方に)

期日前投票制度について、次のうち正しいと思うものをすべて選んで番号に をつけてください。

- | | |
|---|---------|
| 90.6 投票日に仕事があるときは期日前投票をすることができる | n=2026 |
| 16.2 投票日に友人の結婚式に出席するときは期日前投票をすることができない | |
| 14.2 投票日にレジャーで出かける予定があるときは期日前投票をすることができない | |
| 7.1 期日前投票は平日しかできない | |
| 43.8 期日前投票は午後8時までできる | |
| 5.3 わからない | 0.6 無回答 |
| 回答計 177.8 | |

Q 15 次にあげる政党の現在の党首は、誰でしょうか。下の人物リスト(1～16)から選んで()内に番号をお書きください。

政党	ア 自由民主党 ()	ウ 公明党 ()	オ 社会民主党 ()
別紙参照	イ 民主党 ()	エ 日本共産党 ()	カ 国民新党 ()

人物	1 麻生太郎	5 小沢一郎	9 小泉純一郎	13 福田康夫
	2 安倍晋三	6 亀井静香	10 志位和夫	14 不破哲三
	3 太田昭宏	7 菅直人	11 土井たか子	15 綿貫民輔
	4 岡田克也	8 神崎武法	12 福島瑞穂	16 前原誠司

Q 16 政治を扱ったテレビドラマやコミックがあります。次の中から、あなたが見たり読んだりしたことがあるものを、すべて選んで番号に をつけてください。

- | | |
|------------------------------------|---------|
| 43.5 CHANGE (テレビドラマ、木村拓哉 主演) | n=2226 |
| 8.0 ザ・ホワイトハウス (テレビドラマ、アメリカ作品) | |
| 5.6 レッツ・ゴー! 永田町 (テレビドラマ、石橋貴明 主演) | |
| 3.2 加治隆介の議 (コミック、弘兼憲史 著) | |
| 6.7 クニミツの政 (コミック、安童夕馬 作) | |
| 0.4 (当)タネダミキオでございます。 (コミック、塚脇永久 画) | |
| 37.4 見たり読んだりしたことはない | |
| 6.5 わからない | 5.6 無回答 |
| 回答計 116.9 | |

Q 17 あなたのご両親についてお伺いします。あてはまるものを、すべて選んで番号に をつけてください。

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|---------|
| 63.8 親はテレビのニュース番組をよく見ていた | 35.2 親と一緒に投票所に行ったことがある | n=2226 |
| 41.2 親と政治の話をしたことがある | 25.1 親から投票に行けと言われたことがある | |
| 68.7 親は投票に行っている | 12.2 どれにもあてはまらない | 3.4 無回答 |
| 回答計 249.6 | | |

Q 18 あなたは高校までの学校の授業で、政治や選挙のことを学んだ記憶がありますか。1つ選んで番号に をつけてください。

74.0	ある	23.8	ない (Q 19 へ)	2.2	無回答	n=2226
------	----	------	---------------	-----	-----	--------

Q 18 S Q 1 (「ある」と答えた方に)

学んだ記憶がある時期を、すべて選んで番号に をつけてください。

34.6	小学校で学んだ記憶がある	5.5	わからない (Q 19 へ)	n=1647
76.4	中学校で学んだ記憶がある	3.0	無回答	
54.3	高校で学んだ記憶がある			回答計 173.9

Q 18 S Q 2 (小中高のいずれかで、「ある」と答えた方に)

次のことを学びましたか。あてはまるものを、すべて選んで番号に をつけてください。

86.9	国民主権や多数決などの民主主義の基本	10.3	投票所における投票の方法	n=1506
79.8	選挙区制や選挙権年齢などの選挙のしくみ	3.4	ディベートや模擬投票などの体験型学習	
49.8	普通選挙権実現の歴史	0.5	その他 ()	
48.7	選挙の意義と投票参加の重要性	1.6	わからない	1.3 無回答 回答計 282.3

Q 19 学校で、政治や選挙の重要性を教えることは必要だと思いますか。1つ選んで番号に をつけてください。

87.3	必要	2.2	必要でない	8.4	わからない	2.0	無回答	n=2226
------	----	-----	-------	-----	-------	-----	-----	--------

Q 20 あなたの高校までの学校では、投票による児童会・生徒会選挙がありましたか。あてはまるものを、すべて選んで番号に をつけてください。

38.7	小学校であった	12.2	ない	n=2226
63.9	中学校であった	8.4	わからない	
47.3	高校であった	4.2	無回答	回答計 174.7

Q 21 無党派層という言葉がよく使われますが、あなたは自分自身を無党派層だと思いますか。1つ選んで番号に をつけてください。

32.7	無党派層だと思う	45.4	無党派層だとは思わない	20.0	わからない	1.9	無回答	n=2226
------	----------	------	-------------	------	-------	-----	-----	--------

Q 22 あなたは新聞をどのくらいお読みになりますか。1つ選んで番号に をつけてください。

63.1	毎日読んでいる	7.2	まったく読まない	(Q 23 へ)	n=2226
15.0	週に何回か読んでいる	0.5	わからない		
13.3	あまり読まない (Q 23 へ)	0.8	無回答		

Q 22 S Q (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

政治面をどのくらいお読みになりますか。1つ選んで番号に をつけてください。

43.2	毎日読んでいる	2.5	まったく読まない	n=1739
35.3	週に何回か読んでいる	0.2	わからない	
17.9	あまり読まない	1.0	無回答	

Q 2 3 あなたはテレビをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に をつけてください。

88.8 毎日見ている	0.7 まったく見ない	} (Q 2 4 へ)	n=2226
6.1 週に何回か見ている	0.1 わからない		
3.5 あまり見ない (Q 2 4 へ)	0.9 無回答		

Q 2 3 S Q (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

ニュース番組をどのくらい見ますか。1つ選んで番号に をつけてください。

83.0 毎日見ている	0.3 まったく見ない	}	n=2112
13.1 週に何回か見ている	- わからない		
2.7 あまり見ない	0.8 無回答		

Q 2 4 あなたはインターネットをどのくらい使っていますか。1つ選んで番号に をつけてください。

26.5 毎日使う	37.5 まったく使わない	} (Q 2 5 へ)	n=2226
18.4 週に何回か使う	2.3 わからない		
12.6 あまり使わない (Q 2 5 へ)	2.7 無回答		

Q 2 4 S Q 1 (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

ニュースサイトをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に をつけてください。

36.0 毎日見ている	8.8 まったく見ない	}	n=1000
33.4 週に何回か見ている	0.2 わからない		
21.1 あまり見ない	0.5 無回答		

Q 2 4 S Q 2 (Q 2 4 で、「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

あなたがインターネットにアクセスするのは、主にパソコンからですか、それとも携帯電話からですか。1つ選んで番号に をつけてください。

n=1000

77.5 パソコンから	11.8 携帯電話から	- わからない	11.3 無回答	回答計 100.6
-------------	-------------	---------	----------	-----------

Q 2 5 あなたが今までで一番印象に残っている政治的な出来事はなんですか。あれば具体的にお書きください。

F 1 あなたは男性ですか、女性ですか。

49.4 男性	50.2 女性	0.4 無回答	n=2226
---------	---------	---------	--------

F 2 あなたのお年は満でいくつですか。

7.1 20～24歳	8.8 35～39歳	8.8 50～54歳	8.8 65～69歳	n=2226
6.0 25～29歳	8.0 40～44歳	9.9 55～59歳	16.0 70歳以上	
6.4 30～34歳	8.3 45～49歳	11.2 60～64歳	0.6 無回答	

F 3 あなたが最後に在籍した(または現在在籍している)学校を選んでください。

n=2226

15.0 小学校・高等小学校・新制中学校	27.5 旧制高校・旧制専門学校・大学・大学院
29.3 旧制中学校・新制高校	2.1 わからない
23.2 高等専門学校・短期大学・専修学校	2.8 無回答

F 4 あなたは何か仕事をしていますか。

64.2 仕事をしている	14.7 専業主婦	} (F 5 へ)	n=2226
3.2 学生 (F 5 へ)	16.9 無職		

→ F 4 S Q 1 (「仕事をしている」と答えた方に)

どのようなかたちで仕事をしていますか。あなたの状況に一番近いものを1つ選んで番号に をつけてください。

10.7 経営者・役員・管理職	26.3 パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託	n=1428
42.8 正社員・正職員	13.7 自営業 (家族従業を含む)	
2.9 派遣社員	2.9 その他	

→ F 4 S Q 2 (F 4 で、「仕事をしている」と答えた方に)

下記のように分類した場合、どれにあたりますか。1つ選んで番号に をつけてください。

4.5 農・林・水産業に関わる仕事	n=1428
1.6 保安の仕事 (警察、消防、自衛隊、警備など)	
5.9 運輸・通信の仕事 (トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など)	
21.6 製造業の仕事 (製品製造、建設、土木など)	
26.5 販売・サービスの仕事	
15.4 専門・技術の仕事 (医師、看護師、弁護士、教師、デザイナーなど)	
14.8 事務の仕事 (企業・官公庁における事務、経理、内勤の仕事など)	
7.8 その他 ()	

F 5 あなたは結婚していらっしゃいますか。

72.1 結婚している (F 6 へ)	27.0 結婚していない	0.9 無回答	n=2226
---------------------	--------------	---------	--------

F 5 S Q (「結婚していない」と答えた方に)

あなたは一人住まいですか、親や家族と同居していますか。

29.3 一人住まい	64.0 親や家族と同居	5.7 その他	1.0 無回答	n=600
------------	--------------	---------	---------	-------

F 6 あなたは、このような団体に加入していますか。あてはまるものをすべて選んで番号に をつけてください。

5.8 政治家の後援会	4.9 宗教団体	n=2226
40.3 自治会・町内会	21.5 同好会・趣味のグループ	
3.9 婦人会	1.0 住民運動・消費者運動・市民運動の団体	
1.2 青年団・消防団	3.4 学校での自治会・部会・サークル	
6.2 老人クラブ (会)	3.1 NPO・地域づくり団体	
8.1 PTA	2.1 その他 ()	
3.5 農協その他の農林漁業団体	31.6 どれにも加入していない	
6.4 労働組合	1.1 わからない	
2.2 商工業関係の経済団体	3.6 無回答	回答計 150.1

長い時間ご協力いただきまして、ありがとうございました。

回答された日付をご記入ください。
(月 日)

恐縮ですが、返信用の封筒に入れて、2月15日(日)までにご投函下さいますよう、お願いします。

若者調査と有権者調査の回答の単純比較表

数値は%

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか。それぞれ1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)(1)努力すればいつか報われる。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
そう思う	40.8	37.5	38.6
どちらかといえばそう思う	42.0	44.1	45.6
どちらかといえばそうは思わない	5.3	7.0	5.3
そうは思わない	7.4	7.8	7.0
わからない	4.3	3.6	3.2
無回答	0.2	0.1	0.3

Q1(2)みんなが力を合わせたら社会を変えることができる。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
そう思う	44.5	39.9	44.7
どちらかといえばそう思う	33.2	36.0	38.8
どちらかといえばそうは思わない	7.6	9.0	6.9
そうは思わない	9.0	9.6	5.9
わからない	5.5	5.5	3.5
無回答	0.2	0.1	0.2

Q1(3)将来のことよりも今の生活を楽しみたい。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
そう思う	21.9	12.3	14.2
どちらかといえばそう思う	30.1	28.5	28.3
どちらかといえばそうは思わない	19.5	22.2	21.6
そうは思わない	19.7	30.0	30.8
わからない	8.0	6.8	4.5
無回答	0.8	0.2	0.4

Q1(4)生活できるならば定職につく必要はない。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
そう思う	4.7	10.0	7.3
どちらかといえばそう思う	7.0	9.1	8.0
どちらかといえばそうは思わない	13.1	12.2	10.7
そうは思わない	71.1	65.4	71.8
わからない	3.9	3.4	1.8
無回答	0.2	0.0	0.4

Q2 次のことについて、自分にあてはまると思うものを、すべて選んでください。(あてはまるものすべて)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
ゴミのポイ捨てをすることがある	19.9	15.7	11.0
電車やバスの中で化粧する人を見ても気にならない	28.1	26.8	15.8
ボランティア活動には興味が無い	17.8	19.7	14.4
仕事や勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ	60.2	50.7	33.7
人付き合いが苦手だ	29.3	29.5	31.0
無回答	11.1	15.0	27.8
回答計(複数回答)	166.4	157.4	133.6

Q3 あなたは誰かと政治的な事柄を話題にしたり、議論をしたりすることがありますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
毎日ある	3.5	3.2	4.9
週に何回かある	16.4	19.2	24.2
週に1度ぐらいある	29.9	36.9	37.8
まったくない	31.6	22.0	14.1
その他	10.7	13.4	14.6
わからない	7.8	5.2	4.0
無回答	0.2	0.1	0.5

Q4 あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
非常に関心がある	8.0	8.2	18.3
ある程度関心がある	42.8	51.2	61.8
あまり関心がない	34.8	30.7	16.1
全然関心がない	9.0	6.9	2.4
わからない	5.1	3.0	1.3
無回答	0.2	0.1	0.2

Q6 あなたは、ふだん何党を支持していच्छやいますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
自由民主党	9.0	15.2	29.6
民主党	6.4	9.2	16.8
公明党	1.4	2.2	3.5
日本共産党	0.4	1.3	2.0
社会民主党	0.0	0.5	1.3
国民新党	0.0	0.1	0.2
新党日本	0.0	0.0	0.1
改革クラブ	0.0	0.0	0.0
新党大地	0.0	0.1	0.1
その他	0.0	0.7	0.6
支持政党なし	45.7	54.6	36.8
わからない	34.8	14.4	5.8
無回答	2.3	1.7	3.4

Q6SQ あなたは支持するまでではなくても、ふだん好ましいと思っている政党がありますか。あれば1つ選んでください。(回答は1つ) ■Q6で「支持政党なし」、「わからない」と答えた方にお伺いします。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
自由民主党	11.5	13.6	10.9
民主党	8.7	11.5	19.6
公明党	0.8	0.8	0.8
日本共産党	1.5	2.2	3.8
社会民主党	0.3	0.8	1.8
国民新党	0.3	0.3	0.5
新党日本	0.3	0.4	0.5
改革クラブ	0.3	0.0	0.0
新党大地	0.5	0.3	0.4
その他	0.3	0.6	1.2
ない	42.7	48.3	42.4
わからない	31.0	19.6	16.1
無回答	2.0	2.7	2.2

Q7 あなたは、自分自身の生活と政治とはどの程度関係しているとお考えですか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
非常に関係している	17.2	22.1	27.8
ある程度関係している	42.4	45.5	43.5
あまり関係していない	18.4	19.3	18.2
全然関係していない	5.7	5.5	4.5
わからない	10.0	5.4	3.6
無回答	6.1	2.2	2.3

Q8 国民と選挙や政治の関わりあいに関する次のことについて、それぞれあなたのお気持ちを1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)(1) 自分の支持している政党や候補者が勝つ見込みがないときには、投票しても無駄である。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
そう思う	8.0	9.0	6.4
どちらかといえばそう思う	9.0	13.7	11.8
どちらかといえばそうは思わない	12.1	12.4	9.6
そうは思わない	55.9	56.8	68.0
わからない	14.3	7.8	3.5
無回答	0.6	0.3	0.7

Q8(2) 選挙では大勢の人が投票するのだから、自分一人くらい投票しなくてもかまわない。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
そう思う	4.1	7.5	3.4
どちらかといえばそう思う	12.7	16.8	7.9
どちらかといえばそうは思わない	14.1	15.2	10.2
そうは思わない	61.9	56.2	76.1
わからない	6.1	4.0	2.0
無回答	1.0	0.3	0.4

Q8(3) 自分には政府のすることに対して、それを左右する力はない。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
そう思う	34.8	40.5	34.0
どちらかといえばそう思う	28.9	30.6	29.6
どちらかといえばそうは思わない	8.6	8.7	7.5
そうは思わない	15.8	13.4	22.6
わからない	11.3	6.7	5.6
無回答	0.6	0.1	0.6

Q8(4) 自分のように政治のことがよくわからない者は投票しない方がいい。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
そう思う	15.0	10.3	4.8
どちらかといえばそう思う	15.2	12.3	6.6
どちらかといえばそうは思わない	14.3	13.4	7.6
そうは思わない	43.4	56.1	77.2
わからない	11.5	7.7	3.4
無回答	0.6	0.3	0.4

Q9 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
国会議員	30.7	29.8	27.5
官僚	17.0	31.1	41.2
首相	9.4	6.7	5.3
国民一人一人	9.8	5.7	7.7
大企業	3.5	5.4	3.9
マスコミ	13.7	11.4	5.3
その他	3.3	3.3	1.5
わからない	13.1	8.5	7.5
無回答	1.0	0.6	1.2

Q10 あなたは、今の日本の政治のあり方に、どの程度満足していますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
かなり満足	0.2	0.9	1.1
まあ満足	2.7	1.8	3.6
どちらともいえない	15.0	15.9	13.3
やや不満	26.8	25.0	23.9
かなり不満	44.5	51.3	55.2
わからない	10.2	4.9	2.5
無回答	0.6	0.3	0.5

Q11 あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。それぞれあなたのお気持ちを1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)(1)選挙制度

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
かなり信頼できる	5.9	5.3	8.3
ある程度信頼できる	41.2	40.8	43.8
あまり信頼できない	21.9	26.7	26.8
ほとんど信頼できない	11.9	15.1	12.2
わからない	18.4	11.8	8.5
無回答	0.6	0.4	0.4

Q11(2)政党

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
かなり信頼できる	0.4	0.6	2.2
ある程度信頼できる	11.9	10.9	23.8
あまり信頼できない	38.3	41.7	42.5
ほとんど信頼できない	26.6	34.1	22.3
わからない	21.9	12.5	8.4
無回答	0.8	0.2	0.8

Q11(3)国会

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
かなり信頼できる	0.8	0.5	1.5
ある程度信頼できる	12.5	10.5	20.6
あまり信頼できない	35.7	41.4	42.3
ほとんど信頼できない	30.9	37.9	27.2
わからない	19.5	9.5	7.9
無回答	0.6	0.1	0.5

Q11(4)中央省庁

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
かなり信頼できる	1.0	0.7	0.8
ある程度信頼できる	11.1	11.6	15.9
あまり信頼できない	25.0	33.8	37.6
ほとんど信頼できない	20.1	29.8	27.4
わからない	42.2	23.9	18.0
無回答	0.6	0.2	0.3

Q11(5)マスコミ

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
かなり信頼できる	3.1	2.0	1.9
ある程度信頼できる	20.1	22.5	30.7
あまり信頼できない	35.2	38.1	38.4
ほとんど信頼できない	28.5	28.8	20.4
わからない	12.5	8.5	8.2
無回答	0.6	0.1	0.4

Q12 あなたは選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
投票することは、国民の義務である	30.5	26.4	35.7
投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない	34.6	29.6	38.5
投票する、しないは個人の自由である	31.4	41.3	24.0
わからない	2.9	2.5	1.4
無回答	0.6	0.2	0.3

Q13 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
投票するかしないかは個人の自由なので、別にかまわないと思う	14.8	14.9	8.2
自分たちの代表を選ぶ選挙だから、好ましくはないが、やむをえないと思う	35.2	36.5	29.6
投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずべきだと思う	43.2	44.3	57.7
わからない	6.1	3.5	2.8
無回答	0.6	0.8	1.7

Q14 期日前投票制度をご存知ですか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
知っている	50.4	77.4	91.0
知らない	49.0	22.1	7.5
無回答	0.6	0.5	1.4

Q14SQ 期日前投票制度について、次のうち正しいと思うものをすべて選んでください。(あてはまるものすべて) ■
Q14で「知っている」と答えた方にお伺いします。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
投票日に仕事があるときは期日前投票をすることができる	85.4	88.6	90.6
投票日に友人の結婚式に出席するときは期日前投票をすることができない	17.1	10.9	16.2
投票日にレジャーで出かける予定があるときは期日前投票をすることができない	22.4	11.0	14.2
期日前投票は平日しかできない	8.9	7.4	7.1
期日前投票は午後8時までできる	48.8	44.5	43.8
わからない	9.8	7.7	5.3
無回答	0.0	0.5	0.6
回答計(複数回答)	192.4	170.6	177.8

Q16 政治を扱ったテレビドラマやコミックがあります。次の中から、あなたが見たり読んだりしたことがあるものを、すべて選んでください。(あてはまるものすべて)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
CHANGE(テレビドラマ、木村拓哉主演)	51.0	51.3	43.5
ザ・ホワイトハウス(テレビドラマ、アメリカ作品)	2.7	4.3	8.0
レッツ・ゴー！永田町(テレビドラマ、石橋貴明主演)	3.5	4.8	5.6
加治隆介の議(コミック、弘兼憲史著)	0.2	1.0	3.2
クニミツの政(コミック、安童夕馬作)	15.0	18.6	6.7
タネダミキオでございます。(コミック、塚脇永久画)	0.2	0.3	0.4
見たり読んだりしたことはない	33.4	33.8	37.4
わからない	7.6	3.9	6.5
無回答	1.4	1.8	5.6
回答計(複数回答)	115.0	119.8	116.9

Q17 あなたのご両親についてお伺いします。あてはまるものを、すべて選んでください。(あてはまるものすべて)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
親はテレビのニュース番組をよく見ていた	74.8	74.7	63.8
親と政治の話をしたことがある	51.6	54.1	41.2
親は投票に行っている	80.1	80.7	68.7
親と一緒に投票所に行ったことがある	34.8	45.7	35.2
親から投票に行けと言われたことがある	1.6	43.0	25.1
どれにもあてはまらない	4.1	3.9	12.2
無回答	0.0	0.2	3.4
回答計(複数回答)	247.0	302.3	249.6

Q18 あなたは高校までの学校の授業で、政治や選挙のことを学んだ記憶がありますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
ある	92.6	87.1	74.0
ない	7.0	12.7	23.8
無回答	0.4	0.2	2.2

Q18SQ1 学んだ記憶がある時期を、すべて選んでください。(あてはまるものすべて) ■Q18で「ある」と答えた方にお伺いします。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
小学校で学んだ記憶がある	35.6	39.1	34.6
中学校で学んだ記憶がある	86.9	82.8	76.4
高校で学んだ記憶がある	70.8	67.3	54.3
わからない	1.5	3.4	5.5
無回答	0.7	1.1	3.0
回答計(複数回答)	195.5	193.7	173.9

Q18SQ2 次のことを学びましたか。あてはまるものを、すべて選んでください。(あてはまるものすべて) ■Q18SQ1で小中高のいずれかで、「ある」と答えた方にお伺いします。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
国民主権や多数決などの民主主義の基本	86.7	85.6	86.9
選挙区制や選挙権年齢などの選挙のしくみ	88.7	85.8	79.8
普通選挙権実現の歴史	59.3	54.6	49.8
選挙の意義と投票参加の重要性	40.7	40.6	48.7
投票所における投票の方法	23.5	14.5	10.3
ディベートや模擬投票などの体験型学習	14.9	12.0	3.4
その他	0.9	0.7	0.5
わからない	2.7	3.3	1.6
無回答	0.2	0.7	1.3
回答計(複数回答)	317.6	297.8	282.3

Q19 学校で、政治や選挙の重要性を教えることは必要だと思いますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
必要	83.8	84.6	87.3
必要でない	2.5	3.1	2.2
わからない	12.7	11.4	8.4
無回答	1.0	0.8	2.0

Q20 あなたの高校までの学校では、投票による児童会・生徒会選挙がありましたか。あてはまるものを、すべて選んでください。(あてはまるものすべて)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
小学校であった	33.4	48.2	38.7
中学校であった	88.3	78.2	63.9
高校であった	78.7	57.5	47.3
ない	2.7	5.9	12.2
わからない	3.3	6.7	8.4
無回答	1.0	0.8	4.2
回答計(複数回答)	207.4	197.3	174.7

Q21 無党派層という言葉がよく使われますが、あなたは自分自身を無党派層だと思いますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
無党派層だと思う	40.0	46.6	32.7
無党派層だとは思わない	11.3	18.5	45.4
わからない	48.2	34.1	20.0
無回答	0.6	0.8	1.9

Q22 あなたは新聞をどのくらいお読みになりますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
毎日読んでいる	17.6	23.0	63.1
週に何回か読んでいる	23.8	23.1	15.0
あまり読まない	33.4	32.0	13.3
まったく読まない	23.6	21.1	7.2
わからない	1.4	0.5	0.5
無回答	0.2	0.2	0.8

Q22SQ 政治面をどのくらいお読みになりますか。1つ選んでください。(回答は1つ) ■Q22で「毎日」、「週に何回か」と答えた方にお伺いします。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
毎日読んでいる	8.9	17.3	43.2
週に何回か読んでいる	33.2	43.5	35.3
あまり読まない	43.6	30.9	17.9
まったく読まない	13.4	7.1	2.5
わからない	1.0	0.1	0.2
無回答	0.0	1.1	1.0

Q23 あなたはテレビをどのくらい見ますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
毎日見ている	84.4	76.3	88.8
週に何回か見ている	7.2	12.3	6.1
あまり見ない	7.2	7.8	3.5
まったく見ない	0.2	2.2	0.7
わからない	0.6	0.3	0.1
無回答	0.4	1.1	0.9

Q23SQ ニュース番組をどのくらい見ますか。1つ選んでください。(回答は1つ) ■Q23で「毎日」、「週に何回か」と答えた方にお伺いします。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
毎日見ている	59.3	62.1	83.0
週に何回か見ている	28.0	29.1	13.1
あまり見ない	10.7	7.2	2.7
まったく見ない	1.6	0.6	0.3
わからない	0.0	0.1	0.0
無回答	0.4	1.0	0.8

Q24 あなたはインターネットをどのくらい使っていますか。1つ選んでください。(回答は1つ)

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
毎日使う	29.1	46.2	26.5
週に何回か使う	42.6	28.5	18.4
あまり使わない	17.6	13.7	12.6
まったく使わない	8.2	10.6	37.5
わからない	0.8	0.6	2.3
無回答	1.6	0.4	2.7

Q24SQ1 ニュースサイトをどのくらい見ますか。1つ選んでください。(回答は1つ) ■Q24で「毎日」、「週に何回か」と答えた方にお伺いします。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
毎日見ている	14.9	32.4	36.0
週に何回か見ている	26.9	31.9	33.4
あまり見ない	35.1	22.3	21.1
まったく見ない	22.6	11.9	8.8
わからない	0.3	0.3	0.2
無回答	0.3	1.2	0.5

Q24SQ2 あなたがインターネットにアクセスするのは、主にパソコンからですか、それとも携帯電話からですか。1つ選んでください。(回答は1つ) ■Q24で「毎日」、「週に何回か」と答えた方にお伺いします。

	若者調査		有権者調査
	16－19歳	20－29歳	
パソコンから	42.0	64.3	77.5
携帯電話から	38.0	24.1	11.8
わからない	0.3	0.2	0.0
無回答	20.0	12.3	11.3

若い有権者の意識調査(第3回)

調査結果の概要

平成 22 年 1 月発行

編集・発行 財団法人明るい選挙推進協会

住所 東京都千代田区五番町 14 番地 国際中正會館 7 階

郵便番号 102-0076

電話番号 03-6380-9891

ファクシミリ番号 03-5215-6780

ホームページアドレス <http://www.akaruisenkya.or.jp/>

メールアドレス akaruisenkya@mua.biglobe.ne.jp
